
調布市
子ども・若者支援に関するニーズ調査
結果報告書



令和6年3月
調布市

目次

第1部 調査の概要	1
調査の概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査対象及び調査方法	3
3. 配布数及び回収結果	3
本調査の基本的な事項	4
1. 数値の基本的な取り扱いについて	4
2. 前回調査結果（参考）について（平成31年2月～平成31年3月に実施）	4
第2部 中学生・高校生世代対象調査	5
子ども・若者支援に関するニーズ調査【中学・高校生世代】	7
1. 居住地区について	7
(1) 居住地区	7
2. 本人と家庭の状況について	8
(1) 性別	8
(2) 年齢	9
(3) 就学等の状況	10
(4) 生計を一にする家族	11
(5) 生計を一にするが同居していない家族	11
3. 人とのつながりについて	12
(1) 居場所	12
(2) 孤独であると感じることがあるか	14
4. 他者との関わりについて	15
(1) 家族・親せきとの関わり	15
(2) 学校の友だちとの関わり	16
(3) 地域の人との関わり	17
(4) インターネット空間との関わり	18
(5) 家での過ごし方	19
(6) 学習や仕事以外のインターネット利用時間/日	21
(7) インターネットを利用する際に課題と感ずること	22
(8) ふだん利用するソーシャルメディア・通信手段	23
5. ふだんの外出の状況について	24
(1) ふだんの外出状況	24
(2) 現在の状態になった年齢	26
(3) 現在の状態が続いている期間	27
(4) 現在の状態になった主な理由	28

(5) 現在の状態になった最も大きな理由.....	30
(6) 利用状況 ① 児童館	31
(7) 利用状況 ② 青少年ステーション CAPS	31
(8) 利用状況 ③ 子ども・若者総合支援事業 ここあ.....	32
(9) 直近6か月間で家族以外の人と会話したか.....	33
6. 落ち込んだ経験について.....	34
(1) うまくいかず気分が落ち込んだ経験.....	34
(2) 落ち込んだ状態から元にもどった経験.....	35
(3) 落ち込んだ状態から元にもどったきっかけ.....	36
(4) 相談したり助けてもらったりしやすい人.....	38
(5) 相談したくないと思う理由	40
(6) 家庭や学校外での相談場所の認知状況.....	42
(7) 進学・就職時支援が途切れ不安だったこと.....	44
7. ヤングケアラーについて.....	45
(1) ヤングケアラーという言葉を知っているか.....	45
8. 日常生活について.....	46
(1) 過去1年間の体験.....	46
(2) ない理由 ① アウトドアに行く.....	47
(3) ない理由 ② 動物園・水族館・美術館・映画館等に行く.....	47
(4) ない理由 ③ 遊園地やテーマパークに行く.....	48
(5) ない理由 ④ 泊りがけで家族旅行に行く.....	48
(6) ない理由 ⑤ 塾に行く.....	49
(7) ない理由 ⑥ 習い事に行く.....	49
(8) ない理由 ⑦ 学校で部活に入っている.....	50
(9) 食事は1日に何回とるか.....	50
(10) 食事の量は足りているか.....	50
(11) 足りないと思う理由.....	51
9. 調布市子ども条例及び子どもの権利について.....	51
(1) 調布市子ども条例を知っているか.....	51
(2) 子どもの権利を知っているか.....	52
(3) 大切だと思う子どもの権利.....	53
(4) 子どもの権利を守るため必要な仕組み.....	54
10. 将来の希望について.....	55
(1) 周囲の大人は意見を大事にしてくれているか.....	55
(2) 希望する進学段階.....	55
(3) 進学先の希望理由.....	56
11. 現在の悩みや調布市に必要な取組について.....	57
(1) 自由意見.....	57
(2) 市が特に取り組むべきこと.....	59

第3部 高校卒業年代～39歳対象調査..... 61

子ども・若者支援に関するニーズ調査【高校卒業年代～39歳】	63
1. 居住地区について	63
(1) 居住地区	63
2. 本人と家庭の状況について	64
(1) 性別	64
(2) 年齢	65
(3) 現在同居している人	66
(4) 主に生計を立てている人	67
(5) 主な収入源	67
(6) 最終学歴	68
(7) 学費はどのように工面したか	68
(8) 現在の状況	69
(9) 就業経験	69
3. 人とのつながりについて	70
(1) 居場所	70
(2) 孤独であると感じることがあるか	72
4. 他者との関わりについて	73
(1) 家族・親せきとの関わり	73
(2) 友人との関わり	74
(3) 職場・アルバイト関係の人との関わり	75
(4) 地域の人との関わり	76
(5) インターネット空間との関わり	77
5. 自身の将来像について	78
(1) 将来について明るい希望を持っているか	78
6. 普段の活動について	79
(1) 家での過ごし方	79
(2) 学習や仕事以外のインターネット利用時間/日	81
(3) インターネットを利用する際に課題と感ずること	82
(4) 普段利用するソーシャルメディア・通信手段	83
7. 普段の外出の状況について	84
(1) 普段の外出状況	84
(2) 現在の状態になった年齢	86
(3) 現在の状態が続いている期間	88
(4) 現在の状態になった主な理由	90
(5) 現在の状態になった最も大きな理由	92
(6) 直近6か月間で家族以外の人と会話したか	94
8. 日常生活等を円滑に送ることができなかった経験について	95
(1) 社会生活や日常生活ができなかった経験	95
(2) 社会生活や日常生活ができない状態が改善した経験	96

(3) 社会生活や日常生活ができない状態が改善したきっかけ	97
(4) 家族や知り合い以外で相談したい人・場所	99
(5) 相談したくないと思う理由	101
(6) 相談機関等の認知状況	103
(7) 相談機関等の利用の有無	105
(8) 進学・就職時支援が途切れ不安だったことはあるか	106
9. 地域活動への参画について	106
(1) 地域活動への参加意向	106
(2) 参加したいと思わない理由	107
10. 結婚・子育てに関するイメージについて	108
(1) 結婚や同棲の必要性	108
(2) 結婚や同棲の状況	109
(3) 結婚をしたい年齢	110
(4) 結婚について不安を感じる事	111
(5) 結婚をしていない理由	113
(6) 理想とする子どもの人数	115
(7) 第1子が生まれる理想の年齢	116
(8) 理想とする人数の子どもを育てるために課題となること	117
11. 現在の悩みや調布市に必要な取組について	118
(1) 自由意見	118
(2) 市が特に取り組むべきこと	122

第1部 調査の概要

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「第三期調布っ子すこやかプラン」（計画期間：令和7年度から令和11年度まで）を策定するにあたり、より多くの子ども・若者の現状やニーズを把握した上で、子ども・若者支援施策を推進するために実施した。

2. 調査対象及び調査方法

項目	今回調査		前回調査
調査対象	中学生・高校生世代の 市民	高校卒業年代から 39歳までの市民	13歳から 39歳までの市民
配布数	2,000	2,000	2,000
抽出方法	無作為抽出	無作為抽出	無作為抽出
調査方法	郵送法・Web	郵送法・Web	郵送法
調査時期	令和5年12月～ 令和6年1月	令和5年12月～ 令和6年1月	平成31年2月～ 平成31年3月
調査地域	調布市全域	調布市全域	調布市全域

3. 配布数及び回収結果

項目	今回調査		前回調査
配布数	2,000	2,000	1,981
有効回収数	紙による回答：362 web 回答：366 (合計：728)	紙による回答：193 web 回答：283 (合計：476)	552
有効回収率	紙による回答：18.1% web 回答：18.3% (合計：36.4%)	紙による回答：9.65% web 回答：14.15% (合計：23.8%)	27.9%

本調査の基本的な事項

1. 数値の基本的な取り扱いについて

- 比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100％を上下する場合もある。
- 基数となるべき実数は、“n = ○○○”として掲載し、各比率はnを100％として算出している。
- 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問である。従って、各回答の合計比率は100％を超える場合がある。

2. 前回調査結果（参考）について（平成31年2月～平成31年3月に実施）

- 前回調査と同じ又は類似の設問については、前回調査結果を参考として掲載している。
- 前回調査結果と比較可能な設問については、前回調査結果との比較を行っている。

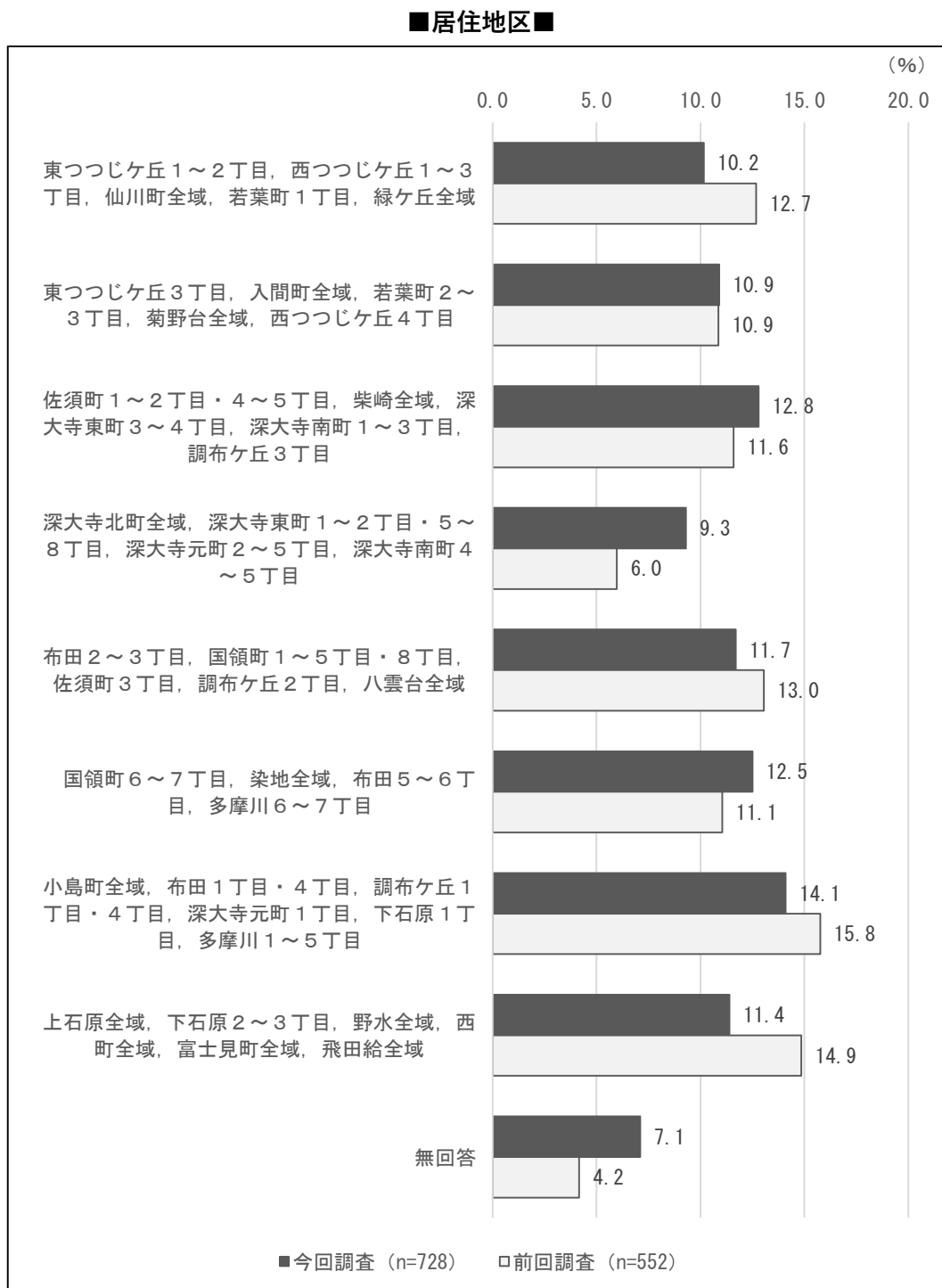
第2部 中学生・高校生世代対象調査

子ども・若者支援に関するニーズ調査【中学・高校生世代】

1. 居住地区について

(1) 居住地区

問1 お住まいの地区としてあてはまるのは次のうちどれですか。



2. 本人と家庭の状況について

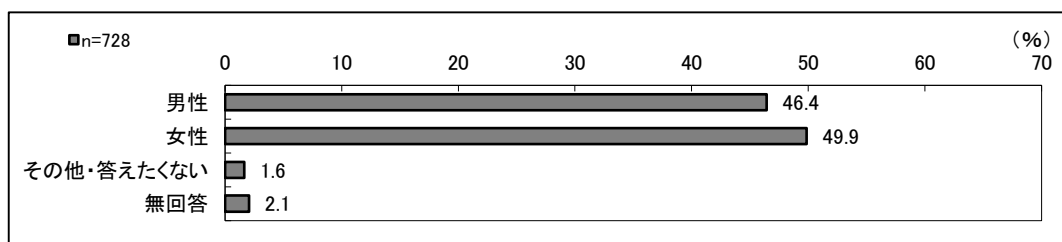
(1) 性別

問2 あなたの性別をお答えください。

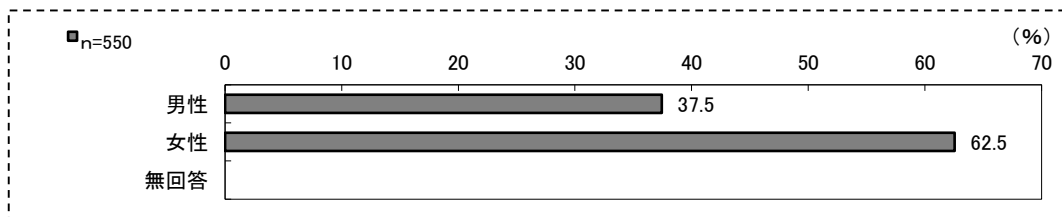
「女性」(49.9%)、「男性」(46.4%)、「その他・答えたくない」(1.6%)。
前回調査結果と比べて、「男性」の回答割合が増えている。

■性別■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



(2) 年齢

問3 あなたの令和5年4月1日現在の年齢は次のうちどれにあてはまりますか。

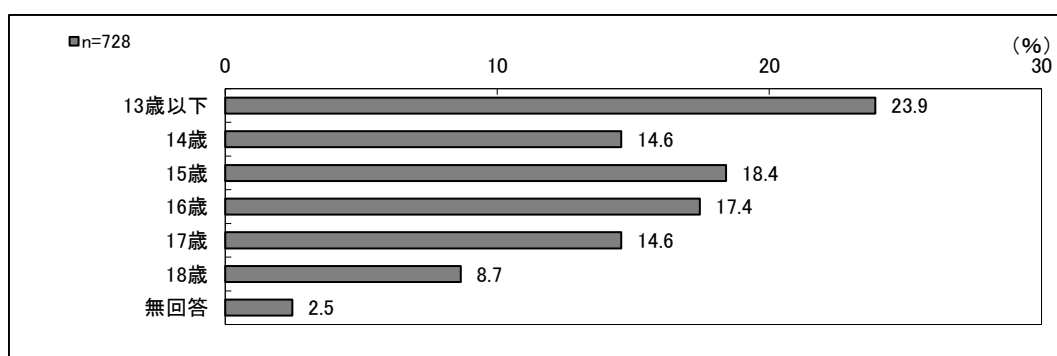
「13歳以下」(23.9%), 「15歳」(18.4%), 「16歳」(17.4%), 「14歳」(14.6%), 「17歳」(14.6%), 「18歳」(8.7%)。

年齢が上がると、回答率が低下する傾向がみられる。

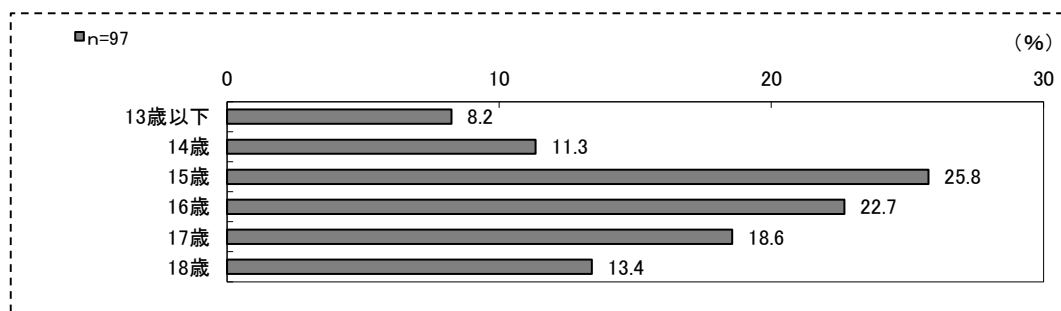
前回調査結果と比較して、13歳以下～14歳の回答が増加している。

■ 年齢 ■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



(3) 就学等の状況

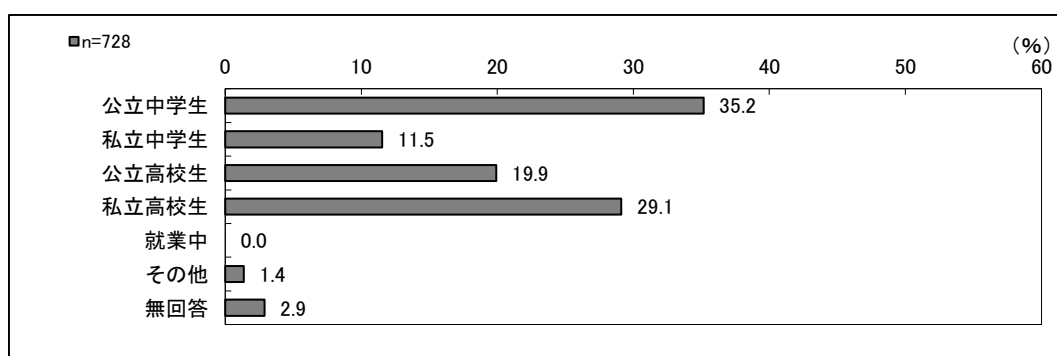
問4 現在、あなたは次のうちのどの状況にあてはまりますか。

「公立中学生」(35.2%)、「私立高校生」(29.1%)、「公立高校生」(19.9%)、「私立中学生」(11.5%)。

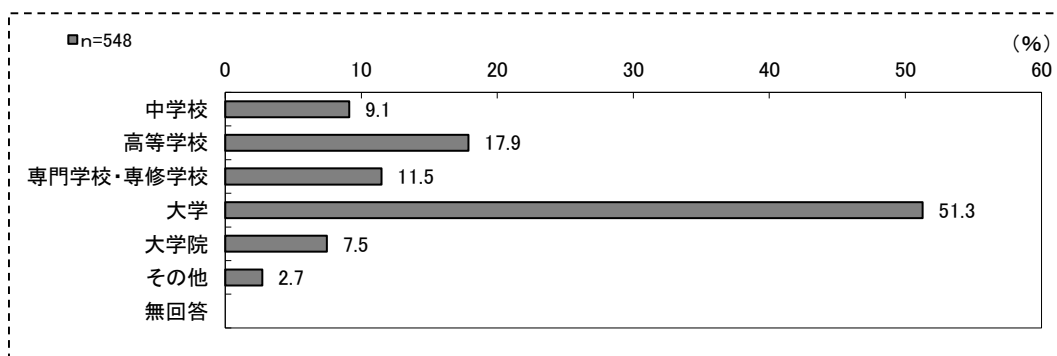
中学生では「公立中学生」の割合が「私立中学生」に比べて23.7ポイント高く、高校生では「私立高校生」の割合が「公立高校生」に比べて9.2ポイント高い。

■就学等の状況■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】

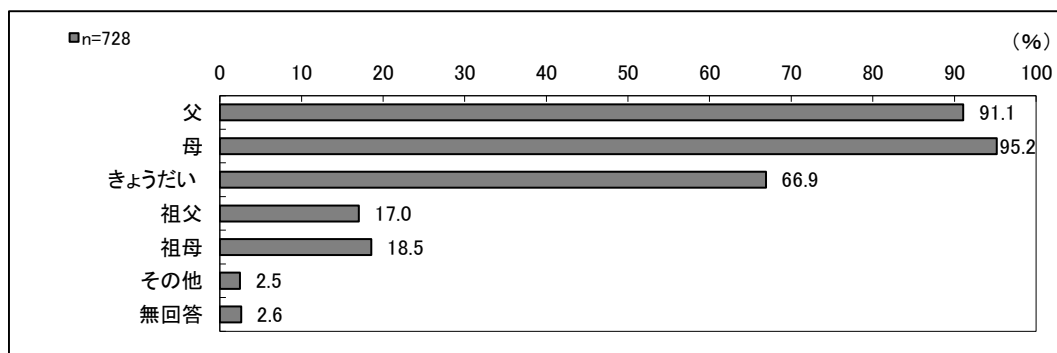


(4) 生計を一にする家族

問5 あなたと生計を一にするご家族はどなたですか。【複数回答】

「母」(95.2%)、「父」(91.1%)、「きょうだい」(66.9%)、「祖母」(18.5%)、「祖父」(17.0%)、「その他」(2.5%)。

■生計を一にする家族■

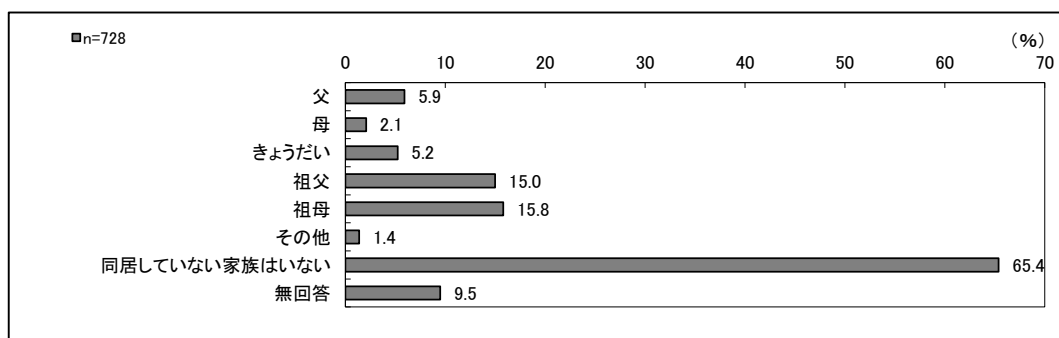


(5) 生計を一にするが同居していない家族

問6 あなたと生計を一にするご家族のうち同居していない方はいますか。【複数回答】

「祖母」(15.8%)、「祖父」(15.0%)、「父」(5.9%)、「きょうだい」(5.2%)、「母」(2.1%)、「その他」(1.4%)、「同居していない家族はいない」(65.4%)。

■生計を一にするが同居していない家族■



3. 人とのつながりについて

(1) 居場所

問7 次の(1)～(5)の場所は、今のあなたにとって居場所(ほっとできる場所, 安心できる場所)になっていますか。

(1)自分の部屋, (2)家庭(親戚の家を含む), (3)学校, (4)地域(図書館, 公民館, 児童館, CAPS, 公園, 子ども食堂など, 現在住んでいる場所やそこにある建物など), (5)インターネット空間(SNS※, YouTube やオンラインゲームなど)

「そう思う」, 「どちらかといえばそう思う」を足し合わせた“そう思う”の割合は、上位から「(2)家庭」(87.6%), 「(1)自分の部屋」(83.5%), 「(3)学校」(72.7%), 「(5)インターネット空間」(68.9%), 「(4)地域」(53.8%)となっている。

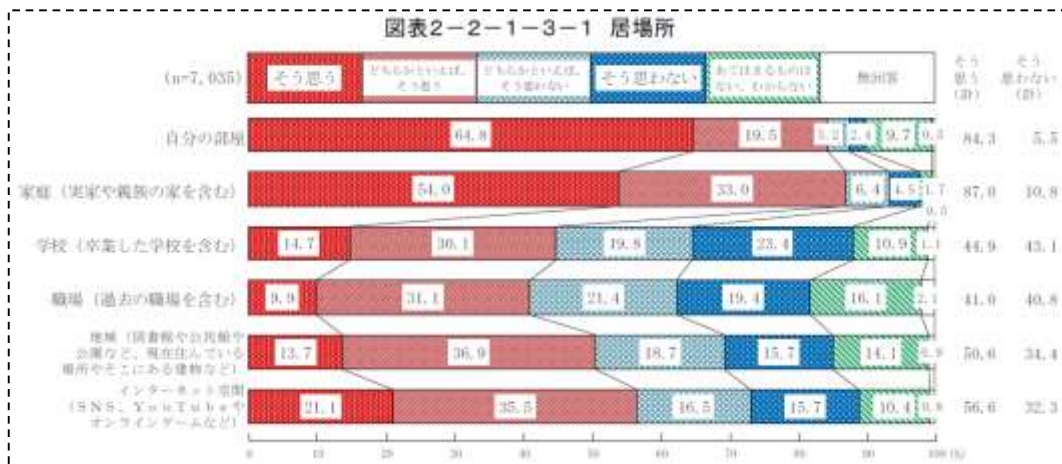
全体の7割弱がインターネット空間を居場所(ほっとできる場所, 安心できる場所)と回答している。

■居場所■

【今回調査】

(%)	回答内容					n
	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	あてはま るものは ない・わ からない	
(1) 自分の部屋	67.2			16.3	8.5	728
(2) 家庭	60.0			27.6	5.2	728
(3) 学校	36.0		36.7	11.5	8.5	728
(4) 地域	21.4	32.4	15.8	10.6	15.1	728
(5) インターネット空間	38.3		30.6	11.3	9.2	728
					4.4	

【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(2) 孤独であると感じることがあるか

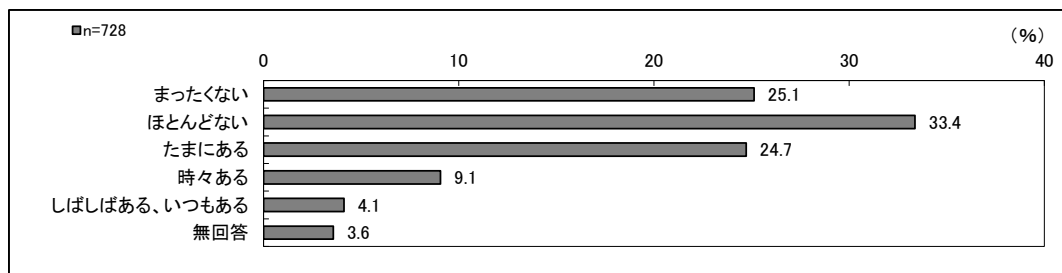
問8 あなたは、自分が孤独であると感じることがありますか。

「ほとんどない」(33.4%), 「まったくない」(25.1%), 「たまにある」(24.7%), 「時々ある」(9.1%), 「しばしばある, いつもある」(4.1%)。

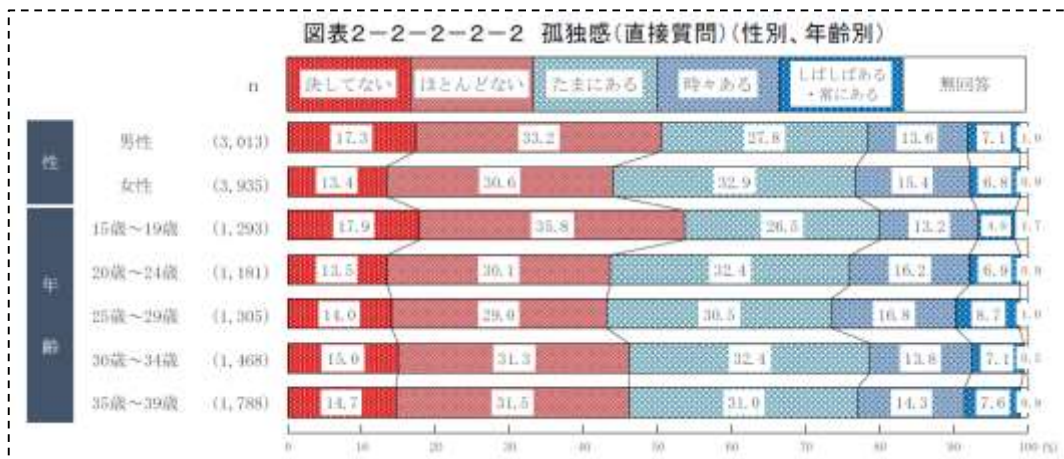
「たまにある」, 「時々ある」, 「しばしばある, いつもある」を足し合わせると、全体の37.9%にのぼる。

■孤独であると感じることがあるか■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

4. 他者との関わりについて

(1) 家族・親せきとの関わり

問9 家族・親せきとあなたの関わりは、どのようなものですか。

(1)何でも悩みを相談できる人がいる, (2)こまったときは助けてくれる, (3)他の人には言えない本音を話せることがある

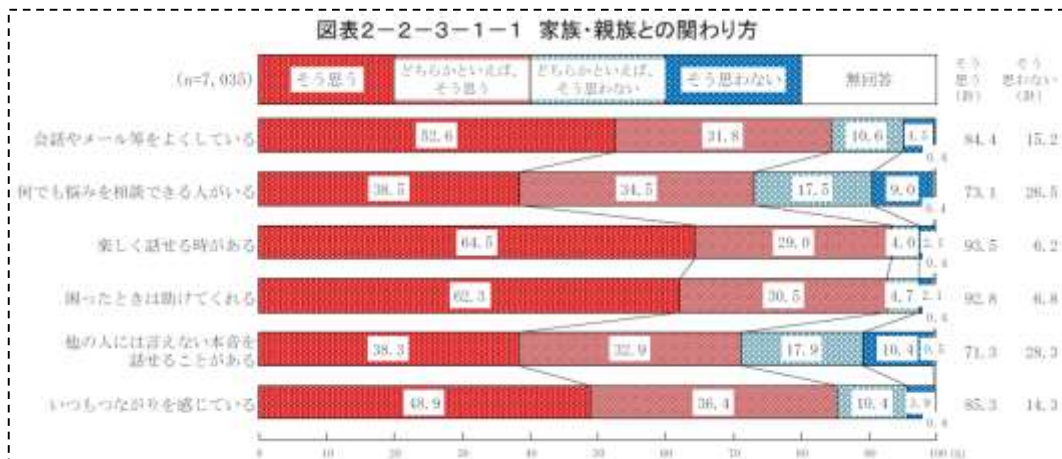
家族・親せきとの関わりについては以下のとおり。

■家族・親せきとの関わり■

【今回調査】

(%)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	n
(1) 悩みを相談できる人がいる	47.4		33.5	9.2	5.2	728
(2) こまったとき助けてくれる	69.6			21.3	4.7	728
(3) 人に言えない本音を話せる	39.4		34.2	13.6	7.7	728

【子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(2) 学校の友だちとの関わり

問 10 学校で出会った友だち（現在通っている学校やこれまでに通っていた学校の友だちなど）と、あなたの関わりは、どのようなものですか。

(1)何でも悩みを相談できる人がいる, (2)こまったときは助けてくれる, (3)他の人には言えない本音を話せることがある



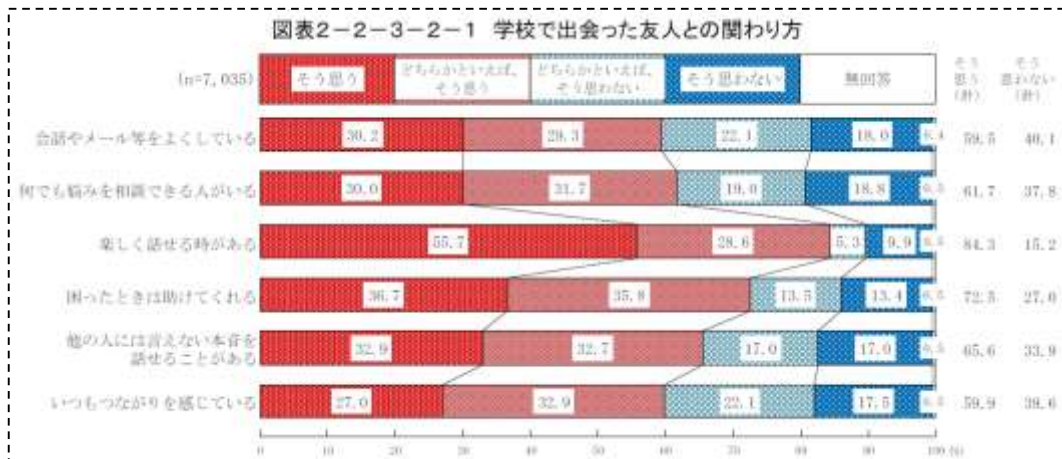
学校の友だちとの関わりについては以下のとおり。

■学校の友だちとの関わり■

【今回調査】

(%)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	n
(1) 悩みを相談できる人がいる	45.5		31.6	12.1	6.5	728
(2) こまったとき助けてくれる	57.4		29.8	5.9	4.4	728
(3) 人に言えない本音を話せる	42.9		29.9	14.6	8.1	728

【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(3) 地域の人との関わり

問 11 地域の人（近所の人、塾や習い事での友だちなど）とあなたの関わりは、どのようなものですか。

(1)何でも悩みを相談できる人がいる、(2)こまったときは助けてくれる、(3)他の人には言えない本音を話せることがある



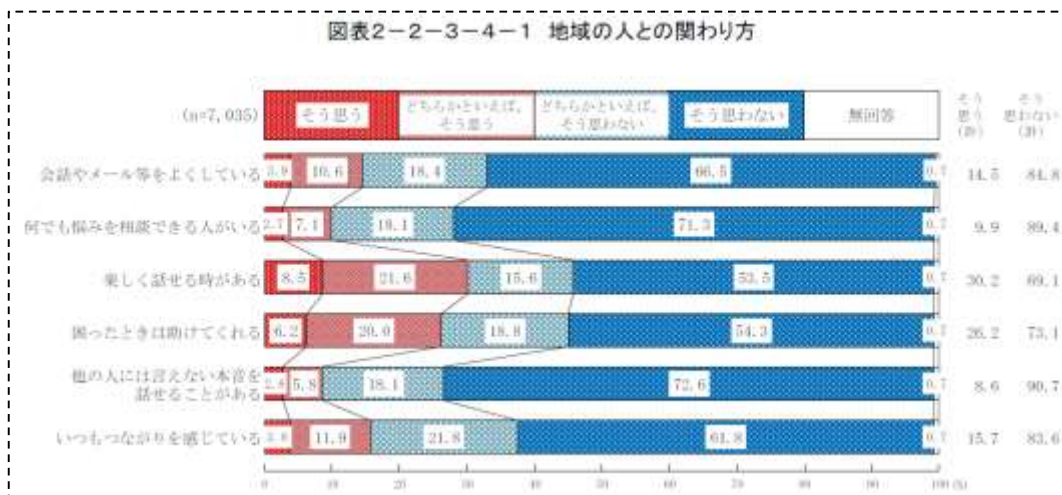
地域の人との関わりについては以下のとおり。

■地域の人との関わり■

【今回調査】

(%)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	n
(1) 悩みを相談できる人がいる	15.2	20.5	24.7	34.8	4.8	728
(2) こまったとき助けてくれる	22.4	34.5	17.0	20.9	5.2	728
(3) 人に言えない本音を話せる	12.5	16.2	26.4	39.7	5.2	728

【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



(4) インターネット空間との関わり

問12 インターネット（SNS、オンラインゲーム等を含む）上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）と、とあなたの関わりは、どのようなものですか。

(1)何でも悩みを相談できる人がいる、(2)こまったときは助けてくれる、(3)他の人には言えない本音を話せることがある



インターネット空間との関わりについては以下のとおり。

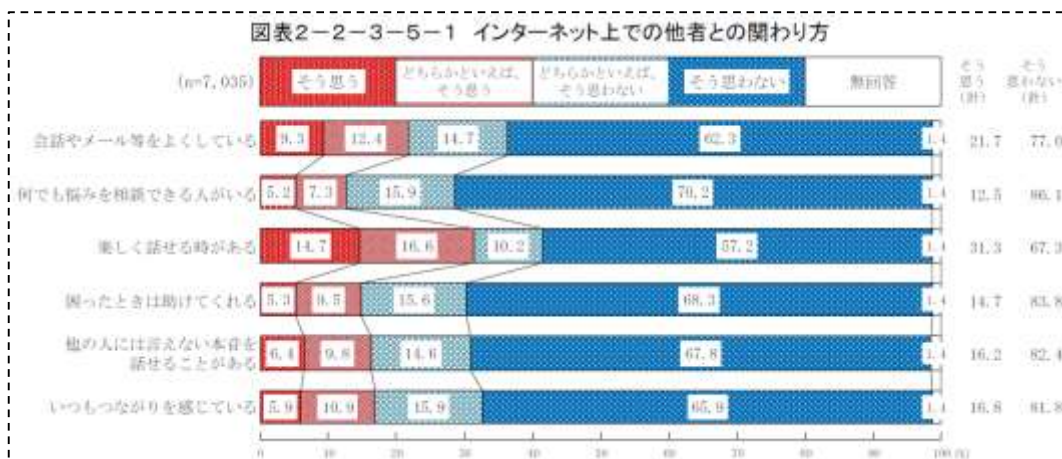
問7では、全体の7割弱がインターネット空間を居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）と回答しているものの、悩みの相談先、困ったとき頼れる先、本音を話せる先と認識して関わっている割合は全体の3割に満たない。

■インターネット空間との関わり■

【今回調査】

	（％）					n
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
(1) 悩みを相談できる人がいる	9.2	12.9	16.3	55.6	5.9	728
(2) こまったとき助けてくれる	8.9	14.0	17.6	53.3	6.2	728
(3) 人に言えない本音を話せる	10.2	12.2	15.7	55.6	6.3	728

【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(5) 家での過ごし方

問 13 ふだん家（暮らしている場所）にいるときは、どんなことに時間を使っていますか。

【複数回答】

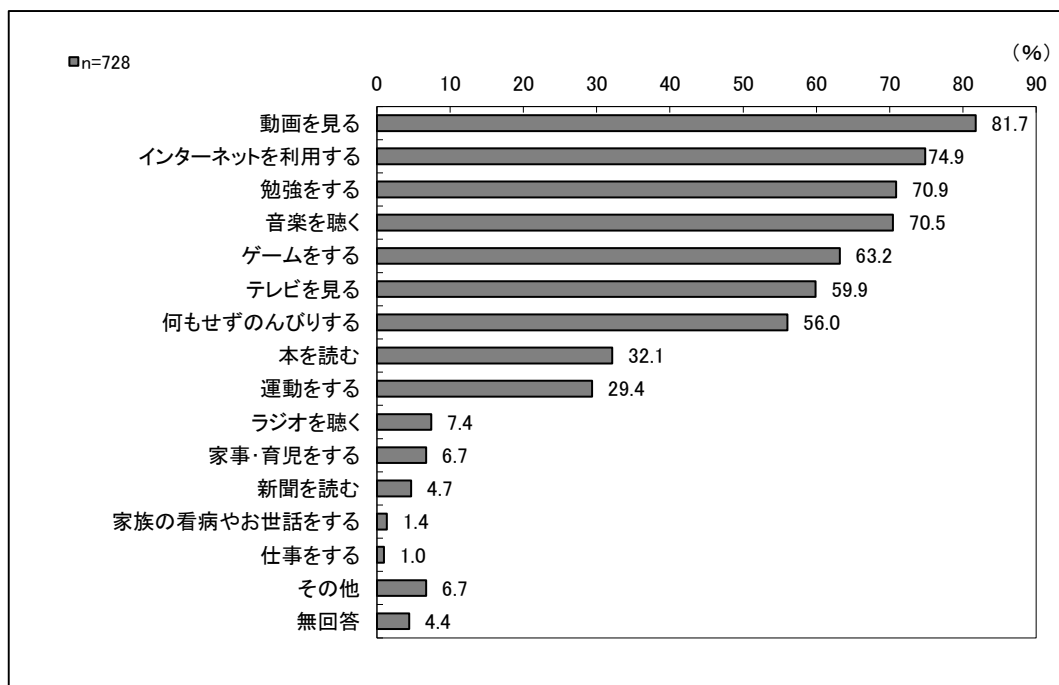


「動画を見る」(81.7%)、「インターネットを利用する」(74.9%)、「勉強をする」(70.9%)、「音楽を聴く」(70.5%)が高い割合を占めている。

「ゲームをする」(63.2%)、「テレビを見る」(59.9%)、「何もせずのんびりする」(56.0%)、等がこれに続く。

■家での過ごし方■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-6-1-2 家でよくしていること(性別、年齢別)

		n	インターネットをする	テレビを見る	家事をする	ゲームをする	育児をする	勉強をする	本を読む	仕事をする	ラジオを聴く	新聞を読む	介護・看護をする	あてはまるものはない	無回答
性	男性	(3,013)	75.4	56.0	38.7	63.5	18.4	28.1	27.3	19.4	7.0	4.3	0.7	1.3	0.6
	女性	(3,935)	78.0	67.1	60.8	38.0	31.7	23.0	23.3	14.9	6.2	2.7	1.1	0.8	0.3
年齢	15歳～19歳	(1,293)	78.0	57.2	18.3	62.6	0.6	55.3	23.4	2.9	5.8	2.7	0.3	1.4	0.8
	20歳～24歳	(1,191)	79.7	55.6	14.5	53.8	2.5	31.3	24.6	12.6	6.6	2.3	0.8	1.8	0.3
	25歳～29歳	(1,305)	78.4	61.6	21.6	47.8	19.5	16.2	24.0	21.9	6.6	1.7	1.3	0.8	0.5
	30歳～34歳	(1,408)	78.0	64.7	66.8	44.3	42.0	15.1	24.5	21.1	6.7	3.8	1.2	0.4	0.3
	35歳～39歳	(1,780)	71.9	61.7	70.2	41.6	59.7	14.4	27.8	22.5	8.2	5.4	1.1	1.1	0.3

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(6) 学習や仕事以外のインターネット利用時間／日

問 14 あなたは、ふだん学習や仕事以外でインターネット（SNS、オンラインゲーム等を含む）を1日にどれくらい利用していますか。

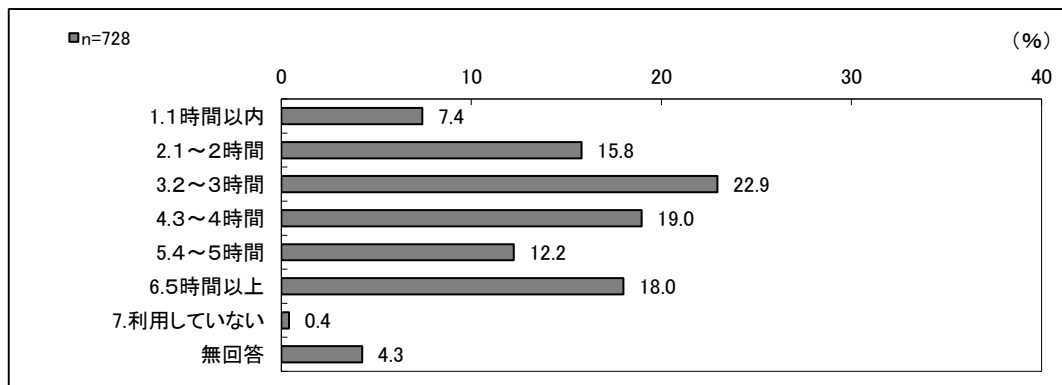


「2～3時間」(22.9%)、「3～4時間」(19.0%)、「5時間以上」(18.0%)、「1～2時間」(15.8%)、「4～5時間」(12.2%)、「1時間以内」(7.4%)、「利用していない」(0.4%)。

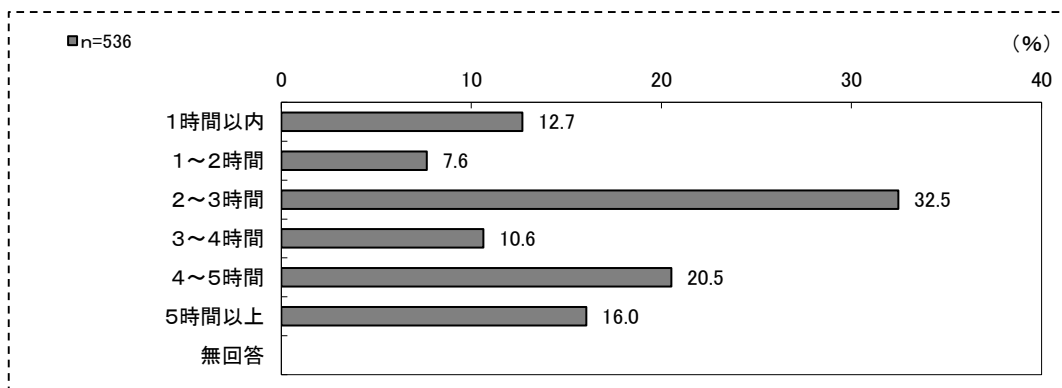
“2時間以上”が全体の7割を超えており(72.1%)、うち「5時間以上」の割合が全体の18.0%にのぼる。

■ 学習や仕事以外のインターネット利用時間／日 ■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



(7) インターネットを利用する際に課題と感ずること

※ 問14で「1」～「6」を選んだ方のみ

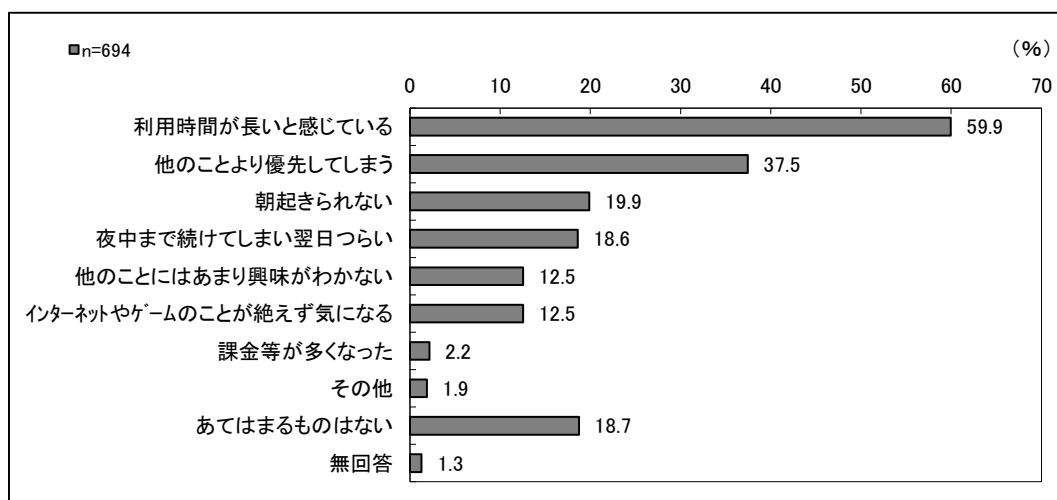
問14-1 インターネット（SNS、オンラインゲーム等を含む）を利用することで、課題と感ずていることはありますか。【複数回答】



「利用時間が長いと感ずている」が59.9%で最も高い割合を占めている。

「他のことより優先してしまう」（37.5%）、「朝起きられない」（19.9%）、「夜中まで続けてしまい翌日つらい」（18.6%）等がこれに続く。

■ インターネットを利用する際に課題と感ずること ■



(8) ふだん利用するソーシャルメディア・通信手段

問 15 次のソーシャルメディア・通信手段のなかで、ふだん利用しているものは何ですか。

【複数回答】



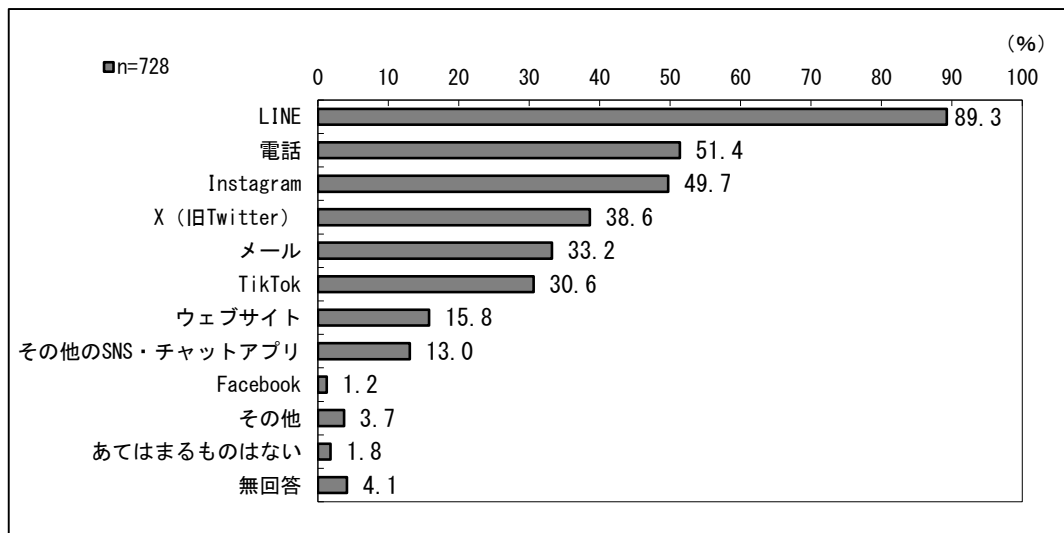
「LINE」が89.3%で最も高い割合を占めている。

「電話」(51.4%)、「Instagram」(49.7%)、「X (旧 Twitter)」(38.6%)、等がこれに続く。

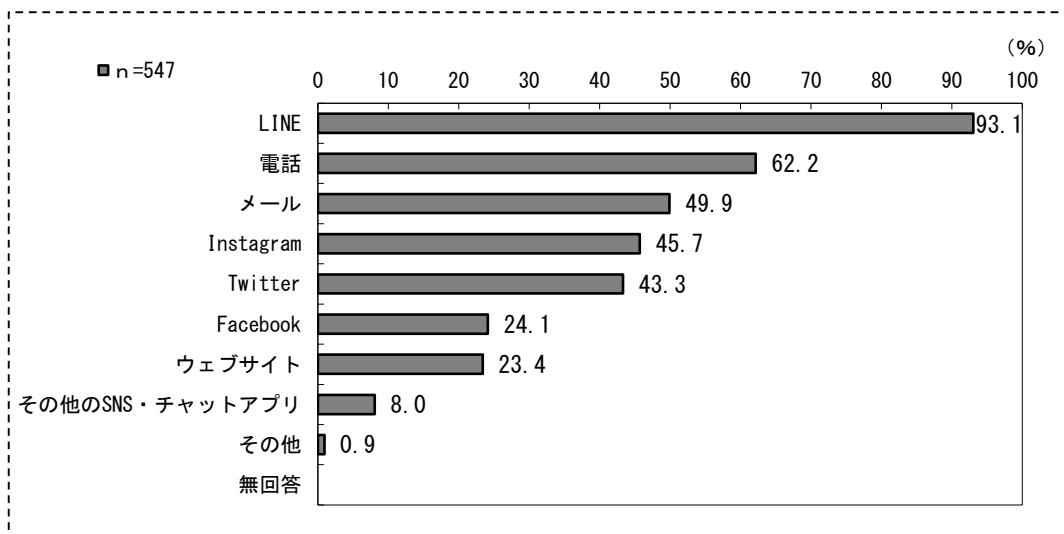
【前回調査結果 (参考)】では「Facebook」が24.1%であったが、今回の中学・高生世代対象の調査結果では「Facebook」の割合が1.2%と低くなっている。

■ふだん利用するソーシャルメディア・通信手段■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



5. ふだんの外出の状況について

(1) ふだんの外出状況

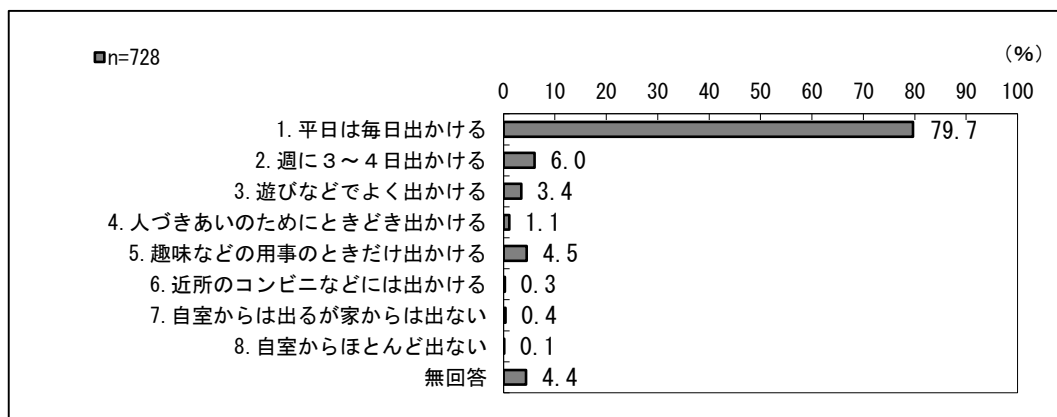
問 16 あなたはふだんどのくらい外にでかけますか。

「平日は毎日出かける」が79.7%で最も高い割合を占めている。

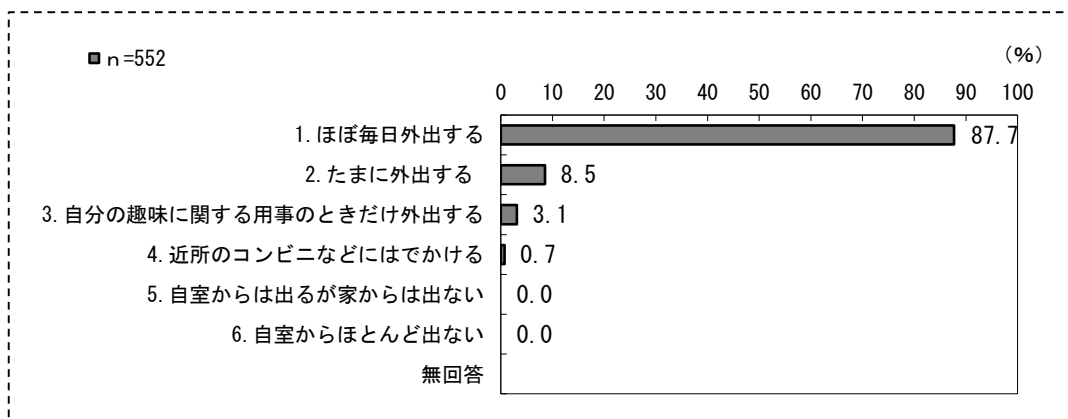
「週に3～4日出かける」(6.0%)、「趣味などの用事の時だけ出かける」(4.5%)、「遊びなどでよく出かける」(3.4%)、「人づきあいのためにときどき出かける」(1.1%)、「自室からは出るが家からは出ない」(0.4%)、「近所のコンビニなどには出かける」(0.3%)、「自室からほとんど出ない」(0.1%)がこれに続く。

■ふだんの外出状況■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-7-1-2 普段の外出頻度(性別、年齢別) (%)

		n	仕事や学校で平日は毎日外出する	3日4日外出する	仕事や学校で週に遊び等で頻繁に外出する	人づきあいのためにときどき外出する	普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	普段は家には出かけるコンビニなどには出かける	家からは出ない	自室からは出るが、自室からはほとんど出ない	無回答
性	男性	(3,013)	73.0	10.3	2.8	3.4	5.9	2.8	0.9	0.2	0.7
	女性	(3,935)	66.4	13.6	4.7	5.0	4.7	4.2	0.6	0.2	0.6
年齢	15歳～19歳	(1,293)	84.4	7.0	1.4	1.5	2.9	0.9	0.9	0.3	0.7
	20歳～24歳	(1,181)	64.0	18.6	4.0	4.6	5.3	2.3	0.7	0.3	0.3
	25歳～29歳	(1,305)	62.4	12.8	5.5	5.4	6.5	5.6	0.8	0.3	0.7
	30歳～34歳	(1,468)	67.5	12.4	5.0	4.3	5.6	3.7	0.5	-	1.0
	35歳～39歳	(1,788)	68.2	10.8	3.4	5.4	5.7	5.0	0.7	0.2	0.6

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(2) 現在の状態になった年齢

※ 問 16 で「5～8」に○をつけた方のみ

問 16-1 その状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。

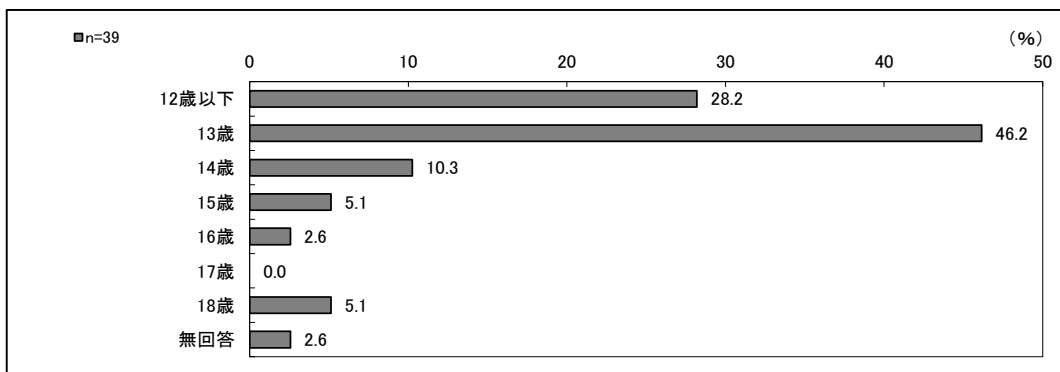


「13 歳」(46.2%)、「12 歳以下」(28.2%)、「14 歳」(10.3%)、「15 歳」(5.1%)、「18 歳」(5.1%)、「16 歳」(2.6%)。

“15 歳以下”で回答者の 89.8% を占める。

■現在の状態になった年齢■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-7-3-2 現在の外出状況になった年齢(性別、年齢別)

		n	14歳以下	15歳以下	20歳以下	25歳以下	30歳以下	35歳以下	無回答
性	男性	(224)	7.1	11.2	21.4	21.0	17.9	11.2	10.3
	女性	(260)	3.5	7.7	18.5	28.1	21.2	14.6	6.5
年齢	15歳～19歳	(40)	42.5	45.0	2.5	-	-	-	10.0
	20歳～24歳	(68)	4.4	23.5	63.2	-	-	-	8.8
	25歳～29歳	(124)	1.6	4.8	27.4	57.3	-	-	8.9
	30歳～34歳	(106)	0.9	-	8.5	32.1	52.8	0.9	4.7
	35歳～39歳	(156)	1.9	3.8	8.3	10.9	25.6	39.7	9.6

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(3) 現在の状態が続いている期間

※ 問16で「5～8」に○をつけた方のみ
問16-2 その状態はどれくらい続いていますか。

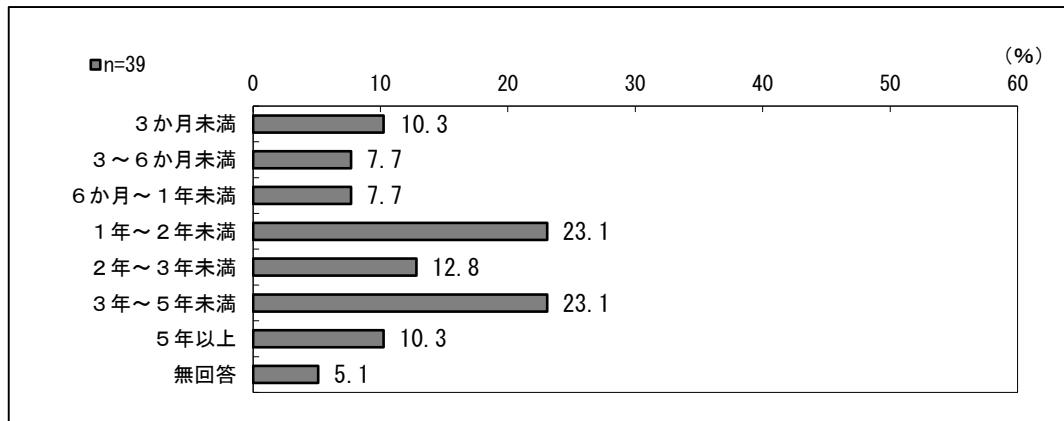


「1年～2年未満」(23.1%)、「3年～5年未満」(23.1%)、「2年～3年未満」(12.8%)、「3か月未満」(10.3%)、「5年以上」(10.3%)、「3～6か月未満」(7.7%)、「6か月～1年未満」(7.7%)。

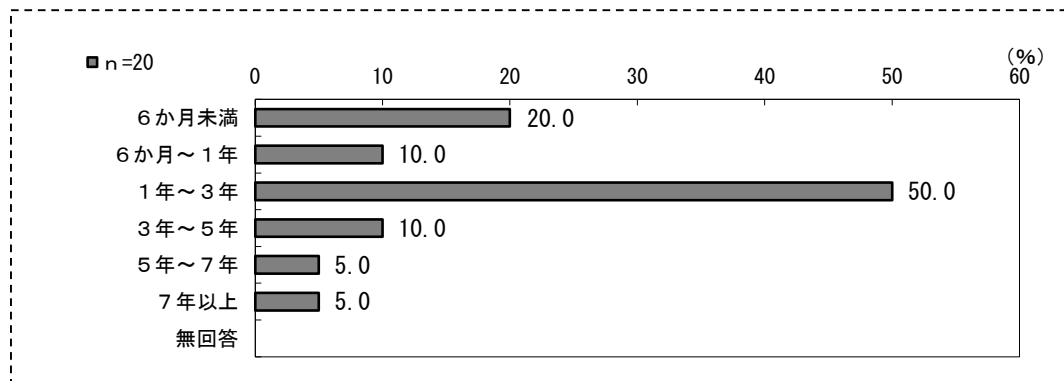
“1年以上”が回答者の69.3%を占める。

■現在の状態が続いている期間■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



(4) 現在の状態になった主な理由

※ 問 16 で「5～8」に○をつけた方のみ

問 16-3 現在の状態になった主な理由は何ですか。【複数回答】

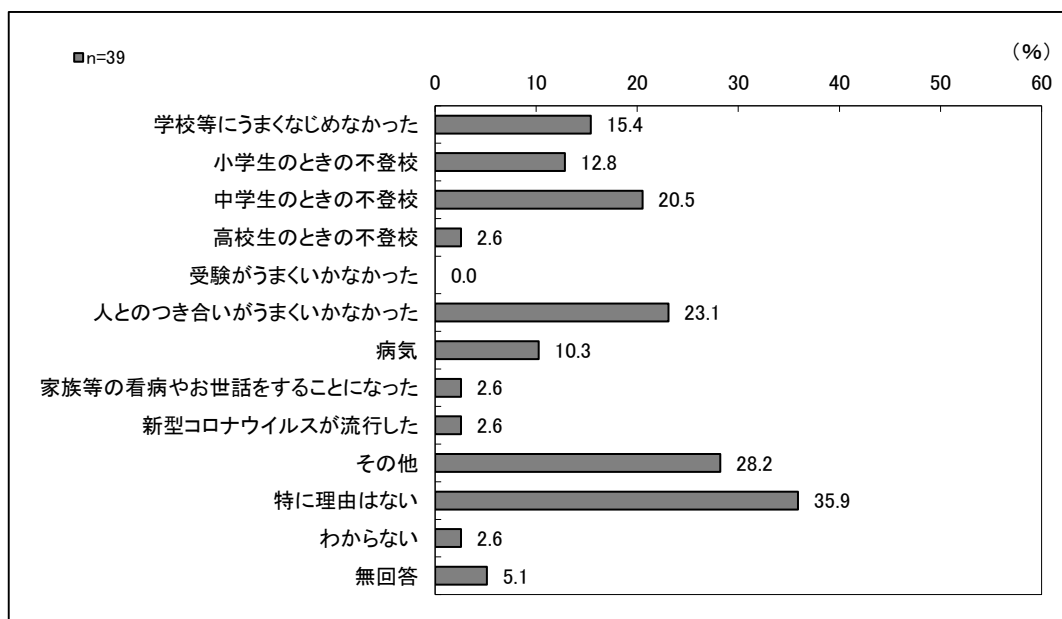


「特に理由はない」が 35.9% で最も高い割合を占めている。

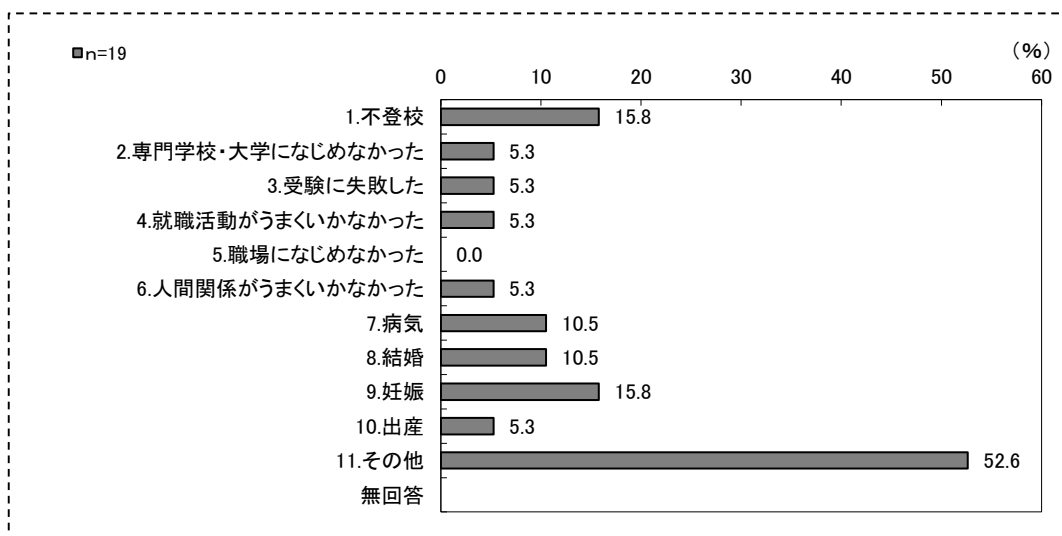
「その他」(28.2%), 「人とのつき合いがうまくいかなかった」(23.1%), 「中学生のときの不登校」(20.5%), 「学校等にうまくなじめなかった」(15.4%) 等がこれに続く。

■現在の状態になった主な理由■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】ほとんど家にいる状態になったきっかけ



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-7-4-2 現在の外出状況になった理由(性別、年齢別)^(注)

性別	年齢	計	新型コロナウイルス感染症が流行したこと	退屈したこと	転職したこと	いかなかなかつたこと	人間関係がうまくいかなかったこと	病気	いかなかなかつたこと	就職活動がうまくいかなかったこと	職場になじめなかったこと	中学校時代の不登校	学校になじめなかったこと	高校時代の不登校	小中学校時代の不登校	大学・専門学校・短期大学等を卒業した後の不登校	介護・看護を担うことになったこと	受験に失敗したこと(高校・大学等)	その他	特に理由は無い	わからない	無回答
性	男性	1,214	21.7	8.6	-	16.3	10.2	8.3	8.9	8.3	7.0	5.8	6.9	2.7	6.9	1.9	14.3	19.1	2.1	0.9		
	女性	1,260	27.1	22.3	28.8	11.3	12.3	6.2	3.8	3.4	4.2	1.0	2.9	1.2	1.9	0.8	21.8	8.8	2.7	0.8		
	15歳～19歳	1,409	3.8	-	-	29.0	10.0	-	2.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2
	20歳～24歳	1,092	20.0	14.7	-	13.2	8.8	3.9	8.8	7.4	3.9	4.4	-	1.8	1.8	1.3	10.1	23.3	3.9	-		
	25歳～29歳	1,124	22.3	18.1	18.9	11.3	12.9	7.3	6.5	4.0	3.2	3.2	1.6	2.4	3.2	2.4	18.9	18.1	3.2	1.6		
30歳～34歳	1,195	21.7	18.8	27.4	10.4	10.4	3.7	3.7	3.8	2.8	2.8	0.9	1.9	-	-	16.8	11.3	-	-			
35歳～39歳	1,180	26.9	18.6	18.6	16.7	12.8	11.3	9.4	3.8	3.1	3.3	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	18.6	11.3	4.5	0.6		

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

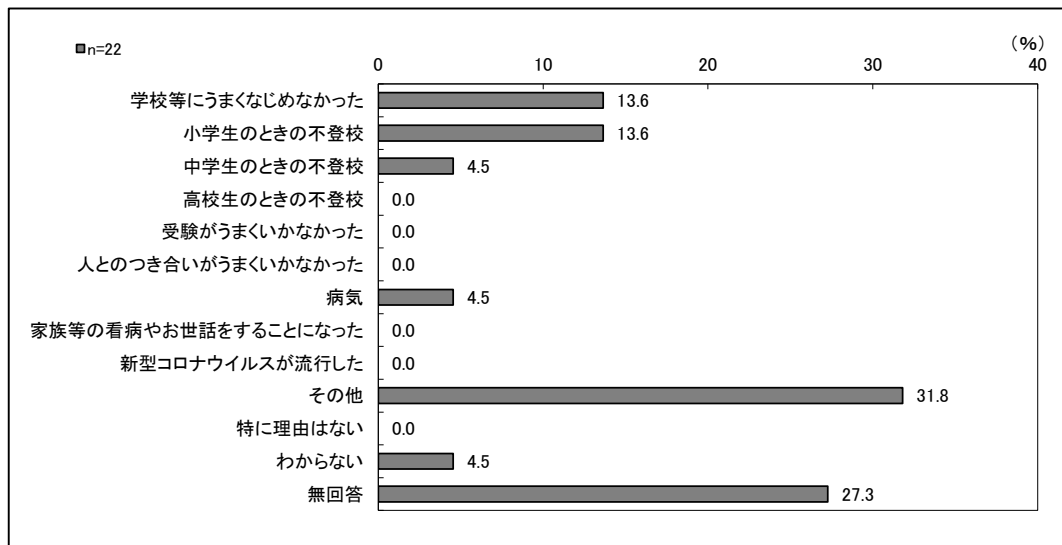
(5) 現在の状態になった最も大きな理由

問 16-3-1 その中で、現在の状態になった最も大きな理由は何ですか。

「学校等にうまくなじめなかった」(13.6%)、「小学生のときの不登校」(13.6%)、「中学生のときの不登校」(4.5%)、「病気」(4.5%)、「その他」(31.8%)、「わからない」(4.5%)。

■現在の状態になった最も大きな理由■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-7-4-4 現在の外出状況になった最も大きな理由（性別、年齢別）¹⁾

性別	年齢	n	新型コロナウイルス感染症	転職したこと	病気	退職したこと	いじめを受けたこと	いじめ活動がうまくいかなかったこと	中学校時代の不登校	職場になじめなかったこと	高校時代の不登校	学校になじめなかったこと	受験に失敗したこと	受験・看護を断ることにしたこと	小学校時代の不登校	大学・専門学校・短期大学等を退学したこと	その他	特に理由はない	わからない	無回答
			男性	170	14.1	11.2	8.2	7.6	3.5	4.7	2.4	2.9	2.8	1.8	1.2	1.8	1.2	1.2	13.9	-
女性	228	18.5	25.7	9.7	10.2	5.8	3.1	2.2	2.2	1.3	-	-	8.4	-	-	18.6	9.9	8.4	-	
年齢	15歳～19歳	31	8.5	12.9	-	8.7	-	19.4	-	9.7	9.7	3.2	-	8.7	-	18.4	-	-	3.2	-
	20歳～24歳	40	21.3	-	8.3	16.7	8.3	4.3	8.3	4.2	-	-	-	-	-	20.8	-	-	-	-
	25歳～29歳	80	27.6	17.3	10.2	9.2	3.1	4.1	3.0	2.1	2.1	-	2.0	3.0	-	2.0	14.3	-	-	4.0
	30歳～34歳	94	22.7	24.5	9.8	10.8	3.3	2.1	-	-	2.1	-	-	-	-	-	18.1	-	-	-
	35歳～39歳	130	24.6	13.8	11.3	8.3	7.7	3.4	2.3	3.1	-	2.3	-	1.9	-	-	17.7	1.7	-	-

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(6) 利用状況 ① 児童館

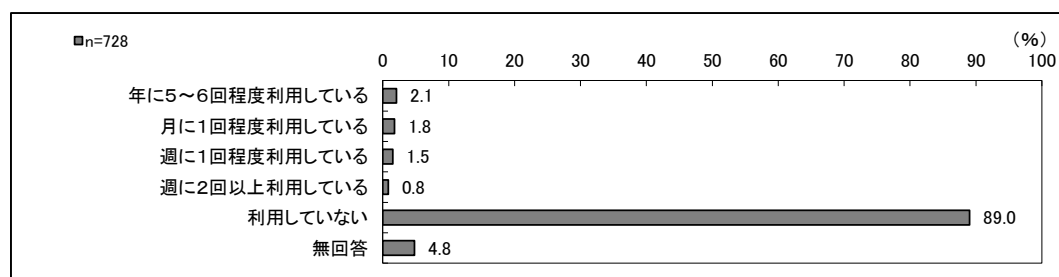
問 17 次の(1)~(3)のような市内の子ども施設の利用状況について伺います。

(1) 現在、「児童館」を利用していますか。

「年に5～6回程度利用している」(2.1%)、「月に1回程度利用している」(1.8%)、「週に1回程度利用している」(1.5%)、「週に2回以上利用している」(0.8%)。

「利用していない」が全体の89.0%。

■利用状況 ① 児童館■



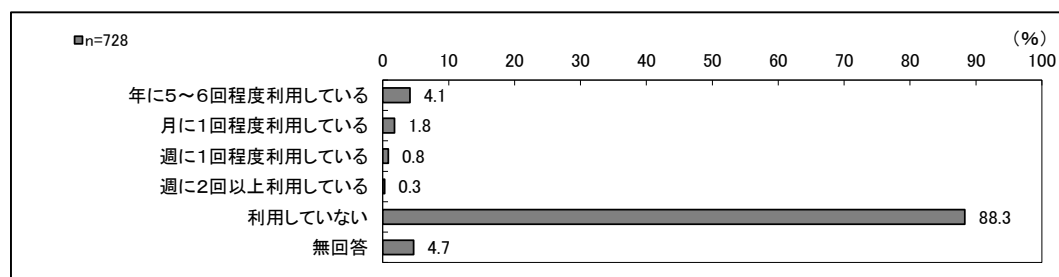
(7) 利用状況 ② 青少年ステーション CAPS

(2) 現在、「青少年ステーション CAPS」を利用していますか。

「年に5～6回程度利用している」(4.1%)、「月に1回程度利用している」(1.8%)、「週に1回程度利用している」(0.8%)、「週に2回以上利用している」(0.3%)。

「利用していない」が全体の88.3%。

■利用状況 ② 青少年ステーション CAPS■



(8) 利用状況 ③ 子ども・若者総合支援事業 ここあ

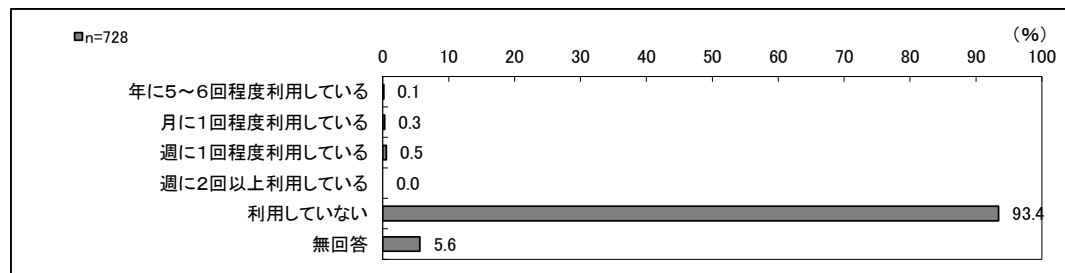
(3) 現在、「子ども・若者総合支援事業 ここあ」を利用していますか。



「週に1回程度利用している」(0.5%), 「月に1回程度利用している」(0.3%), 「年に5~6回程度利用している」(0.1%)。

「利用していない」が全体の93.4%。

■利用状況 ③ 子ども・若者総合支援事業 ここあ■



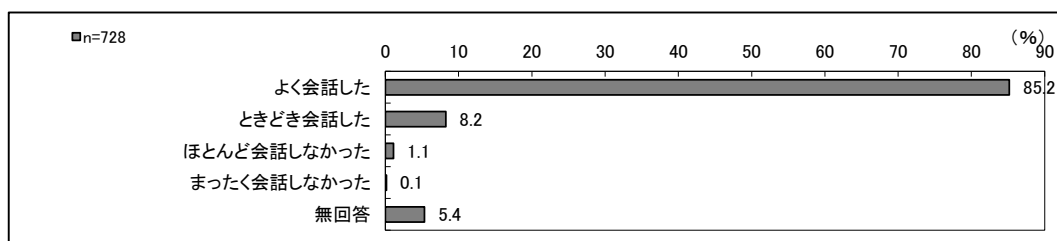
(9) 直近6か月間で家族以外の人と会話をしたか

問18 直近の6か月のうちに、家族以外の人と会話をしましたか。

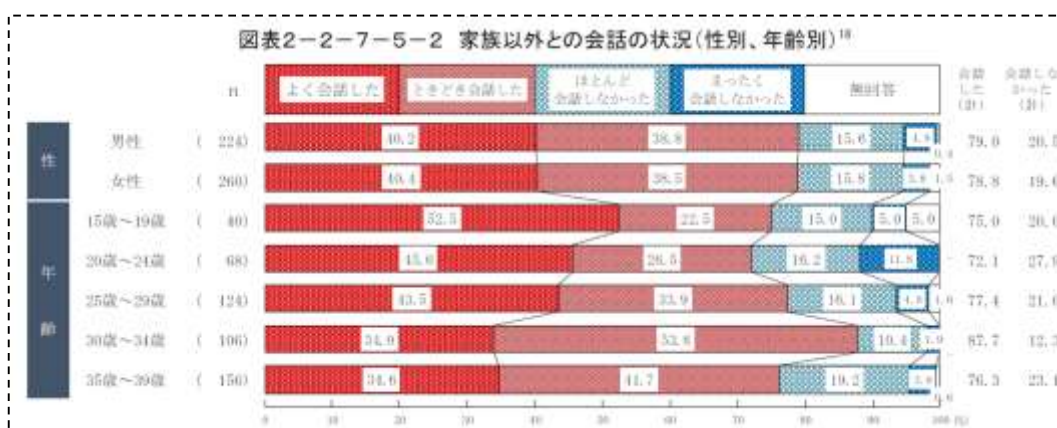
「よく会話をした」(85.2%), 「ときどき会話をした」(8.2%), 「ほとんど会話をしなかった」(1.1%), 「まったく会話をしなかった」(0.1%)。

■直近6か月間で家族以外の人と会話をしたか■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

6. 落ち込んだ経験について

(1) うまくいかず気分が落ち込んだ経験

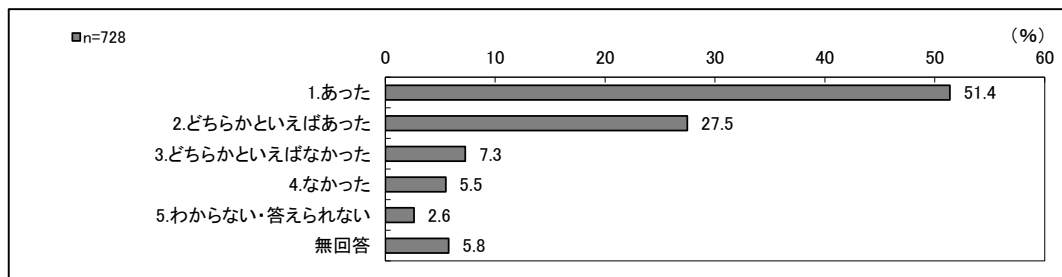
問 19 これまでに、ものごとがうまくいかず気分が落ち込んだ経験があったと思いますか。または、現在ありますか。

「あった」(51.4%)、「どちらかといえばあった」(27.5%)、「どちらかといえばなかった」(7.3%)、「なかった」(5.5%)、「わからない・答えられない」(2.6%)。

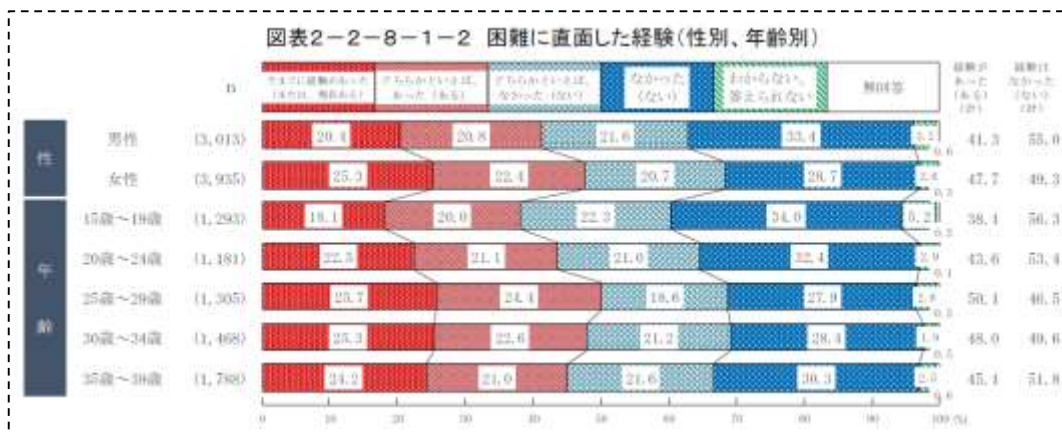
「あった」と「どちらかといえばあった」を足し合わせた“あった”が全体の78.9%を占める。

■ うまくいかず気分が落ち込んだ経験 ■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(2) 落ち込んだ状態から元にもどった経験

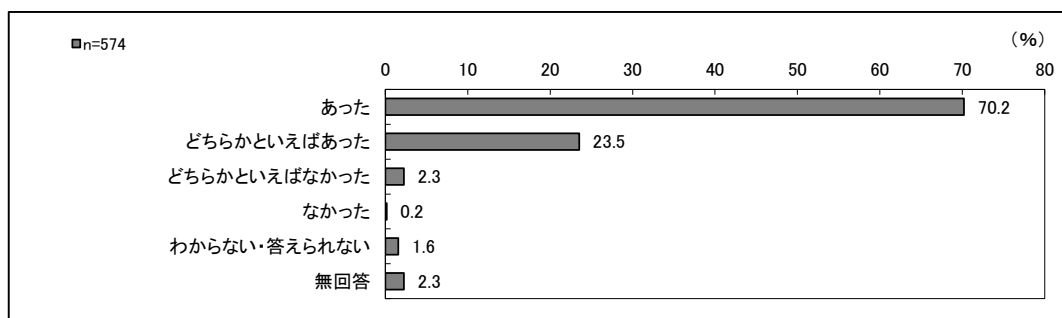
※ 問 19 で、「1」または「2」に○をつけた方のみ

問 19-1 ものごとがうまくいかず気分が落ち込んだ状態から元にもどった経験があったと思いますか。

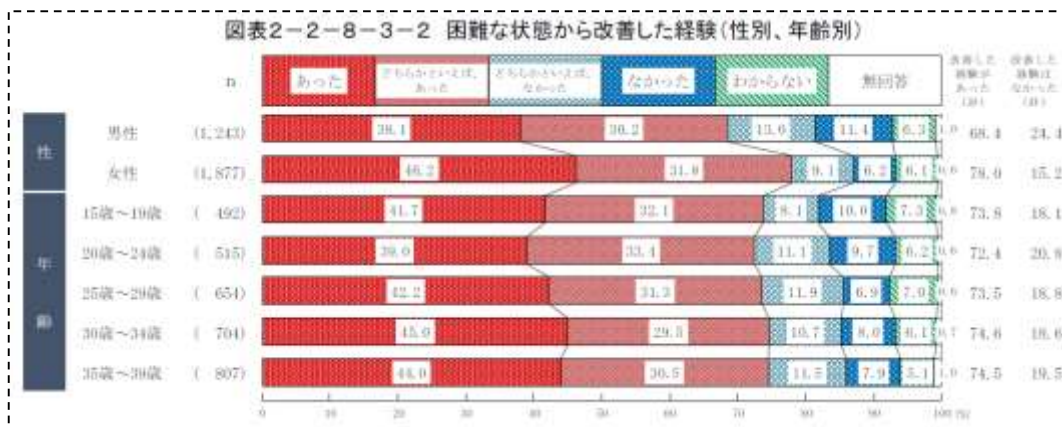
「あった」(70.2%), 「どちらかといえばあった」(23.5%), 「どちらかといえばなかった」(2.3%), 「なかった」(0.2%), 「わからない・答えられない」(1.6%)。

■落ち込んだ状態から元にもどった経験■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(3) 落ち込んだ状態から元にもどったきっかけ

※ 問 19 で、「1」または「2」に○をつけた方のみ

問 19-2 落ち込んだ状態から元にもどったのは、どのようなことがきっかけだったと思いますか。

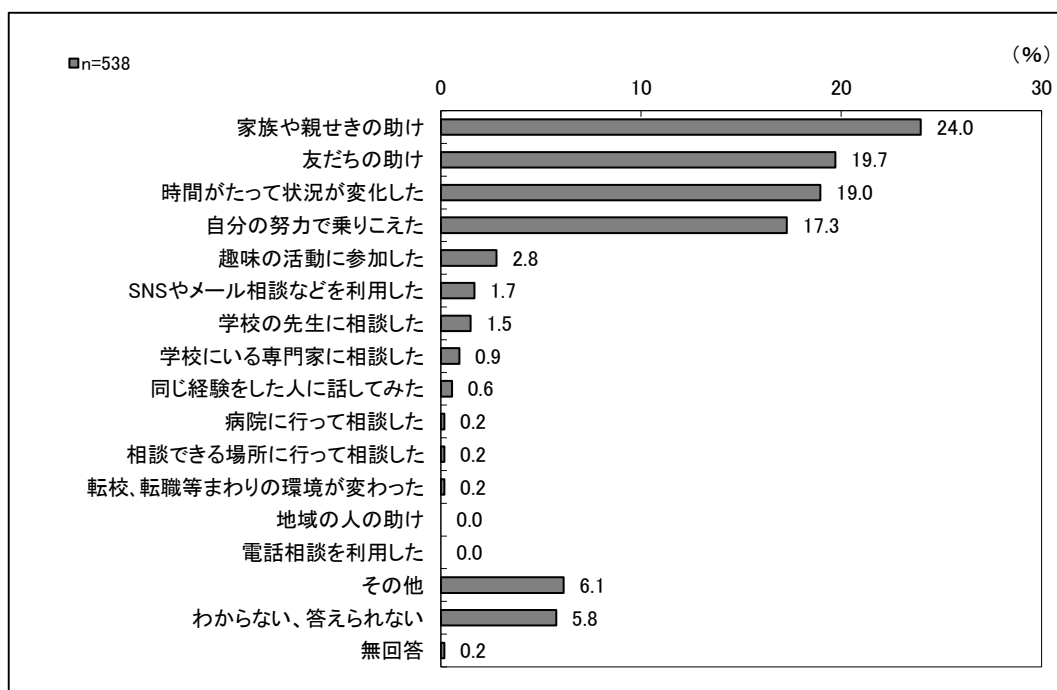


「家族や親せきの助け」(24.0%)、「友だちの助け」(19.7%)、「時間がたって状況が変化した」(19.0%)、「自分の努力で乗り越えた」(17.3%) が高い割合を占めている。

「趣味の活動に参加した」(2.8%)、「SNS やメール相談などを利用した」(1.7%)、「学校の先生に相談した」(1.5%) 等がこれに続く。

■落ち込んだ状態から元にもどったきっかけ■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-8-4-2 困難な状態から改善したきっかけ(性別、年齢別)

		無回答	わからない・答えられない	その他	電話相談を利用したこと	地域の人の助け	SNSやメール相談などを利用したこと	スクールカウンセラーなどに相談したこと	同じような立場にいて相談したこと	同じような立場にいて相談したことがある人に見せてみたこと	学校の先生に相談したこと	地域の活動に参加したこと	病院に行ったり相談したこと	就職・転職したこと	自分の習いで乗りこえたこと	友人の助け	時期がたつて状況が変化したこと	家族や親戚の助け	無回答
性	男性 (950)		3.4	7.4	0.7	2.1	2.3	5.1	3.9	6.5	8.2	11.3	10.7	21.0	24.2	31.1	16.7	14.6	0.2
	女性 (1,093)		1.4	6.7	1.0	1.1	1.1	6.2	5.0	7.5	11.0	10.7	21.9	27.4	29.7	32.4	29.0	14.9	0.3
年 齢	15歳～19歳 (963)		3.6	7.7	0.3	0.8	0.2	9.4	3.2	4.4	23.9	8.3	14.9	2.2	14.9	31.4	18.5	14.6	-
	20歳～24歳 (373)		7.9	7.9	0.3	0.5	0.4	8.4	0.6	7.9	8.4	14.5	15.0	20.2	22.3	27.9	14.0	10.5	-
	25歳～29歳 (481)		2.3	7.9	0.8	0.8	1.0	4.2	6.4	5.2	8.4	7.3	10.9	22.4	27.9	34.2	24.2	10.4	0.4
	30歳～34歳 (325)		2.5	8.0	0.8	1.2	1.0	3.6	3.2	6.4	4.2	10.9	13.4	17.9	23.6	23.0	18.0	10.4	0.4
	35歳～39歳 (801)		1.9	9.0	1.3	2.5	2.5	3.0	3.0	7.0	8.2	9.3	11.8	23.8	21.3	24.0	13.4	14.8	0.3

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(4) 相談したり助けてもらったりしやすい人

問 20 ものごとがうまくいかず気分が落ち込んだときなどに、どのような人なら相談したり助けてもらったりしやすいと思いますか。【複数回答】

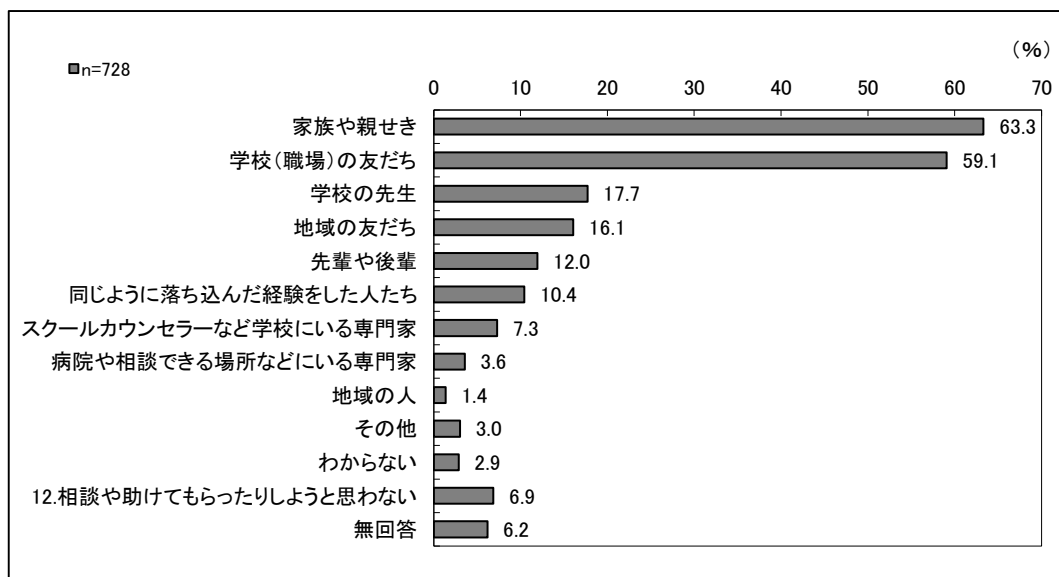


「家族や親せき」(63.3%)、「学校(職場)の友だち」(59.1%)が高い割合を占めており、回答の過半数を占める。

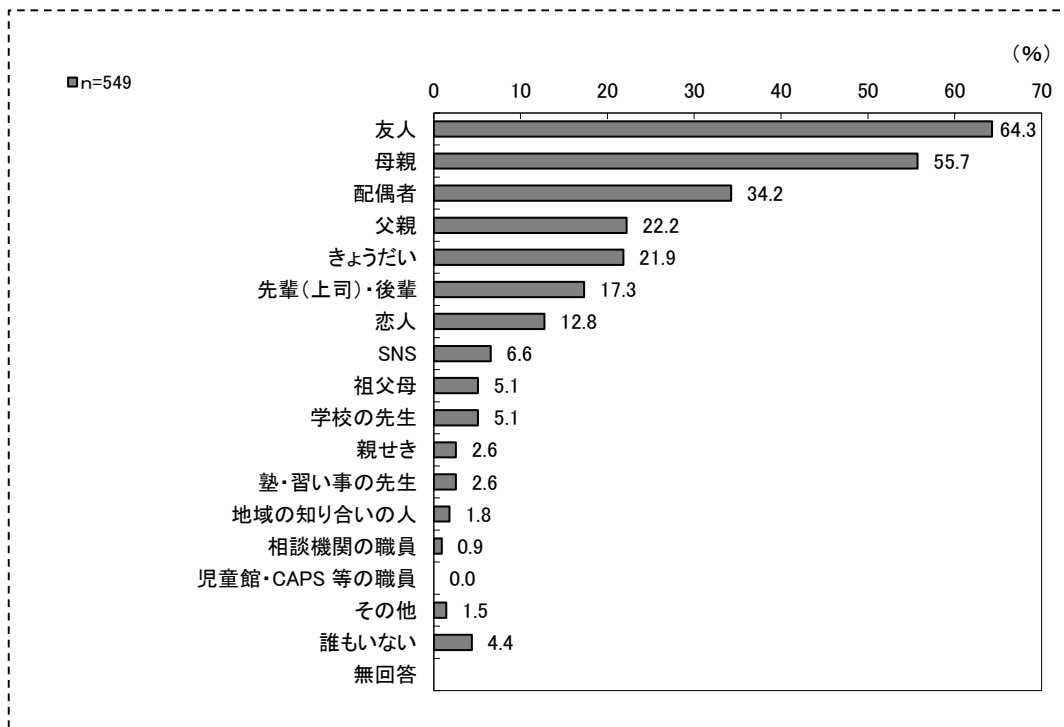
「学校の先生」(17.7%)、「地域の友だち」(16.1%)、「先輩や後輩」(12.0%)等がこれに続く。「相談や助けてもらったりしようと思わない」は6.9%。

■相談したり助けてもらったりしやすい人■

【今回調査】



【前回調査（参考）】気軽に相談できる人



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-9-1-2 相談先に求めること(性別、年齢別)

	n	相談先に求めること(%)																
		相談先が近くにいることがある、持っている	無料で相談できる	匿名で、自分が誰かを知られずに相談できる	相談先が匿名である	心理学の専門家である	相談できる時間・時期を気にせずに相談できる	SNSやメールなどで相談できる	相談先が公的な支援機関である	相談先が匿名である	相談先が匿名である	相談先が匿名である	相談先が匿名である	相談先が匿名である	相談先が匿名である	無回答		
性	男性 (1,613)	49.0	27.9	24.9	31.2	25.1	23.2	22.1	12.6	14.8	13.9	11.4	12.9	8.7	3.0	1.8	11.7	1.0
	女性 (3,983)	54.6	30.2	17.8	30.9	22.2	21.8	21.6	23.3	16.4	14.9	14.1	11.5	7.5	2.5	1.6	8.2	0.6
年齢	15歳～19歳 (1,291)	32.8	28.7	28.8	21.9	22.0	21.7	20.3	24.6	11.1	9.7	7.7	9.2	5.6	2.4	1.6	10.7	0.5
	20歳～24歳 (1,181)	32.6	30.2	24.3	23.1	27.3	20.7	20.9	23.5	13.9	13.7	11.9	11.9	6.9	2.7	1.4	9.1	0.4
	25歳～29歳 (1,300)	33.4	24.1	22.4	20.4	27.9	28.4	27.9	17.5	15.6	13.6	13.1	12.2	7.0	3.0	1.0	9.8	1.0
	30歳～34歳 (1,480)	31.6	27.9	21.3	20.1	23.0	29.9	28.8	17.0	17.4	17.3	13.1	13.0	7.7	2.7	1.8	8.5	0.9
	35歳～39歳 (1,280)	32.5	20.4	21.4	21.9	22.9	28.1	25.1	14.9	19.1	17.2	15.5	13.1	8.8	2.7	3.0	10.2	0.9

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(5) 相談したくないと思う理由

※ 問 20 で、「12. 誰にも相談したり、助けてもらったりしようと思わない」に○をつけた方のみ

問 20-1 相談したくないと思う理由は何ですか。【複数回答】

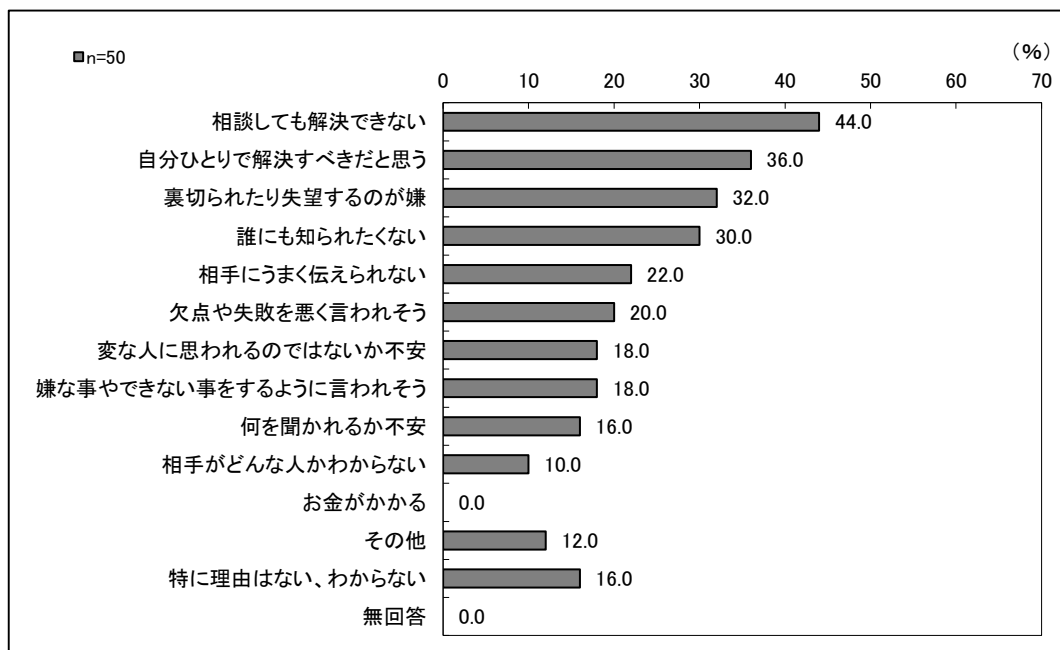
「相談しても解決できない」(44.0%)、「自分ひとりで解決すべきだと思う」(36.0%)、「裏切られたり失望するのが嫌」(32.0%)、「誰にも知られたくない」(30.0%) が高い割合を占めている。

「相手にうまく伝えられない」(22.0%)、「欠点や失敗を悪く言われそう」(20.0%)、「変な人に思われるのではないかと不安」(18.0%) 等がこれに続く。

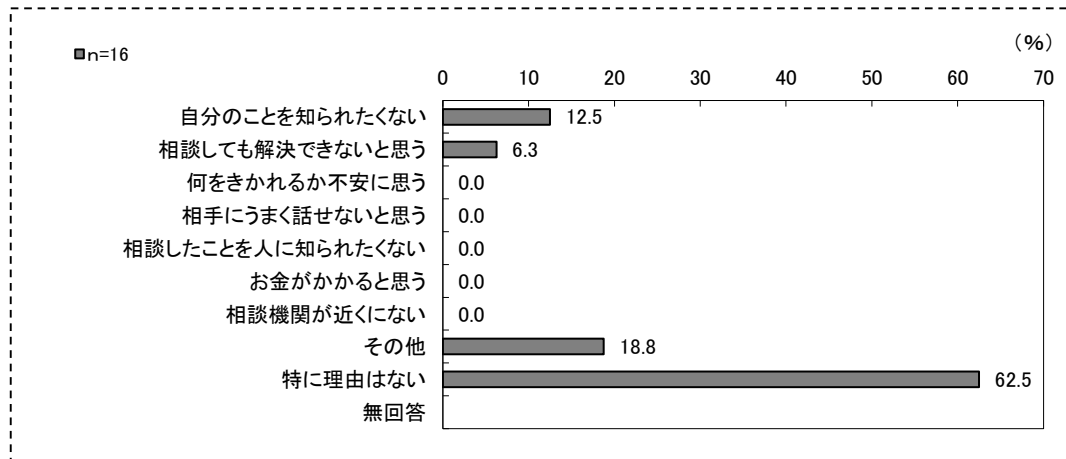
「相談しても解決できない」は、【前回調査】(参考)の結果(6.3%)から大きく増えている。

■相談したくないと思う理由■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-9-2-2 相談したくないと思う理由(性別、年齢別)

	n	理由 (%)																
		相談しても解決できない	相手からいらないから	相手がどんな人かわからないから	伝えられないから	相手にうまく伝えられないから	自分ひとりでは解決できないと思うから	誰にも知られたくないことだから	誰にも知られたくないことだから	大切な情報が漏れだから	悪切られたり、失望するのだから	嫌なこと、できないことをするよう言われそうだから	悪く言われそうだから	自分の欠点や失敗を不安に思うから	何を聞かれるか不安に思うから	自分が妻な人に思われるのではないかと不安だから	お金がかかると思うから	その他
性別	男性 (333)	34.1	24.1	16.1	29.7	21.8	14.7	12.7	13.3	9.9	12.7	8.5	4.5	14.2	1.7			
	女性 (322)	31.3	14.8	30.4	15.8	23.0	16.8	16.8	14.3	15.2	9.3	9.9	8.7	9.0	0.6			
年齢	15歳～19歳 (130)	45.7	19.9	26.1	15.9	13.3	21.0	15.2	19.6	20.3	16.7	5.1	3.6	14.5	-			
	20歳～24歳 (107)	35.1	22.4	23.4	27.1	23.4	15.0	20.6	14.0	14.0	11.2	6.5	9.3	16.8	-			
	25歳～29歳 (128)	29.6	21.9	22.7	22.7	14.1	8.6	8.6	12.5	8.6	9.4	8.6	5.5	15.6	3.1			
	30歳～34歳 (139)	41.9	32.4	25.2	20.9	24.5	14.4	21.0	15.1	10.8	10.8	12.2	4.3	7.2	1.4			
	35歳～39歳 (183)	37.4	26.8	19.7	27.3	16.9	19.1	11.5	9.3	10.4	6.2	13.6	8.7	9.8	1.1			

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

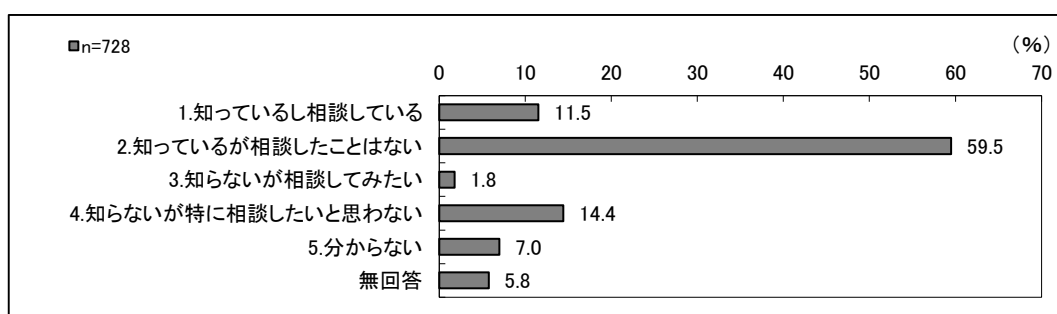
(6) 家庭や学校外での相談場所の認知状況

問 21 家庭や学校（職場）以外で、悩みやこまりごとなどを相談できる場所があることを知っていますか。

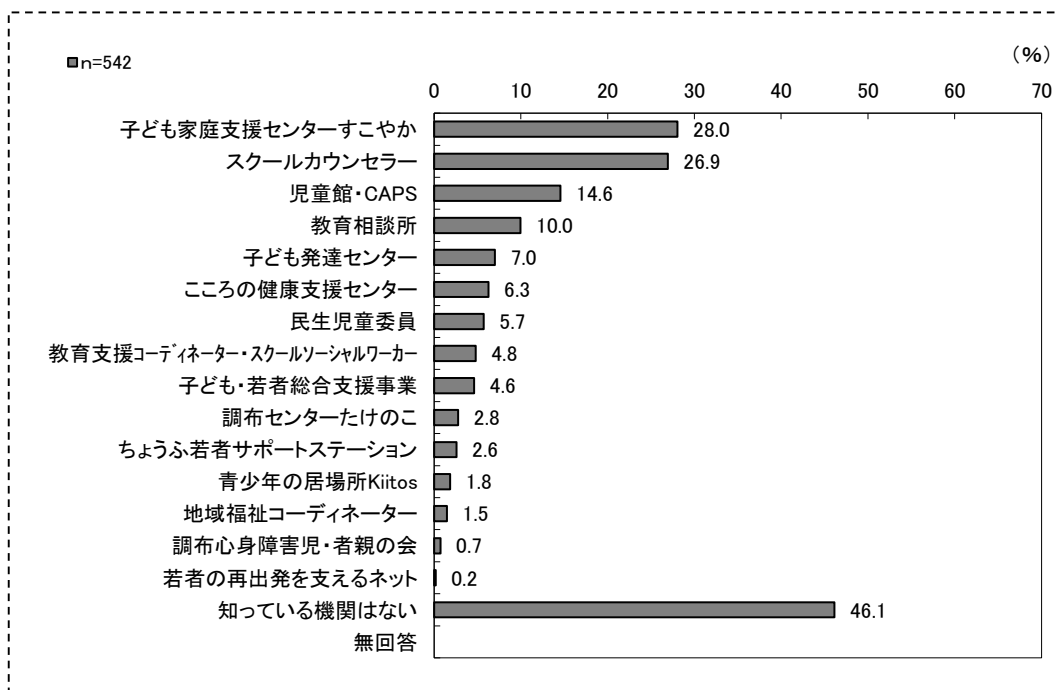
「知っているが相談したことはない」(59.5%)、「知らないが特に相談したいと思わない」(14.4%)、「知っているし相談している」(11.5%)、「知らないが相談してみたい」(1.8%)、「分からない」(7.0%)。

■家庭や学校外での相談場所の認知状況■

【今回調査】



【前回調査（参考）】悩みごとの相談先として認知している機関



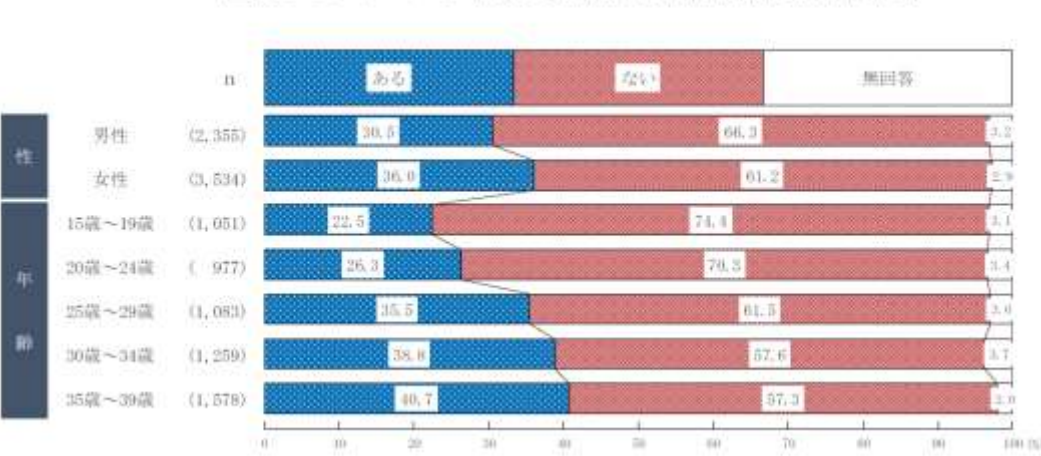
【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-9-3-2 育成支援機関等の認知度（性別、年齢別）

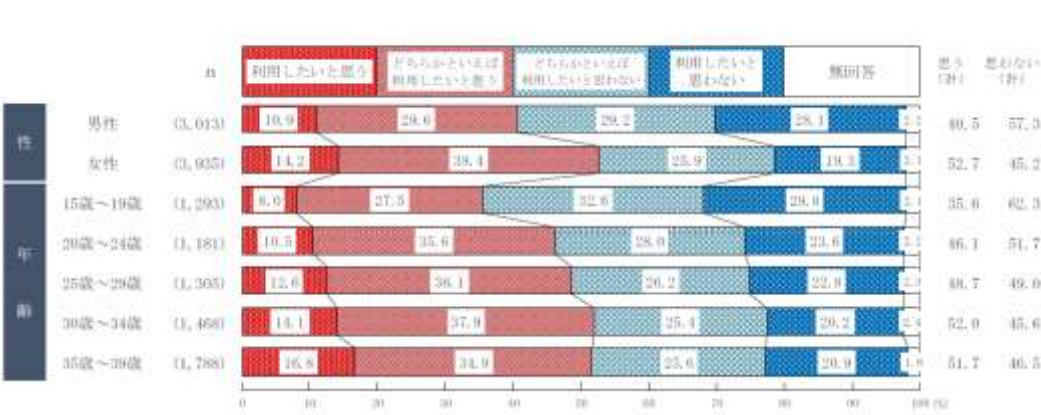
性別	年齢	n	認知度															
			職業安定所などの就業支援機関*1	児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関	児童館	発達障害者支援センター	青少年交流の家等	通信制高校のサポート校	フリースクール	子ども・若者総合相談センター、教育相談所、職業などの相談機関	子ども・若者総合相談センター	教育支援センター（適応指導教室）	精神保健福祉センター	その他民間の機関*2	支援センター	ひきこもり地域	若者支援センターや青少年活動を支援する施設	どれも知らない
男性		(3,013)	34.3	41.7	41.0	26.8	28.6	24.7	18.9	19.7	18.9	13.5	11.5	12.3	9.8	21.4	0.4	26.2
女性		(3,935)	37.4	41.7	34.1	19.6	21.8	28.8	27.3	23.0	22.8	15.0	12.0	9.2	10.6	9.9	0.3	30.4
年齢	15歳～19歳	(1,290)	17.4	21.3	21.4	26.9	26.3	18.1	16.5	23.2	25.4	13.1	9.2	9.2	9.7	18.2	0.5	31.2
	20歳～24歳	(1,181)	11.9	11.0	17.4	21.2	15.3	29.6	29.7	23.7	21.5	14.9	14.3	9.3	11.0	16.9	0.4	32.7
	25歳～29歳	(1,365)	16.4	14.4	17.4	22.3	21.2	26.1	19.3	19.2	19.2	16.5	12.0	10.2	11.6	16.8	0.2	33.0
	30歳～34歳	(1,468)	18.4	13.2	17.0	14.7	21.9	23.0	28.0	19.3	18.3	13.0	11.9	9.7	9.3	13.8	0.4	35.1
	35歳～39歳	(1,788)	19.9	19.1	17.3	11.4	21.8	21.3	21.7	22.0	19.7	13.3	13.0	13.1	9.6	11.4	0.3	39.1

*1 職業安定所（ハローワーク）、ジョブカフェ、地域若者サポートステーションなどの就労支援機関
*2 その他民間の機関（自然体験活動、学習支援、就労支援、ひきこもりの支援など若者育成を行うNPOなど）

図表2-2-9-4-2 育成支援機関等の利用経験（性別、年齢別）



図表2-2-9-5-2 育成支援機関等の利用意向（性別、年齢別）



調査対象：全国の10歳～39歳の男女
調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

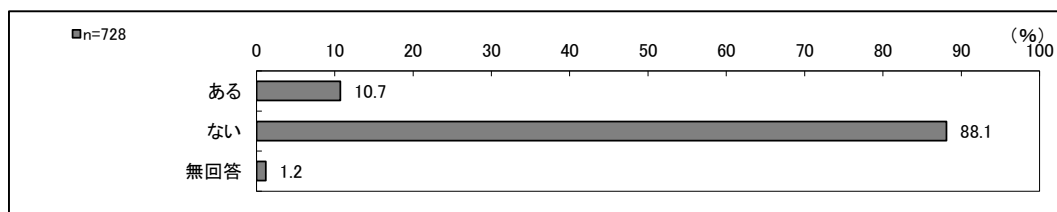
(7) 進学・就職時支援が途切れ不安だったこと

※ 問 21 で「1. 知っているし、相談している (したことがある)」に○をつけた方のみ
問 21-1 これまでに、進学や就職のタイミングで、相談先からの支援が途切れてしまい不安に
感じたことはありますか。



「ない」(88.1%), 「ある」(10.7%)。

■進学・就職時支援が途切れ不安だったこと■



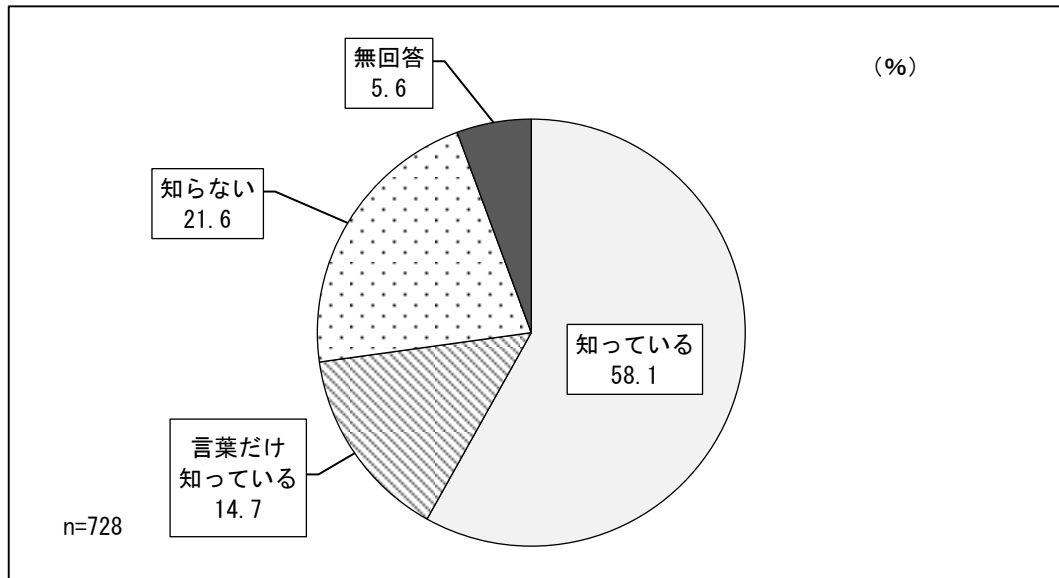
7. ヤングケアラーについて

(1) ヤングケアラーという言葉を知っているか

問 22 ヤングケアラーという言葉を知っていますか。

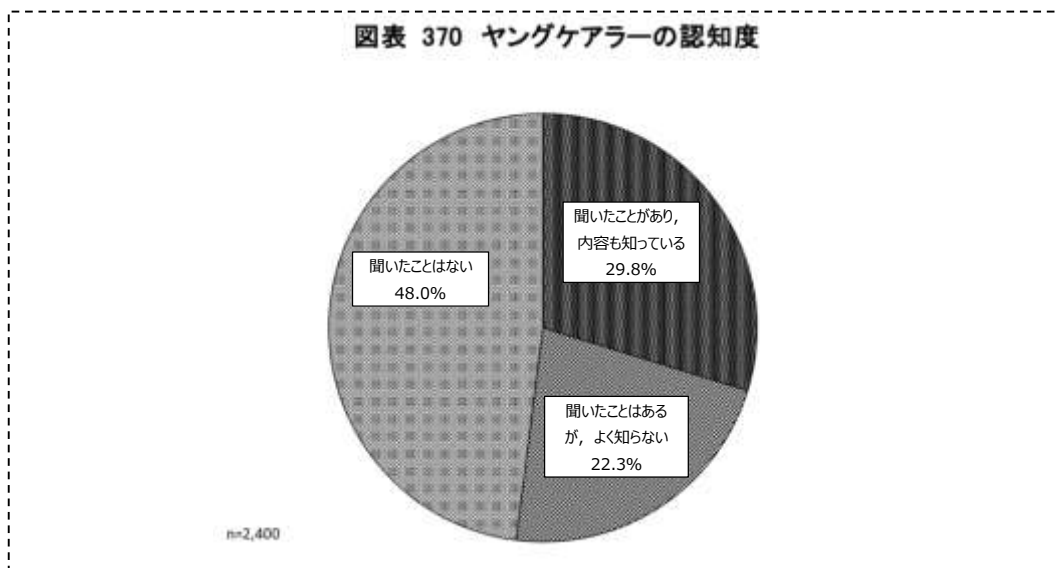
「知っている」(58.1%), 「言葉だけ知っている」(14.7%), 「知らない」(21.6%)。

■ヤングケアラーという言葉を知っているか■



【(株)日本総合研究所 ヤングケアラーの実態に関する調査研究 (参考)】

図表 370 ヤングケアラーの認知度



調査対象：日本全国の20代から70代以上の男女
調査期間：2021年12月17日～2021年12月20日

8. 日常生活について

(1) 過去1年間の体験

問 23 過去1年間において、あてはまるものはありますか。

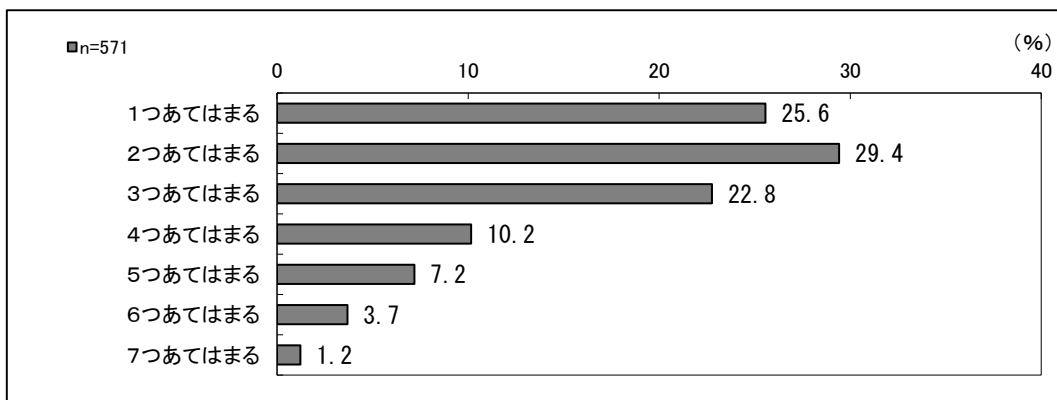
①アウトドア（海水浴やキャンプ、山、川等）に行く、②動物園・水族館・美術館・映画館等に行く、③遊園地やテーマパークに行く、④泊りがけで家族旅行に行く、⑤塾に行く、⑥習い事をする、⑦学校で部活に入っている

過去1年間の体験については以下のとおり。

■過去1年間の体験■

(%)	ある	ない	無回答	n
アウトドアに行く	56.2	37.4	6.5	728
動物園・水族館・美術館・映画館等に行く	77.6	15.5	6.9	728
遊園地やテーマパークに行く	67.7	25.0	7.3	728
泊りがけで家族旅行に行く	62.4	30.2	7.4	728
塾に行く	57.0	35.2	7.8	728
習い事に行く	47.9	44.0	8.1	728
学校で部活に入っている	76.2	16.6	7.1	728

■「ない」該当数■

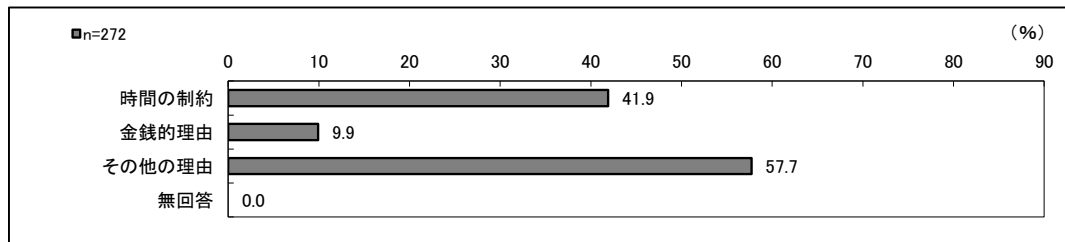


(2) ない理由 ① アウトドアに行く

① アウトドアに行く

「その他の理由」(57.7%), 「時間の制約」(41.9%), 「金銭的理由」(9.9%)。

■ない理由 ① アウトドアに行く■

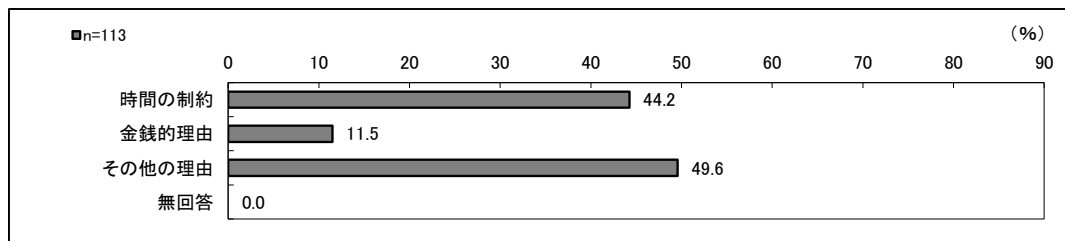


(3) ない理由 ② 動物園・水族館・美術館・映画館等に行く

② 動物園・水族館・美術館・映画館等に行く

「その他の理由」(49.6%), 「時間の制約」(44.2%), 「金銭的理由」(11.5%)。

■ない理由 ② 動物園・水族館・美術館・映画館等に行く■

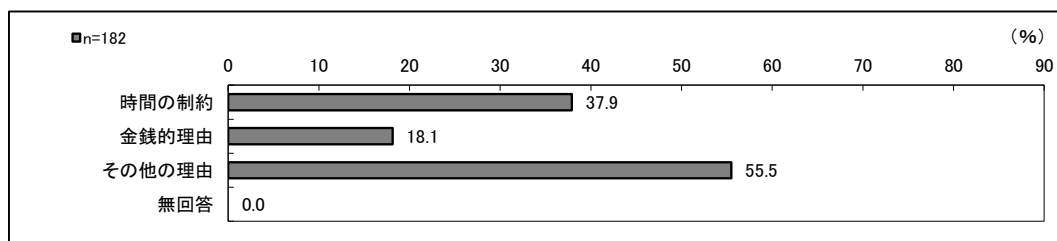


(4) ない理由 ③ 遊園地やテーマパークに行く

③ 遊園地やテーマパークに行く

「その他の理由」(55.5%), 「時間の制約」(37.9%), 「金銭的理由」(18.1%)。

■ない理由 ③ 遊園地やテーマパークに行く■

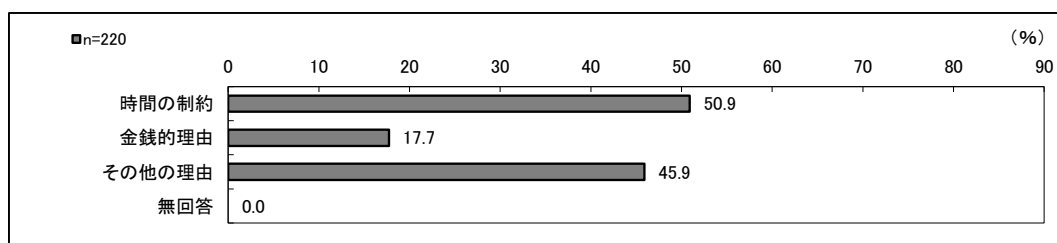


(5) ない理由 ④ 泊りがけで家族旅行に行く

④ 泊りがけで家族旅行に行く

「時間の制約」(50.9%), 「その他の理由」(45.9%), 「金銭的理由」(17.7%)。

■ない理由 ④ 泊りがけで家族旅行に行く■

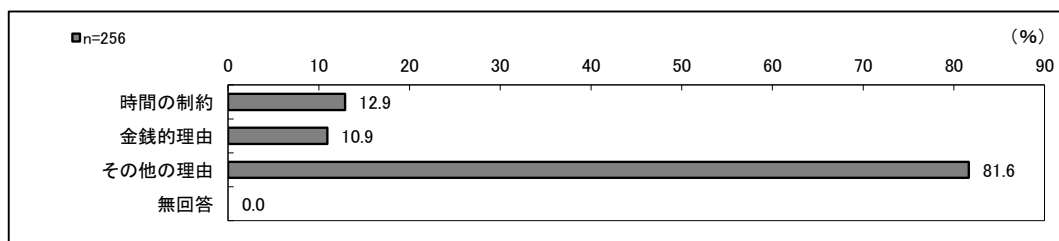


(6) ない理由 ⑤ 塾に行く

⑤ 塾に行く

「その他の理由」(81.6%), 「時間の制約」(12.9%), 「金銭的理由」(10.9%)。

■ない理由 ⑤ 塾に行く■

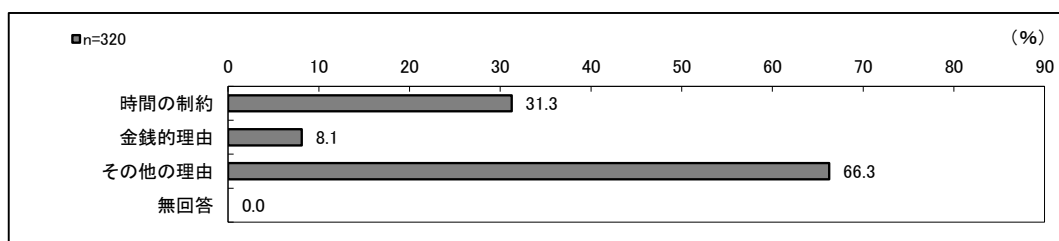


(7) ない理由 ⑥ 習い事に行く

⑥ 習い事に行く

「その他の理由」(66.3%), 「時間の制約」(31.3%), 「金銭的理由」(8.1%)。

■ない理由 ⑥ 習い事に行く■

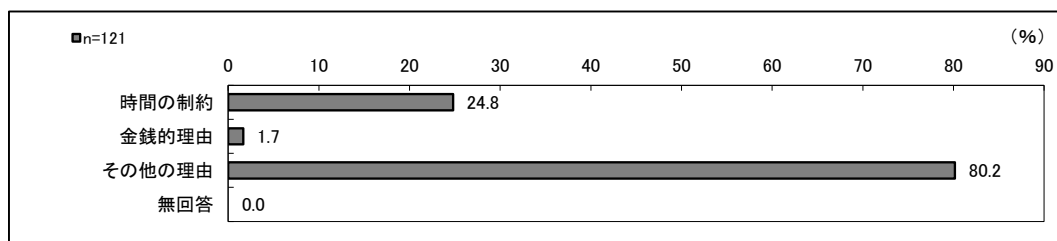


(8) ない理由 ⑦ 学校で部活に入っている

⑦ 学校で部活に入っている

「その他の理由」(80.2%), 「時間の制約」(24.8%), 「金銭的理由」(1.7%)。

■ない理由 ⑦ 学校で部活に入っている■

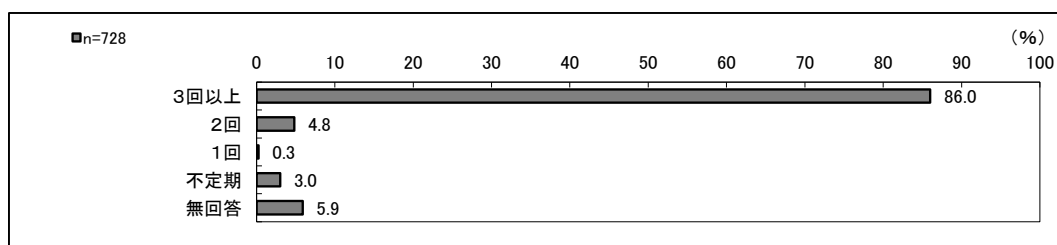


(9) 食事は1日に何回とるか

問 24 食事は1日に何回とっていますか。

「3回以上」(86.0%), 「2回」(4.8%), 「1回」(0.3%), 「不定期」(3.0%)。

■食事は1日に何回とるか■

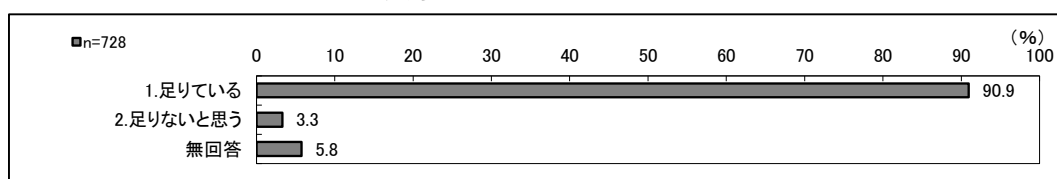


(10) 食事の量は足りているか

問 25 食事の量は足りていると思いますか。

「足りている」(90.9%), 「足りないと思う」(3.3%)。

■食事の量は足りているか■

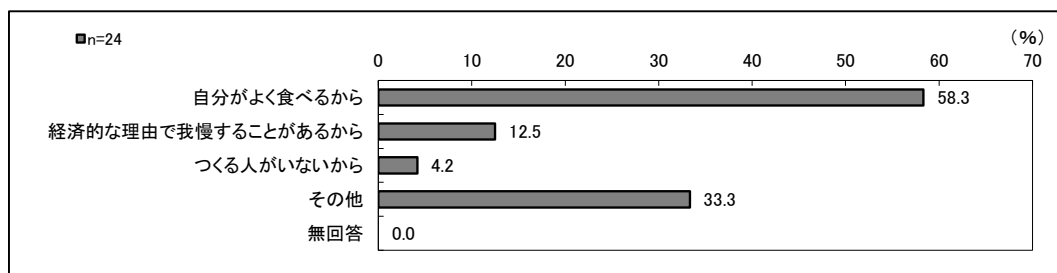


(11) 足りないと思う理由

※ 問 25 で、「2. 足りないと思う」に○をつけた方のみ
 問 25-1 足りないと思う理由は何ですか。【複数回答】

「自分がよく食べるから」(58.3%), 「経済的な理由で我慢することがあるから」(12.5% : 3人), 「つくる人がいないから」(4.2% : 1人), 「その他」(33.3%)。

■足りないと思う理由■



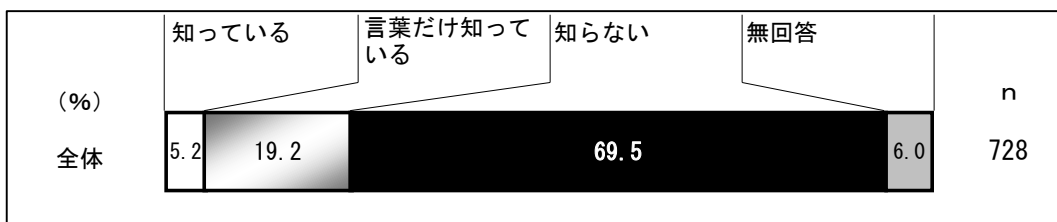
9. 調布市子ども条例及び子どもの権利について

(1) 調布市子ども条例を知っているか

問 26 あなたは、「調布市子ども条例」を知っていますか。

「言葉だけ知っている」(19.2%), 「知っている」(5.2%), 「知らない」(69.5%)。
 回答者の7割近くが「知らない」と回答している。

■調布市子ども条例を知っているか■

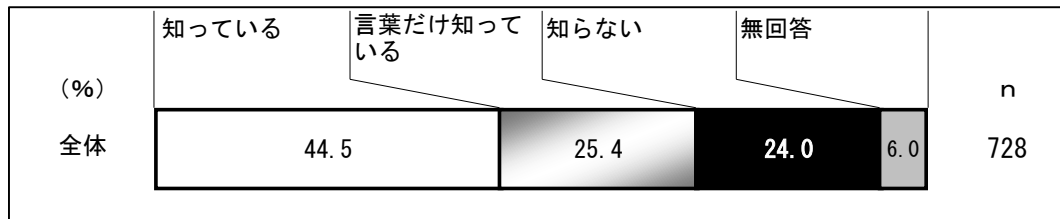


(2) 子どもの権利を知っているか

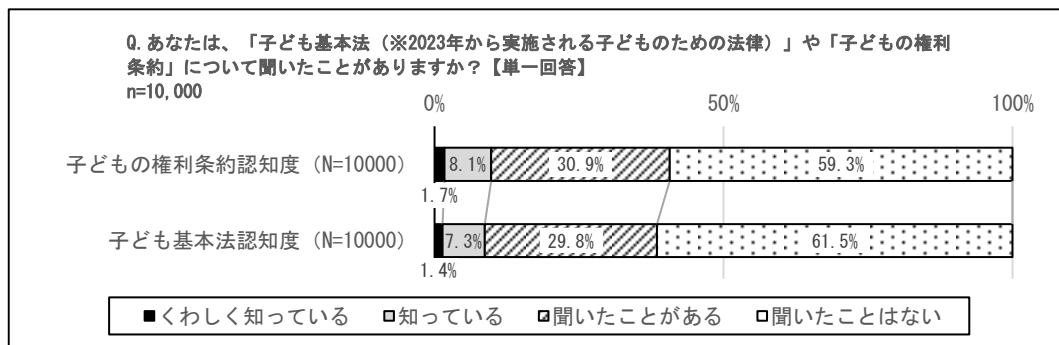
問 27 あなたは、「子どもの権利」を知っていますか。

「知っている」(44.5%), 「言葉だけ知っている」(25.4%), 「知らない」(24.0%)。
 回答者の半数近くが「言葉だけ知っている」、「知らない」と回答している。

■子どもの権利を知っているか■



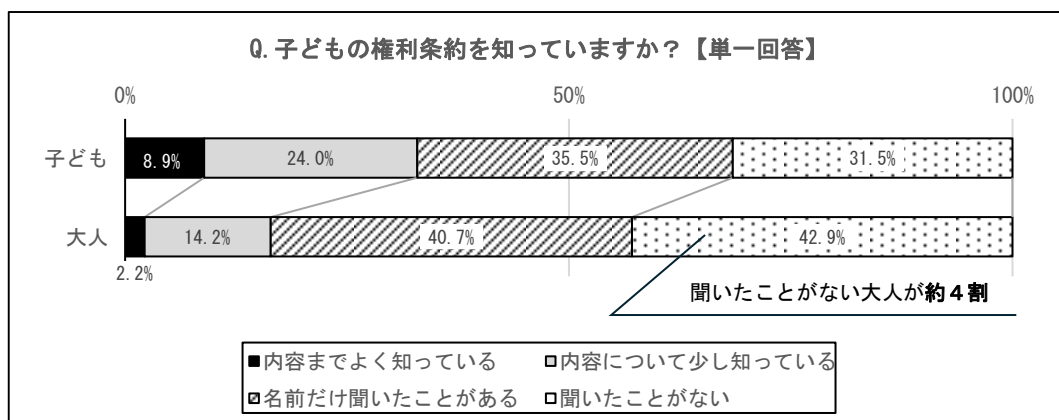
【公益財団法人 日本財団 こども1万人意識調査 (参考)】



調査対象：全都道府県男女 10～18 歳

調査期間：2023 年 3 月 6 日～3 月 12 日

【セーブ・ザ・チルドレン 3万人アンケートから見る子どもの権利に関する意識】



調査対象：全国 15 歳（中学生除く）～80 代

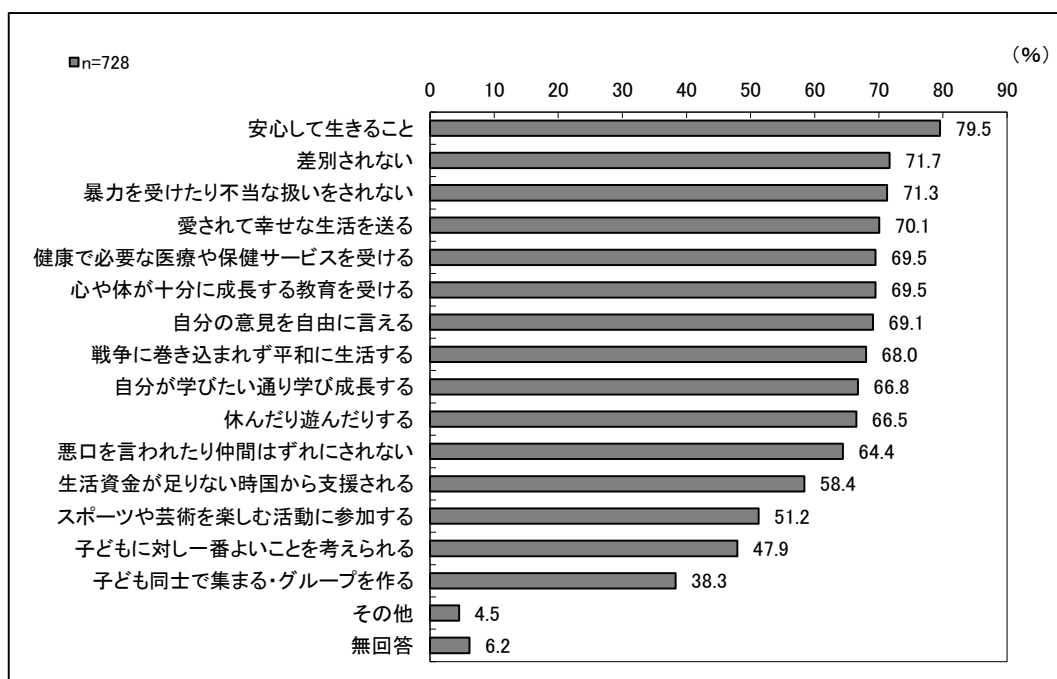
調査期間：2019 年 8 月 5 日～2019 年 8 月 10 日

(3) 大切だと思う子どもの権利

問 28 子どもにとって大切だと思う「子どもの権利」として、あてはまるものは次のうちどれですか。【複数回答】

「安心して生きること」が 79.5%で最も高い割合を占めている。
「差別されない」(71.7%), 「暴力を受けたり不当な扱いをされない」(71.3%), 「愛されて幸せな生活を送る」(70.1%) 等がこれに続く。

■大切だと思う子どもの権利■



(4) 子どもの権利を守るため必要な仕組み

問 29 問 28 に挙げられたような「子どもの権利」を守るためには、どのような仕組みがある
といいと思いますか。【複数回答】

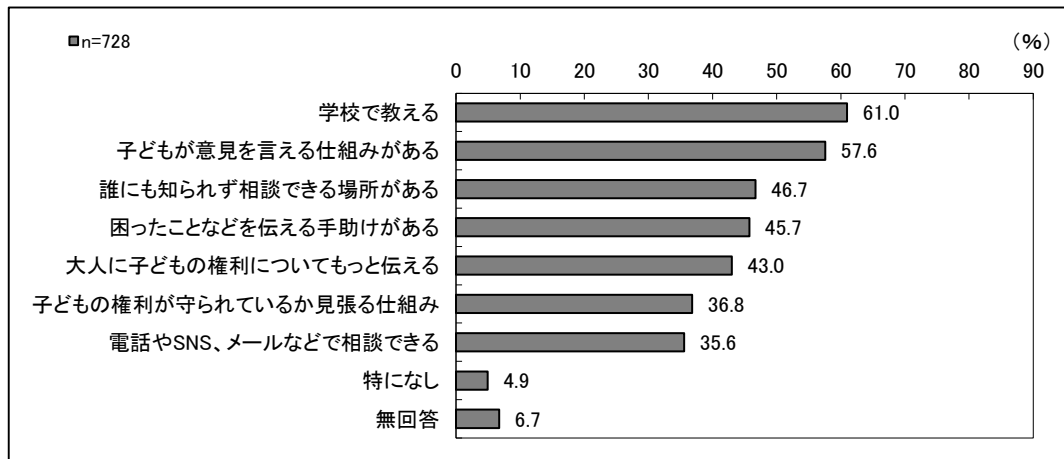


「学校で教える」(61.0%)、「子どもが意見を言える仕組みがある」(57.6%)が高い割合を占めている。

「誰にも知られず相談できる場所がある」(46.7%)、「困ったことなどを伝える手助けがある」(45.7%)、「大人に子どもの権利についてもっと伝える」(43.0%)等がこれに続く。

学校での教育や子どもの権利を守る仕組みづくりが重要とされている。

■子どもの権利を守るため必要な仕組み■



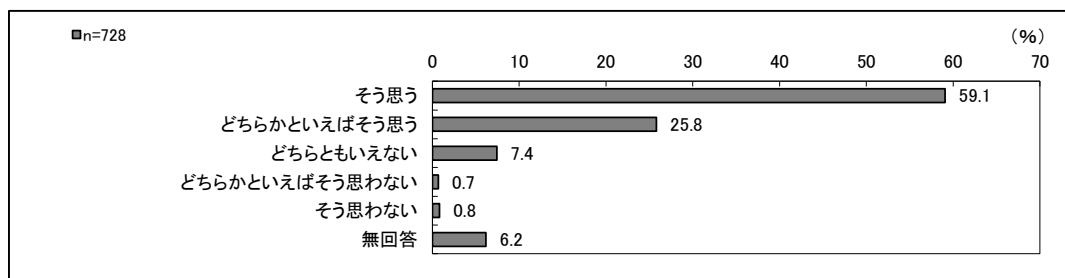
10. 将来の希望について

(1) 周囲の大人は意見を大事にしてくれているか

問 30 家族、親戚、学校の先生等の周囲の大人は、あなたのことについて決めるときに、あなたの意見を聞いて大事にしてくれていると思いますか。

「そう思う」(59.1%),「どちらかといえばそう思う」(25.8%),「どちらともいえない」(7.4%),「そう思わない」(0.8%),「どちらかといえばそう思わない」(0.7%)。
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を足し合わせた“そう思う”は、全体の 84.9%。

■周囲の大人は意見を大事にしてくれているか■

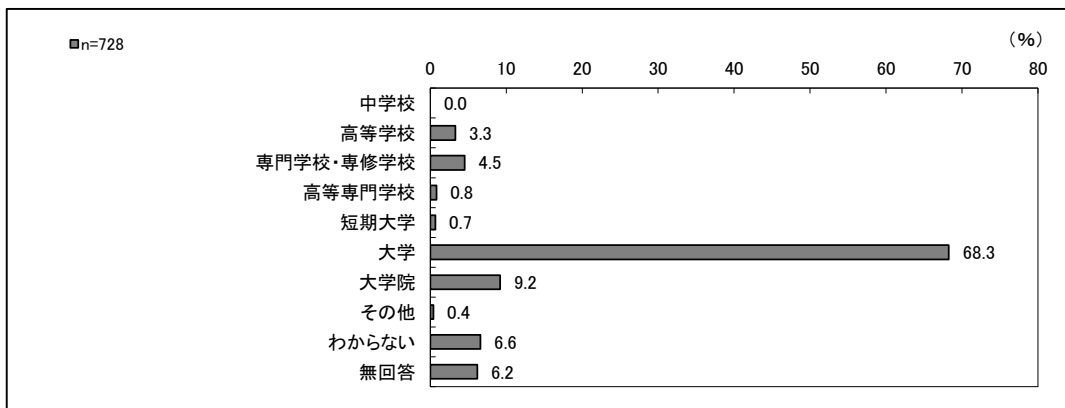


(2) 希望する進学段階

問 31 将来、進学するとしたら、どの段階まで進学したいと思いますか。

「大学」(68.3%) が最も高い割合を占める。
 「大学院」(9.2%),「専門学校・専修学校」(4.5%),「高等学校」(3.3%),「高等専門学校」(0.8%),「短期大学」(0.7%),「その他」(0.4%),「わからない」(6.6%) がこれに続く。
「大学」が最も高い割合を占めており、全体の 7 割近くは大学進学を希望している。

■希望する進学段階■



(3) 進学先の希望理由

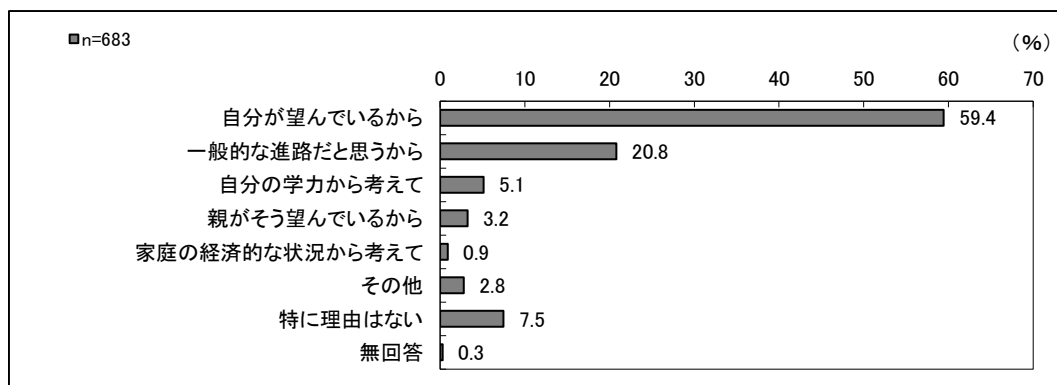
問 32 問 31 で○をつけた回答の理由は何ですか。



「自分が望んでいるから」(59.4%) が最も高い割合を占める。

「一般的な進路だと思うから」(20.8%), 「自分の学力から考えて」(5.1%), 「親がそう望んでいるから」(3.2%), 「家庭の経済的な状況から考えて」(0.9%), 「その他」(2.8%), 「特に理由はない」(7.5%) がこれに続く。

■進学先の希望理由■



11. 現在の悩みや調布市に必要な取組について

(1) 自由意見

問 33 現在、悩み事や困っていることはありますか。ご自由にお答えください。



自由意見については、以下のような回答があげられた。(一部抜粋)
 ※いただいた意見の内容は、原則として、原文を基に掲載

■悩み事や困っていること■

分類	悩み事や困っていること
学校教育	大学進学後の進路について。
学校教育	受験勉強について。
学校教育	部活動の時間が少ないです！！土日だけでも、増やしていただけないでしょうか
学校教育	将来の夢。
相談	性別のことで悩んでいます。親の LGBTQ+に関する理解が不十分でどこかに相談したくても親にバレたらと思うと相談できません。 また同性と結婚できるパートナーシップ制度が調布市にもあったらいいなと思います。
相談	もし周りの仲のいい友達の家などの環境が良くない(生徒、先生、親)時はどうしたらいいのか。
遊び場	畑や緑地が減ってしまい、家やマンションに変わって自然破壊や災害がおこった時に心配です。 地球温暖化、平和な社会が失われつつあり、とても不安です。 これ以上家を増やさないでほしいです。 木を切らないで緑を増やしてほしいです。
遊び場	公園をもっと増やしてほしい。(子供達のがのびのび遊べる所、家だけでなく)。
遊び場	ピアノを家で弾くと、近所めいわくと怒られてしまったり、家族にもうるさいと言われてしまうので、大きい音で誰にもめいわくがかからないピアノのひける場所がほしいです。 バスケットコートがほしいです。
遊び場	公園でサッカーをしたい。
経済的支援	大学の費用の心配。
医療	18 歳以下の子どもが無料で医療機関を受診できるようになったことは、とてもありがたかったです。 身体の調子は心の調子にも繋がるので、不安や心配を感じる事がなく生活できてありがたかったです。

分類	悩み事や困っていること
障がい	精神発達におくれがある為、自閉的できっかけがないと買い物に行けない。 精神的に不安症がある為、調理が出来ない。 ヤングケアラーのサポーターの教育とボランティア教育。
障がい	強迫性障害についてあまり学校の理解がないこと。
虐待・いじめ	こども同士の仲間はずれを減らすことが必要だと思っている。
インフラ	バスの通ってない地域が不便。歩道が狭くて通りにくい。
居場所	東部児童館の明るい職員さんと一緒に卓球をすることがとても楽しいです。 とてもお世話になっています。 他の児童館も東部児童館のように中高生だけが遊べる時間を設けてほしいです。
居場所	調布市に自習スペースがなく気軽に利用できて使いやすくお金のかからない自習スペースが欲しいです。
居場所	学校がない間、外の人と関わる機会がない。
居場所	ゆっくり安心できる場所がない。
居場所	調布は学校に行っていない子や行きづらい子が通えるような、いわゆるフリースクール的な存在が足りないと感じます。 わたしが学校に行かなくなったときに身近に通えるようなフリースクールがなく、とても困ったことを覚えています。 太陽の子もいっぱいですぐには入れないと言われてしまいました。
その他	土日に習い事があって入りたい部活に入れなくなること。 ロードバイクがなくてかなしい。
政策全般	選挙の日程を分かりやすく広報してほしい。 調布市民の職業内分けをもっと調査して広めるべきだ。 納税額に応じたサービスを実施してほしい。 商品券で配ってみましょう。 子供選挙を実施。議会にその当選した子供（各学校1名）を招待させて活性化を図る。大人もやる気がでますね！ コンテストまとめを子供に配布。
政策全般	調布市は、自分が通学している多摩市と比べて子どもの参政権が少ないと思う。 若者会議を直ちに開催し、若者の政治離れを防げ。 そして、周りを見ずに自主的に新しいことをするべきである。

(2) 市が特に取り組むべきこと

問 34 子どもや若者が希望をもてる調布市となるために、調布市が特に取り組むべきことは何だと思いませんか。【複数回答】

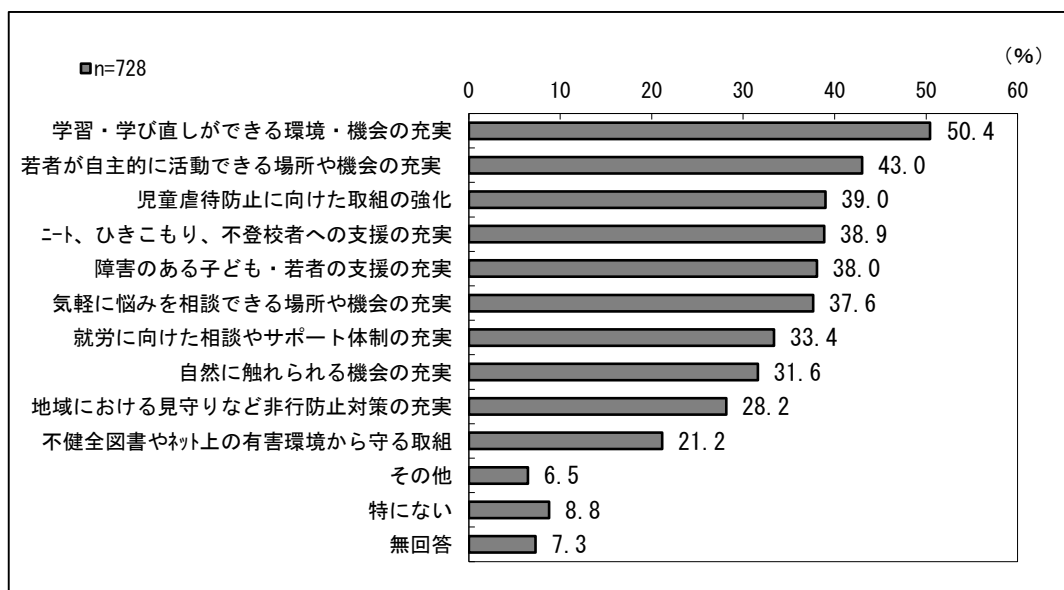


「学習・学び直しができる環境・機会の充実」(50.4%)が最も高い割合を占める。

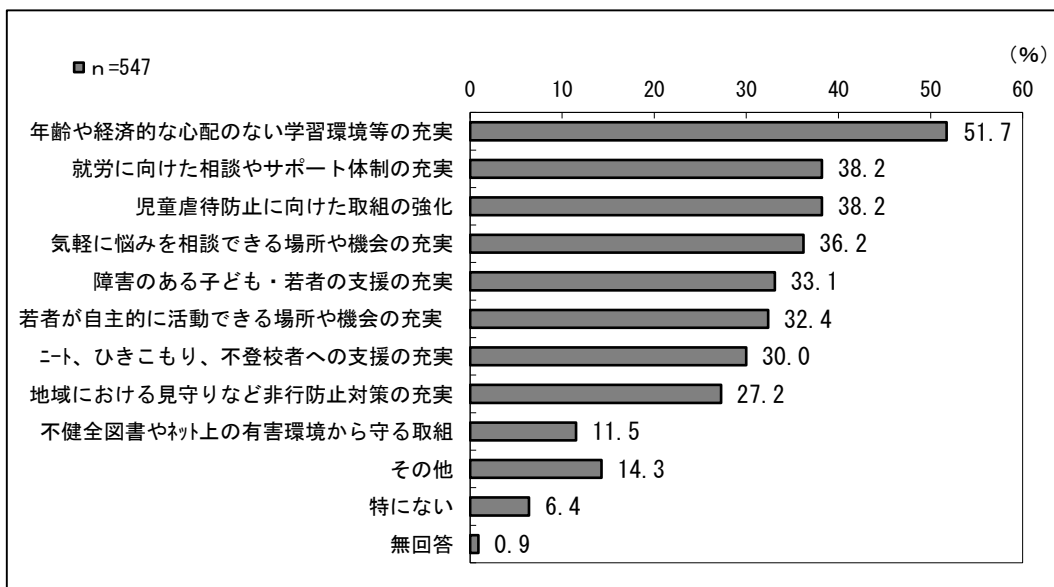
「若者が自主的に活動できる場所や機会の充実」(43.0%)、「児童虐待防止に向けた取組の強化」(39.0%)、「ニート、ひきこもり、不登校者への支援の充実」(38.9%)等がこれに続く。

■市が特に取り組むべきこと■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



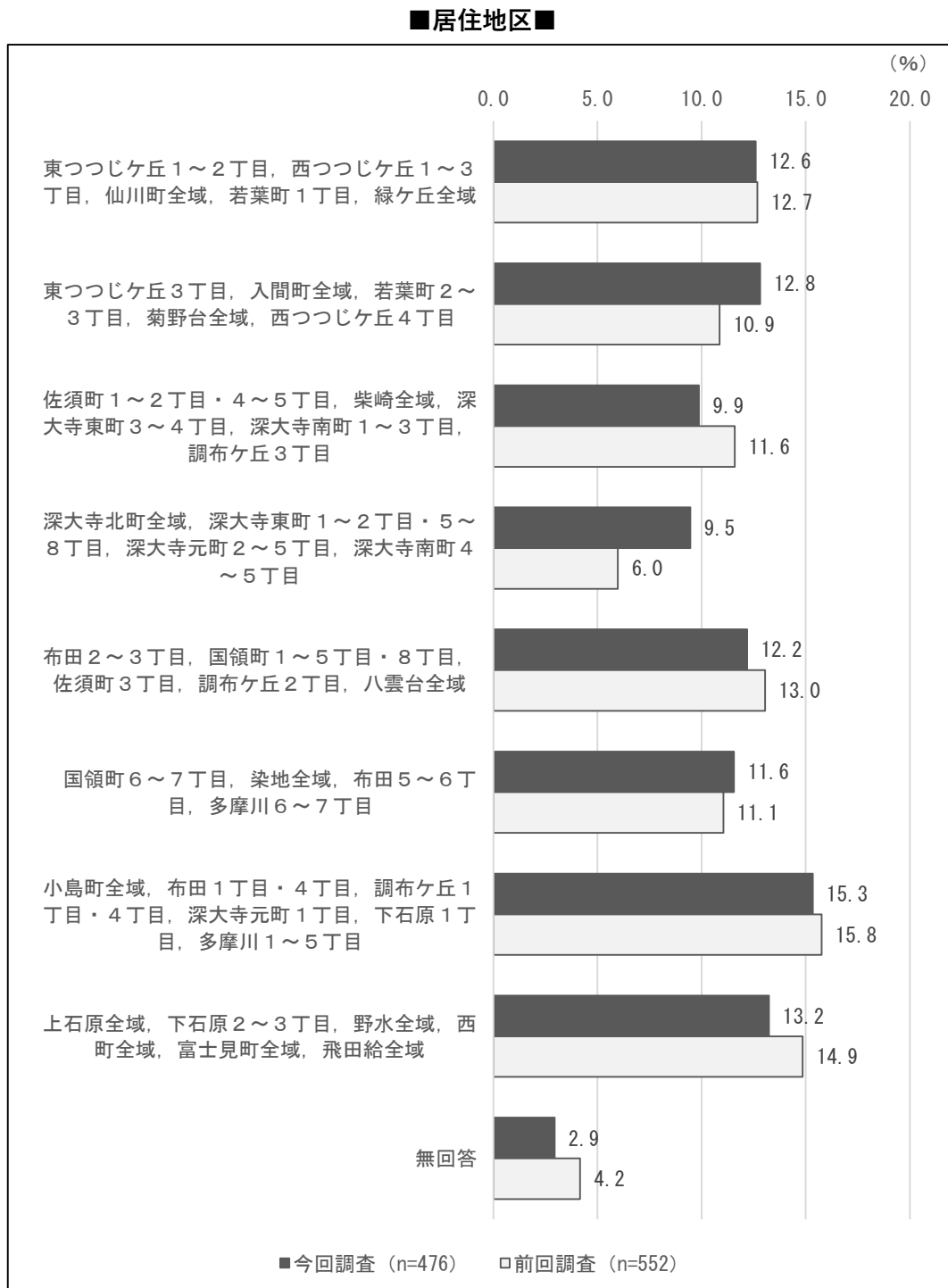
第3部 高校卒業年代～39歳対象調査

子ども・若者支援に関するニーズ調査【高校卒業年代～39歳】

1. 居住地区について

(1) 居住地区

問1 お住まいの地区としてあてはまるのは次のうちどれですか。



2. 本人と家庭の状況について

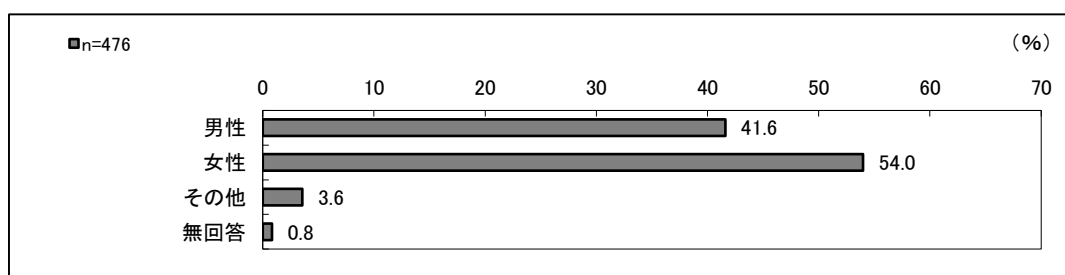
(1) 性別

問2 あなたの性別をお答えください。

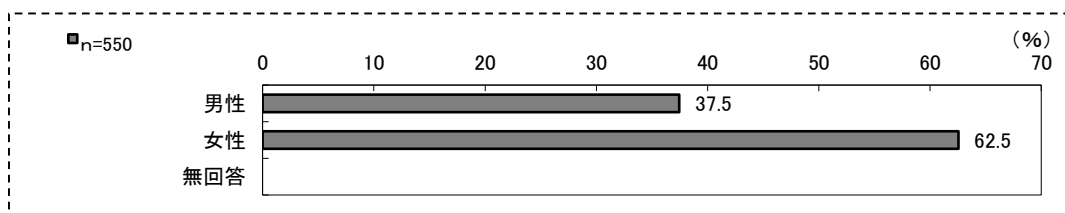
「女性」(54.0%)、「男性」(41.6%)、「その他」(3.6%)。
前回調査結果と比べて、「男性」の回答割合が増えている。

■性別■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



(2) 年齢

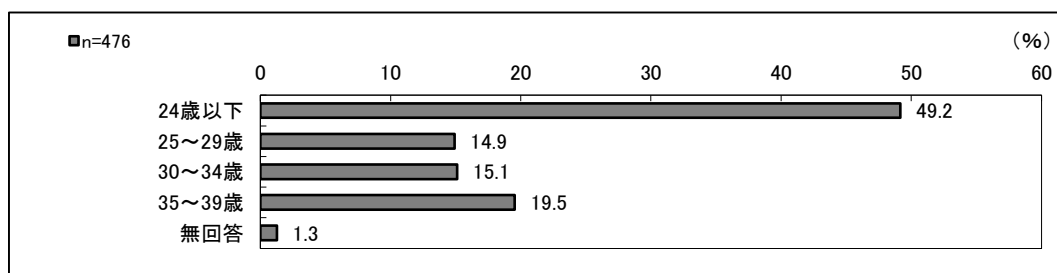
問3 あなたの令和5年4月1日現在の年齢は次のうちどれにあてはまりますか。

「24歳以下」(49.2%)の回答が半数近くを占める。

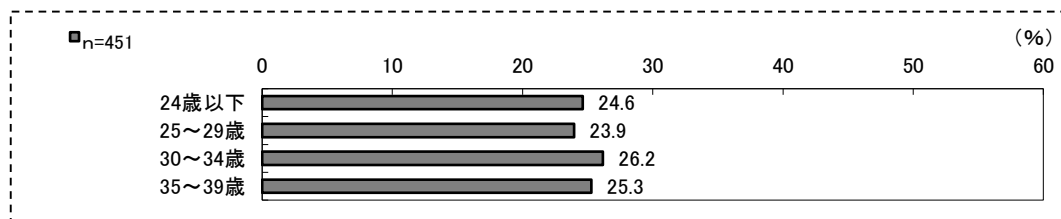
「35～39歳」(19.5%), 「30～34歳」(15.1%), 「25～29歳」(14.9%)がこれに続く。

■年齢■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



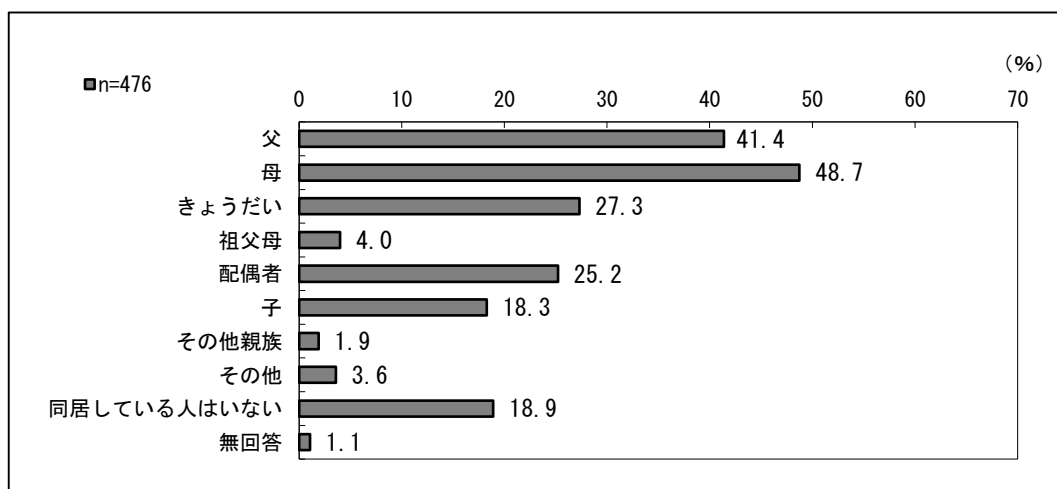
(3) 現在同居している人

問4 現在、あなたと同居している人をすべてお答えください。【複数回答】

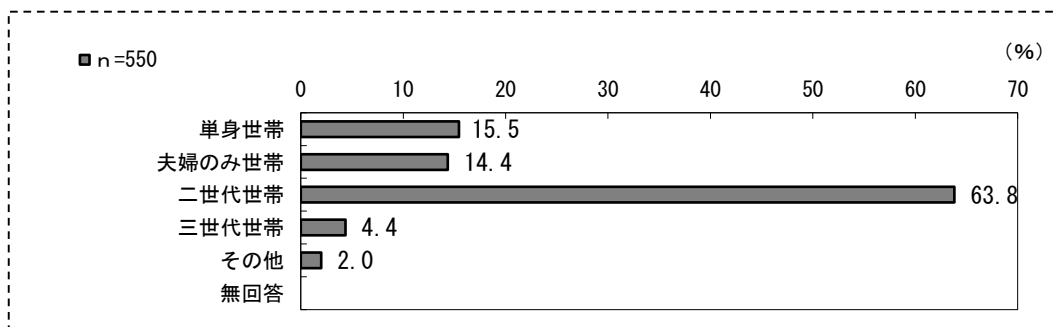
「母」(48.7%), 「父」(41.4%), 「きょうだい」(27.3%), 「配偶者」(25.2%), 「子」(18.3%), 「祖父母」(4.0%), 「その他親族」(1.9%), 「その他」(3.6%), 「同居している人はいない」(18.9%)。

■現在同居している人■

【今回調査】



【前回調査（参考）】世帯構成

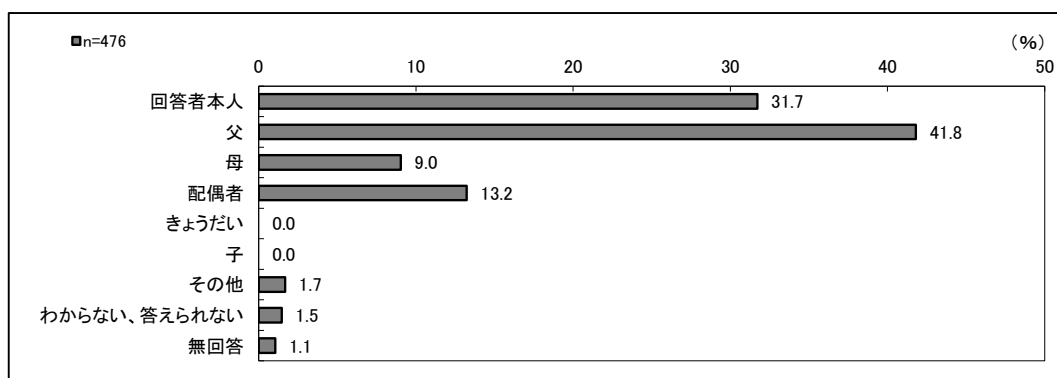


(4) 主に生計を立てている人

問 5 あなたの家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。

「父」(41.8%)、「回答者本人」(31.7%)、「配偶者」(13.2%)、「母」(9.0%)、「その他」(1.7%)、「わからない、答えられない」(1.5%)。

■主に生計を立てている人■

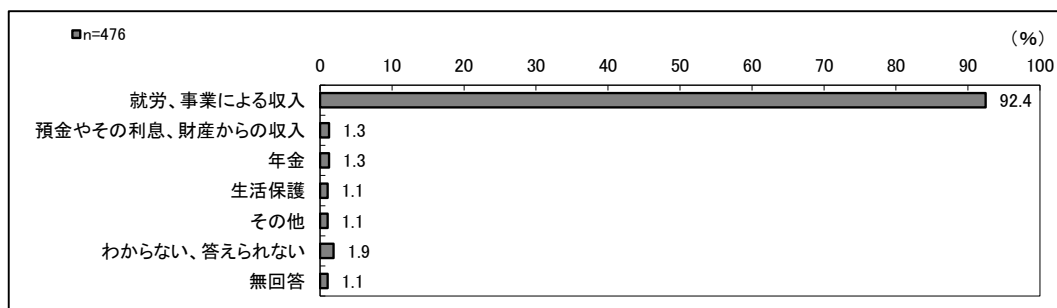


(5) 主な収入源

問 6 あなたの家の生活を支えている主な収入源は何ですか。

「就労、事業による収入」が92.4%で最も高い割合を占めている。「預金やその利息、財産からの収入」(1.3%)、「年金」(1.3%)、「生活保護」(1.1%)、「その他」(1.1%)、「わからない、答えられない」(1.9%)がこれに続く。

■主な収入源■



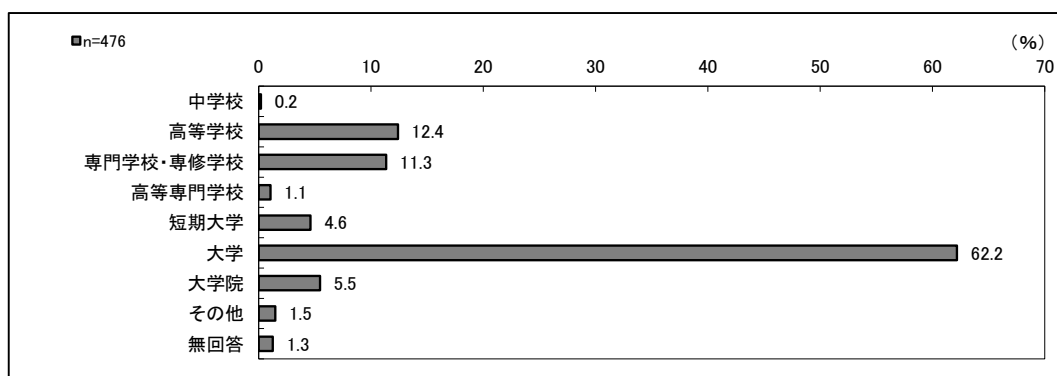
(6) 最終学歴

問7 あなたの最後に卒業（中退を含む）した学校を教えてください。学生の場合、現在在学している学校の種類を教えてください。

「大学」が62.2%で最も高い割合を占めている。

「高等学校」(12.4%)、「専門学校・専修学校」(11.3%)、「大学院」(5.5%)、「短期大学」(4.6%)、「高等専門学校」(1.1%)、「中学校」(0.2%)、「その他」(1.5%)がこれに続く。

■最終学歴■



(7) 学費はどのように工面したか

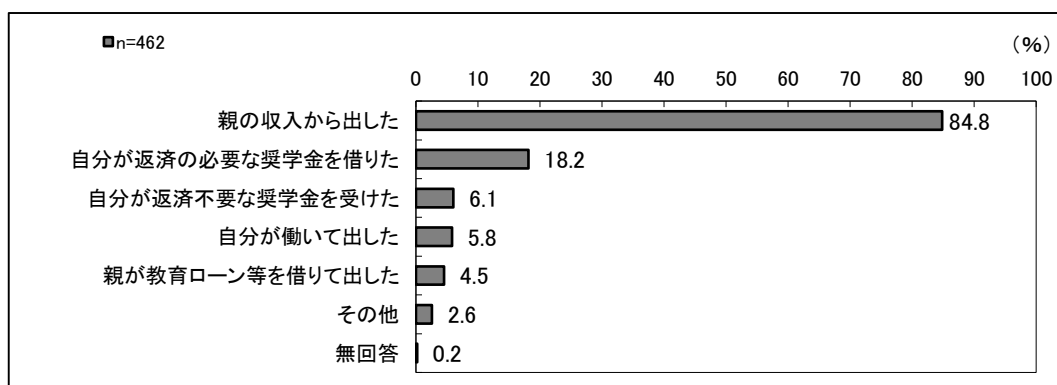
※ 問7で「2～7」を選んだ方のみ

問7-1 学費はどのように工面しましたか（していますか）。【複数回答】

「親の収入から出した」が84.8%で最も高い割合を占めている。

「自分が返済の必要な奨学金を借りた」(18.2%)、「自分が返済不要な奨学金を受けた」(6.1%)、「自分が働いて出した」(5.8%)、「親が教育ローン等を借りて出した」(4.5%)、「その他」(2.6%)がこれに続く。

■学費はどのように工面したか■

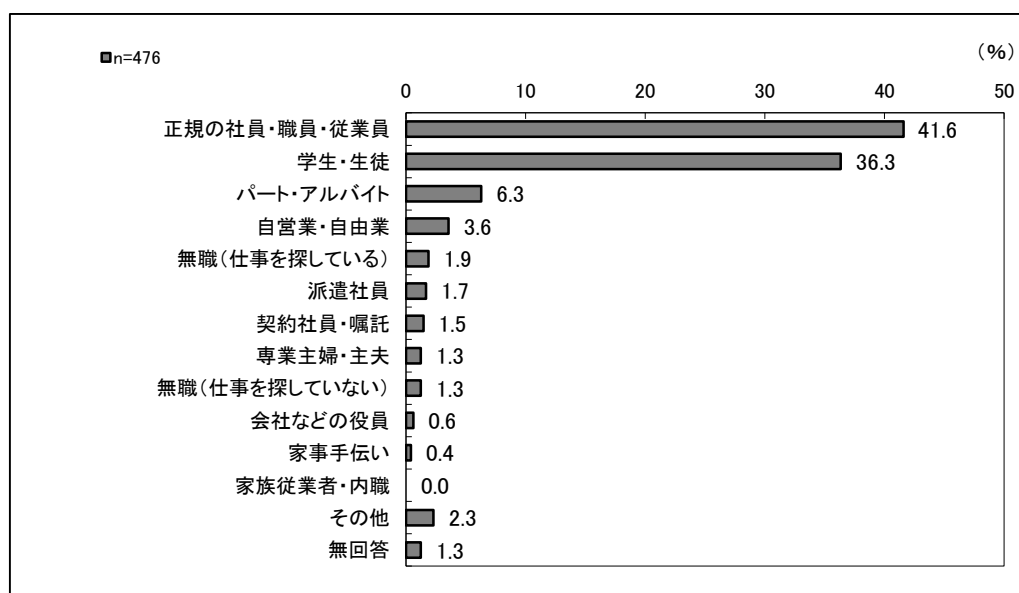


(8) 現在の状況

問8 あなたの現在の状況について、次のうちあてはまるものはどれですか。

「**正規の社員・職員・従業員**」(41.6%)、「**学生・生徒**」(36.3%)が全体の**77.9%**を占める。
「パート・アルバイト」(6.3%)、「自営業・自由業」(3.6%)、「無職(仕事を探している)」(1.9%)等がこれに続く。

■現在の状況■

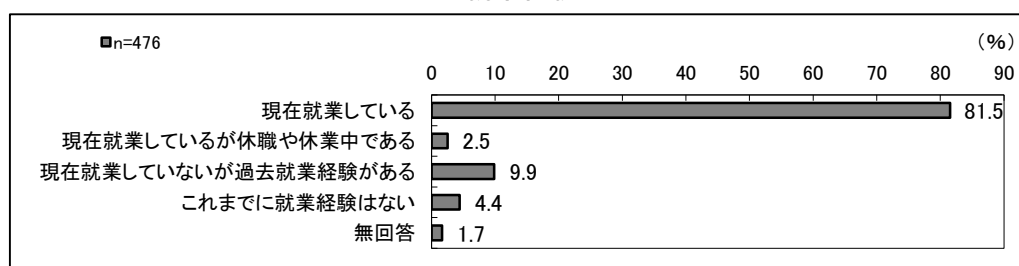


(9) 就業経験

問9 あなたの就業経験(パート・アルバイトを含む)について、次のうちあてはまるものはどれですか。

「**現在就業している**」が**81.5%**で最も高い割合を占めている。
「現在就業していないが過去就業経験がある」(9.9%)、「これまでに就業経験はない」(4.4%)、「現在就業しているが休職や休業中である」(2.5%)がこれに続く。

■就業経験■



3. 人とのつながりについて

(1) 居場所

問 10 次の(1)～(6)の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所）になっていますか。

(1)自分の部屋, (2)家庭（親戚の家を含む）, (3)学校, (4)職場（過去の職場を含む）, (5)地域（図書館, 公民館, 公園, 子ども食堂など, 現在住んでいる場所やそこにある建物等）, (6)インターネット空間（SNS, YouTube やオンラインゲームなど）



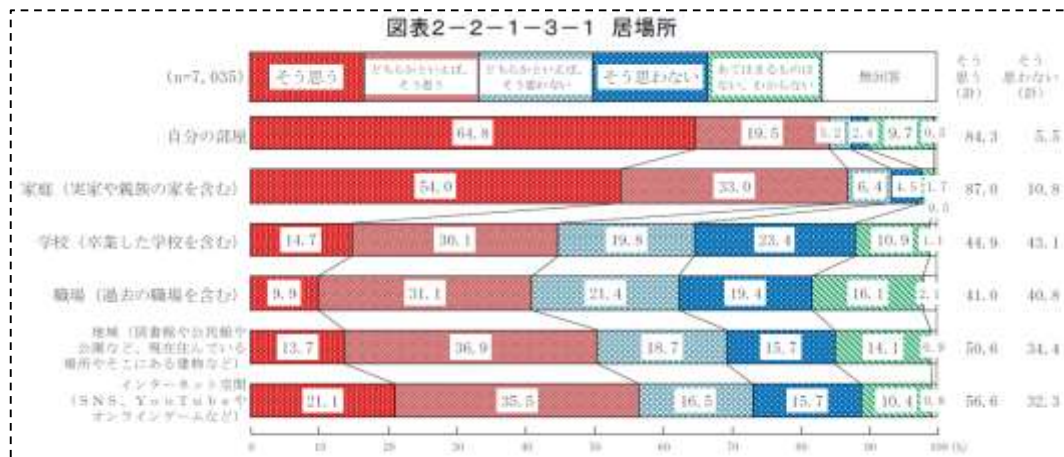
「そう思う」, 「どちらかといえばそう思う」を足し合わせた「そう思う」の割合は、上位から「(1)自分の部屋」(87.2%), 「(2)家庭」(85.9%), 「(6)インターネット空間」(60.3%), 「(5)地域」(59.1%), 「(4)職場」(55.8%), 「(3)学校」(41.0%)となっている。

■居場所■

【今回調査】

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	あてはまるものはない・わからない	無回答	n
(1) 自分の部屋	74.2				13.0	7.4	476
(2) 家庭	59.2			26.7	6.1		476
(3) 学校	16.2	24.8	7.6	7.8	34.7	9.0	476
(4) 職場	17.4	38.4		20.2	13.7	5.9	476
(5) 地域	18.3	40.8		14.5	8.6	13.7	476
(6) インターネット空間	29.2	31.1		17.2	10.7	8.0	476

【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(2) 孤独であると感じることがあるか

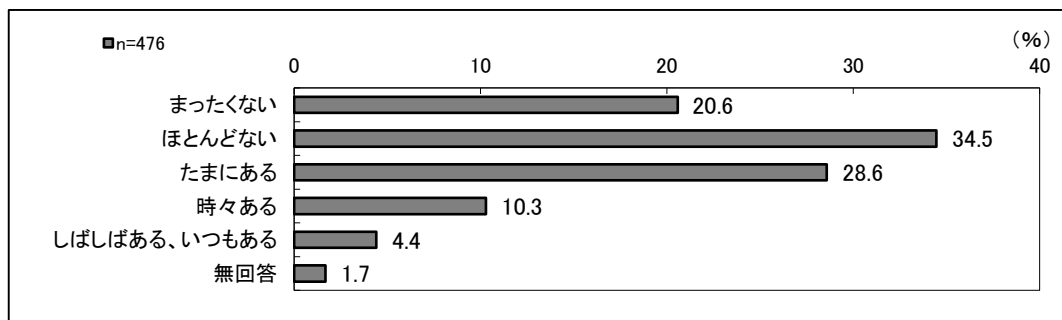
問 11 あなたは、自分が孤独であると感じることがありますか。

「ほとんどない」(34.5%)、「たまにある」(28.6%)、「まったくない」(20.6%)、「時々ある」(10.3%)、「しばしばある、いつもある」(4.4%)。

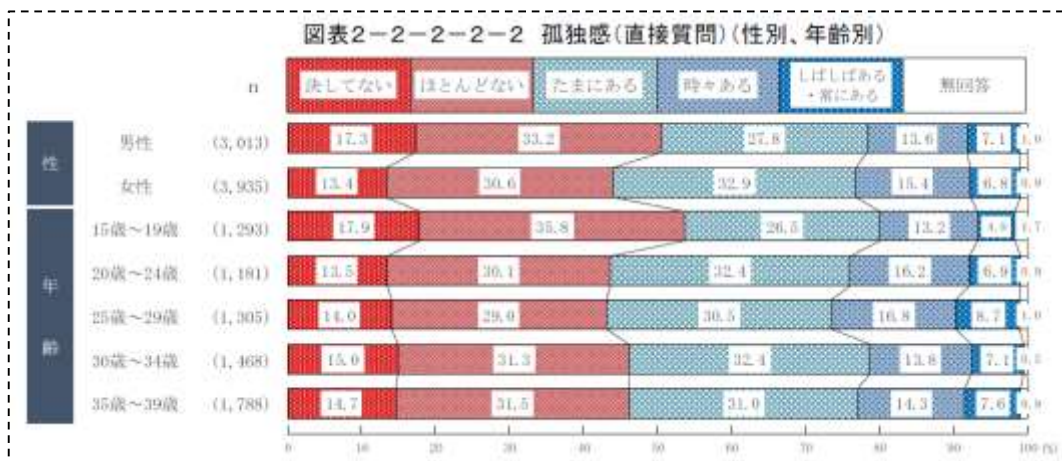
「たまにある」、「時々ある」、「しばしばある、いつもある」を足し合わせると、全体の43.3%にのぼる。

■孤独であると感じることがあるか■

【今回調査】



【子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

4. 他者との関わりについて

(1) 家族・親せきとの関わり

問 12 家族・親せきとあなたの関わりは、どのようなものですか。

(1)会話やメール等をよくしている, (2)何でも悩みを相談できる人がいる, (3)こまったときは助けてくれる, (4)他の人には言えない本音を話せることがある

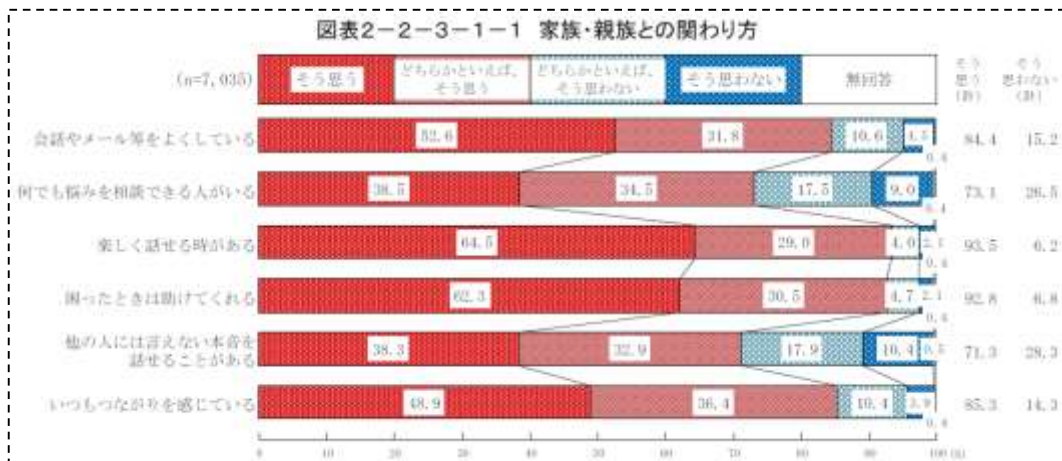
家族・親せきとの関わりについては以下とおり。

■家族・親せきとの関わり■

【今回調査】

(%)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	n
会話やメール等をよくしている	53.4		26.9	12.4	4.6 / 2.7	476
悩みを相談できる人がいる	43.7		29.8	15.5	7.8 / 3.2	476
こまったときは助けてくれる	61.8		25.6	6.9	2.7 / 2.9	476
人に言えない本音を話せる	33.4		34.9	17.6	10.9 / 3.2	476

【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(2) 友人との関わり

問 13 学校で出会った友人（現在通っている学校の友人，かつての同窓生など）と，あなたの現在の関わりは，どのようなものですか。

(1)会話やメール等をよくしている，(2)何でも悩みを相談できる人がいる，(3)こまったときは助けてくれる，(4)他の人には言えない本音を話せることがある



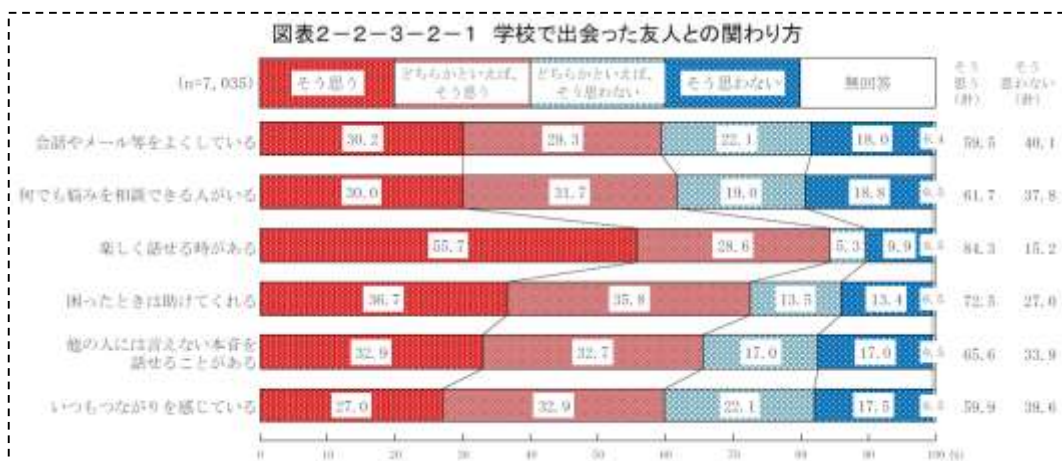
友人との関わりについては以下とおり。

■友人との関わり■

【今回調査】

(%)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	n
会話やメール等をよくしている	39.3	31.1	14.9	11.6	3.2	476
悩みを相談できる人がいる	34.0	35.5	15.3	11.8	3.4	476
こまったときは助けてくれる	37.8	35.1	13.2	10.5	3.4	476
人に言えない本音を話せる	31.1	34.2	16.4	14.3	4.0	476

【子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(3) 職場・アルバイト関係の人との関わり

問 14 職場・アルバイト関係の人（現在及び過去の職場の同僚・上司・部下，その他仕事の関係で知り合った人など）と，あなたの現在の関わりは，どのようなものですか。

(1)会話やメール等をよくしている，(2)何でも悩みを相談できる人がいる，(3)こまったときは助けてくれる，(4)他の人には言えない本音を話せることがある



職場・アルバイト関係の人との関わりについては以下とおり。

■職場・アルバイト関係の人との関わり■

(%)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	就労経験がない	無回答	n
会話やメール等をよくしている	18.7	33.0	20.2	21.6	3.2	3.4	476
悩みを相談できる人がいる	14.7	28.2	22.3	27.9	3.2	3.8	476
こまったときは助けてくれる	21.8	38.7	19.1	13.4	3.4	3.6	476
人に言えない本音を話せる	10.1	22.1	25.4	35.3	3.4	3.8	476

(4) 地域の人との関わり

問 15 地域の人（近所の人、町内会などの知人、消防団などの地域活動での知人、習い事での知人、参加している NPO 法人など）とあなたの関わりは、どのようなものですか。

(1)会話やメール等をよくしている、(2)何でも悩みを相談できる人がいる、(3)こまったときは助けてくれる、(4)他の人には言えない本音を話せることがある

地域の人との関わりについては以下とおり。

■地域の人との関わり■

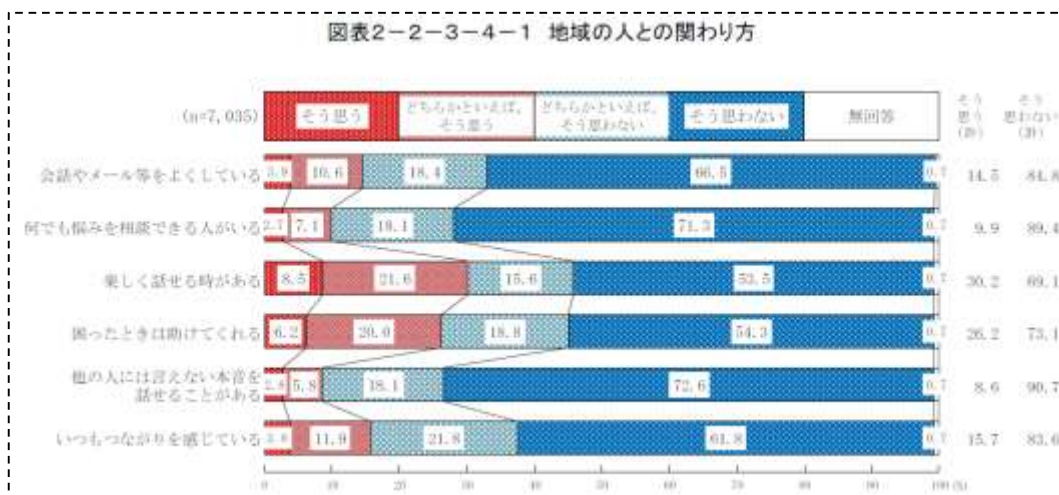
【今回調査】

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	n
会話やメール等をよくしている	8.4	16.8		66.8		476
悩みを相談できる人がいる	6.3	17.6		68.7		476
こまったときは助けてくれる	6.5	17.2	16.8	55.3		476
人に言えない本音を話せる		16.0		71.6		476

(%)

2.9 4.8 4.6

【子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(5) インターネット空間との関わり

問 16 インターネット（SNS、オンラインゲーム等を含む）上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）とあなたの関わりは、どのようなものですか。

(1)会話やメール等をよくしている、(2)何でも悩みを相談できる人がいる、(3)こまったときは助けてくれる、(4)他の人には言えない本音を話せることがある



インターネット空間との関わりについては以下のとおり。

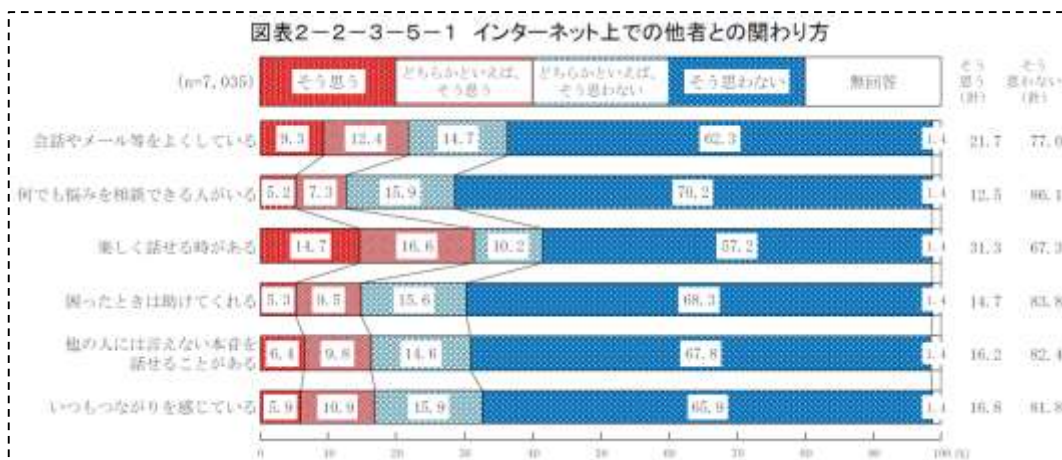
問 10 では、全体の 60.3%がインターネット空間を居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）と回答しているものの、悩みの相談先、困ったとき頼れる先、本音を話せる先と認識して関わっている割合は全体の 2 割に満たない。

■インターネット空間との関わり■

【今回調査】

関わり方	割合 (%)					n
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答	
会話やメール等をよくしている	10.9	10.3	17.6	58.0	3.2	476
悩みを相談できる人がいる	6.1	8.2	18.9	63.7	3.2	476
こまったときは助けてくれる	6.1	8.0	17.4	65.3	3.2	476
人に言えない本音を話せる	7.8	7.8	17.9	63.4	3.2	476

【子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

5. 自身の将来像について

(1) 将来について明るい希望を持っているか

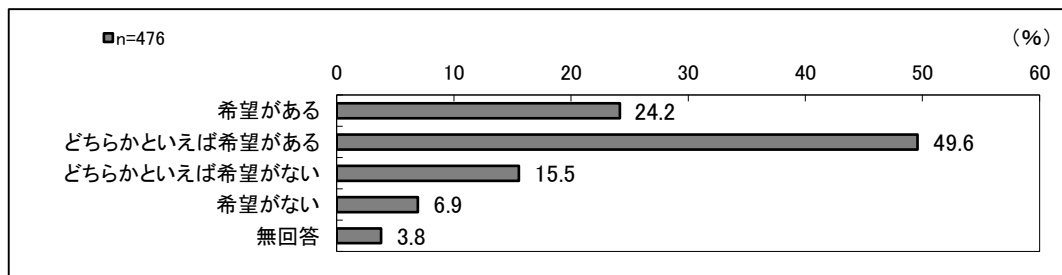
問 17 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。

「どちらかといえば希望がある」(49.6%)、「希望がある」(24.2%)、「どちらかといえば希望がない」(15.5%)、「希望がない」(6.9%)。

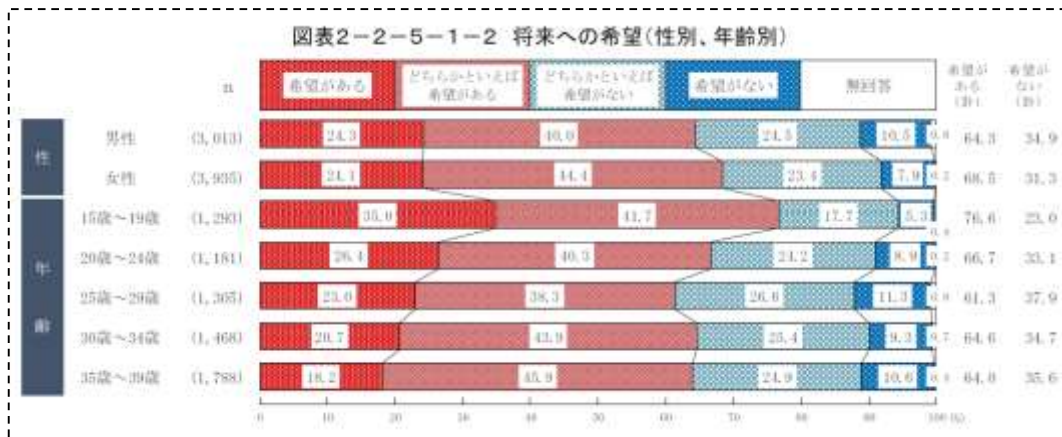
「どちらかといえば希望がない」と「希望がない」を足し合わせた“希望がない”は全体の 22.4% となっており、回答者のおよそ 5 人に 1 人が自分の将来に明るい希望を持っていない。

■将来について明るい希望を持っているか■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

6. 普段の活動について

(1) 家での過ごし方

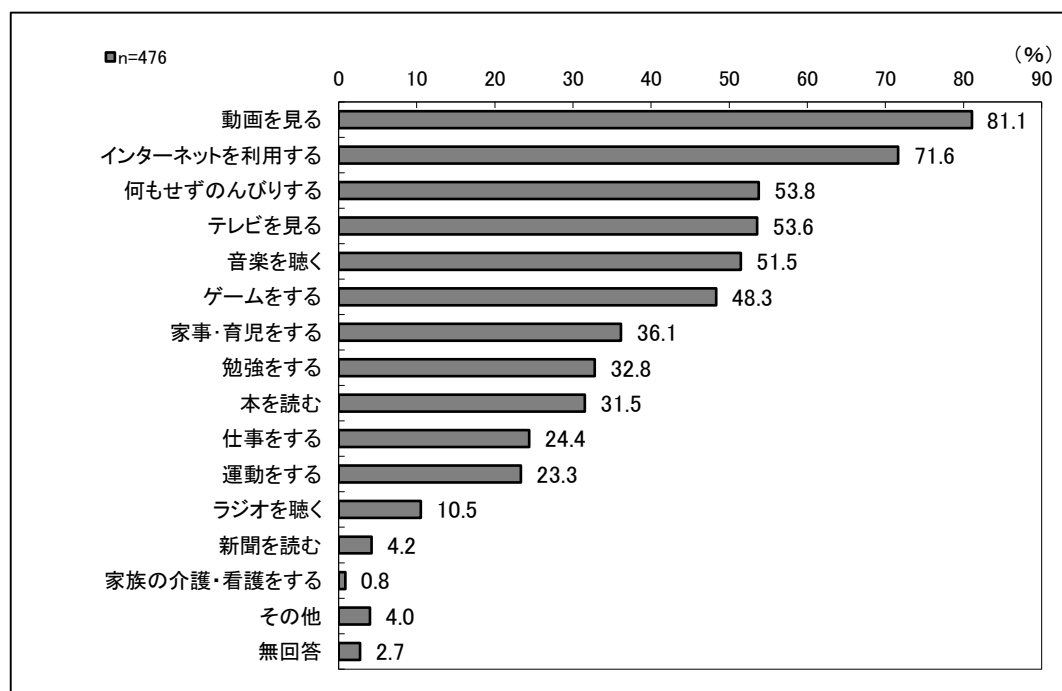
問 18 普段家（暮らしている場所）にいるときは、どんなことに時間を使っていますか。

【複数回答】

「動画を見る」(81.1%)、「インターネットを利用する」(71.6%)が高い割合を占めている。「何もせずのんびりする」(53.8%)、「テレビを見る」(53.6%)、「音楽を聴く」(51.5%)、「ゲームをする」(48.3%)、「家事・育児をする」(36.1%)、「勉強をする」(32.8%)、「本を読む」(31.5%)、「仕事をする」(24.4%)、「運動をする」(23.3%)、「ラジオを聴く」(10.5%)、「新聞を読む」(4.2%)、「家族の介護・看護をする」(0.8%)、「その他」(4.0%)がこれに続く。

■家での過ごし方■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-6-1-2 家でよくしていること(性別、年齢別)

		n	インターネットをする	テレビを見る	家事をする	ゲームをする	育児をする	勉強をする	本を読む	仕事をする	ラジオを聴く	新聞を読む	介護・看護をする	あてはまるものはない	無回答
性	男性	(3,013)	75.4	56.0	38.7	63.5	18.4	28.1	27.3	19.4	7.0	4.3	0.7	1.3	0.6
	女性	(3,935)	78.0	67.1	60.8	38.0	31.7	23.0	23.3	14.9	6.2	2.7	1.1	0.8	0.3
年齢	15歳～19歳	(1,293)	78.0	57.2	18.3	62.6	0.6	55.3	23.4	2.9	5.8	2.7	0.3	1.4	0.8
	20歳～24歳	(1,191)	79.7	55.6	14.5	53.8	2.5	31.3	24.6	12.6	6.6	2.3	0.8	1.8	0.3
	25歳～29歳	(1,305)	78.4	61.6	21.6	47.8	19.5	16.2	24.0	21.9	6.6	1.7	1.3	0.8	0.5
	30歳～34歳	(1,408)	78.0	64.7	66.8	44.3	42.0	15.1	24.5	21.1	6.7	3.8	1.2	0.4	0.3
	35歳～39歳	(1,780)	71.9	61.7	70.2	41.6	59.7	14.4	27.8	22.5	8.2	5.4	1.1	1.1	0.3

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(2) 学習や仕事以外のインターネット利用時間／日

問 19 あなたは、普段学習や仕事以外でインターネット（SNS、オンラインゲーム等を含む）をどれくらい利用していますか。

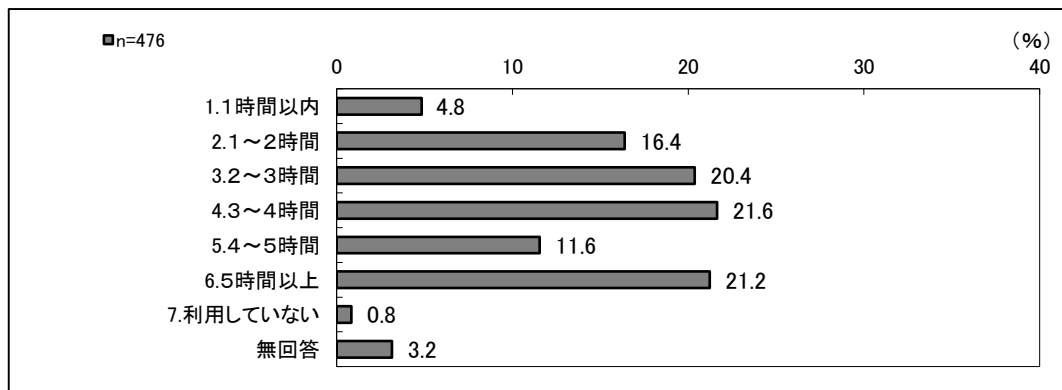


「3～4時間」（21.6%）、「5時間以上」（21.2%）、「2～3時間」（20.4%）、「1～2時間」（16.4%）、「4～5時間」（11.6%）、「1時間以内」（4.8%）、「利用していない」（0.8%）。

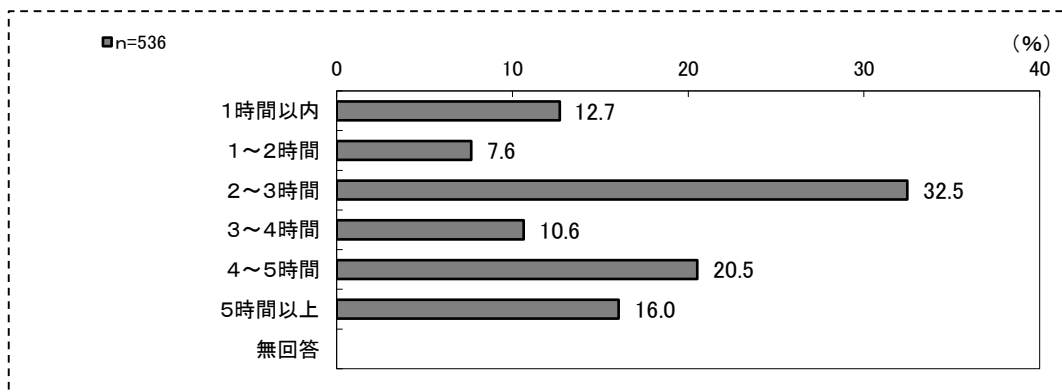
“2時間以上”が全体の7割を超えており（74.8%）、うち「5時間以上」の割合が全体の21.2%にのぼる。

■ 学習や仕事以外のインターネット利用時間／日 ■

【今回調査】



【前回調査（参考）】 休日:インターネットの利用時間



(3) インターネットを利用する際に課題と感ずること

※ 問 19 で「1」～「6」を選んだ方のみ

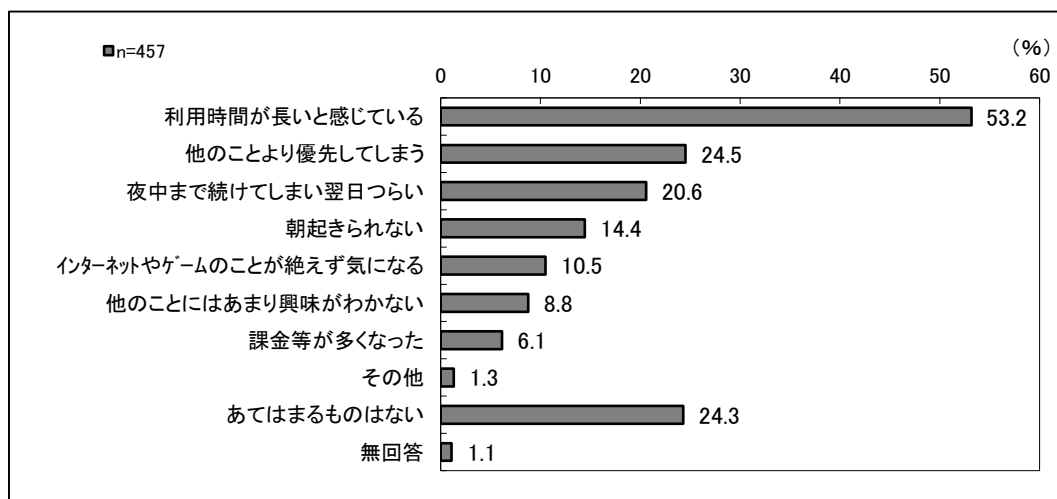
問 19-1 インターネット（SNS、オンラインゲーム等を含む）を利用することで、課題と感ずていることはありますか。【複数回答】



「利用時間が長いと感ずている」が 53.2% で最も高い割合を占めている。

「他のことより優先してしまう」(24.5%)、「夜中まで続けてしまい翌日つらい」(20.6%)、「朝起きられない」(14.4%)、「インターネットやゲームのことが絶えず気になる」(10.5%)、「他のことにはあまり興味がわかない」(8.8%)、「課金等が多くなった」(6.1%) 等がこれに続く。

■ インターネットを利用する際に課題と感ずること ■



(4) 普段利用するソーシャルメディア・通信手段

問 20 次のソーシャルメディア・通信手段のなかで、普段利用しているものは何ですか。

【複数回答】



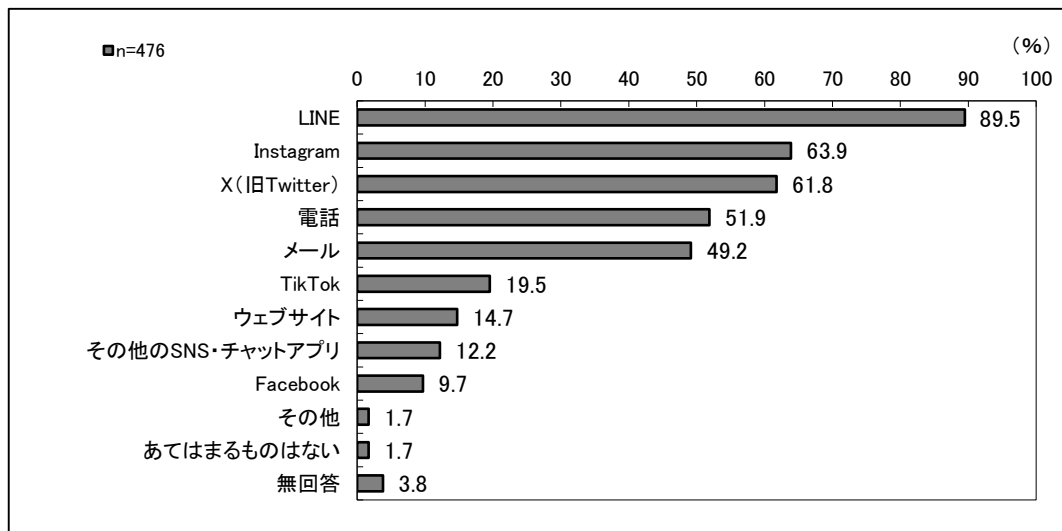
「LINE」が89.5%で最も高い割合を占めている。

「Instagram」(63.9%)、「X(旧Twitter)」(61.8%)、「電話」(51.9%)、「メール」(49.2%)、「TikTok」(19.5%)、「ウェブサイト」(14.7%)、「その他のSNS・チャットアプリ」(12.2%)、「Facebook」(9.7%)等がこれに続く。

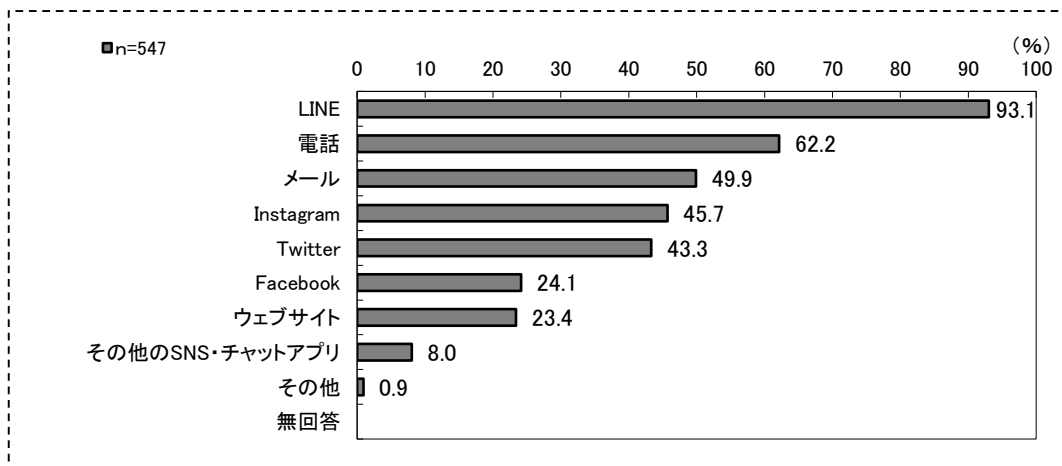
【前回調査結果】(参考)では「Facebook」が24.1%であったが、今回の高校卒業年代～39歳対象調査結果では「Facebook」の割合が9.7%と利用割合が低下している。

■ 普段利用するソーシャルメディア・通信手段 ■

【今回調査】



【前回調査(参考)】



7. 普段の外出の状況について

(1) 普段の外出状況

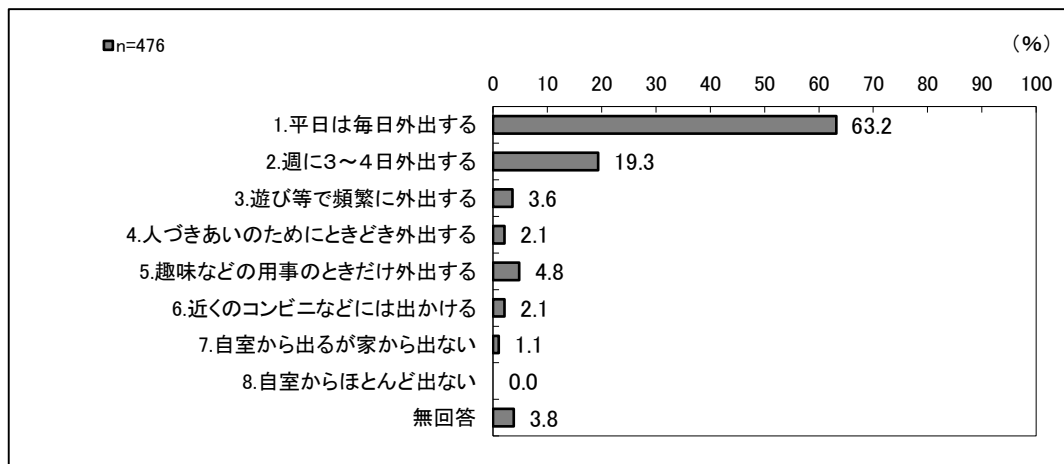
問 21 あなたは普段どのくらい外出しますか。

「平日は毎日外出する」が 63.2%で最も高い割合を占めている。

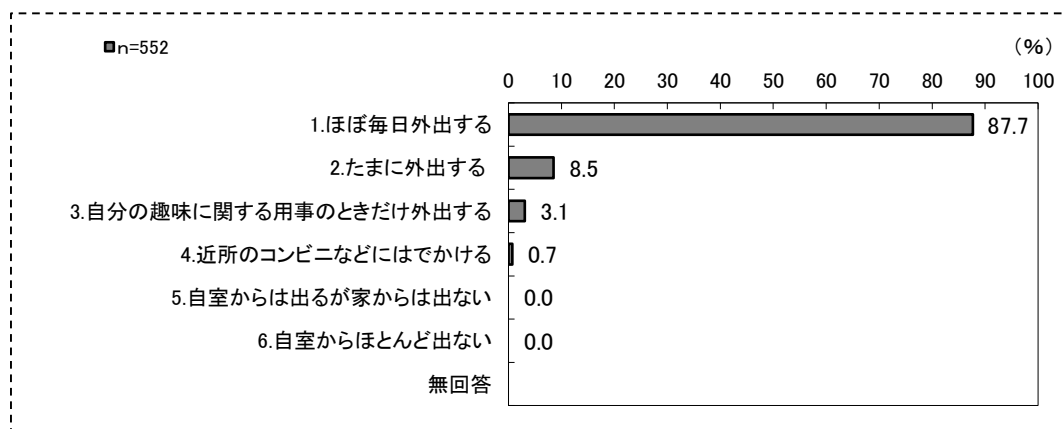
「週に3～4日外出する」(19.3%), 「趣味などの用事の時だけ外出する」(4.8%), 「遊び等で頻繁に外出する」(3.6%), 「人づきあいのためにときどき外出する」(2.1%), 「近くのコンビニなどには出かける」(2.1%), 「自室から出るが家から出ない」(1.1%) がこれに続く。

■ 普段の外出状況 ■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-7-1-2 普段の外出頻度(性別、年齢別)

		n	平日は毎日外出する 仕事や学校で	3～4日外出する 仕事や学校で週に	遊び等で頻繁に外出する	人づきあいのために ときどき外出する	普段は家にいるが、 自分の趣味に関する用事の ときだけ外出する	普段は家にはいるが、近所の コンビニなどには出かける	家からは出ない 自室からは出るが、	自室からはほとんど出ない	無回答
性	男性	(3,013)	73.0	10.3	2.8	3.4	5.9	2.8	0.9	0.2	0.7
	女性	(3,935)	66.4	13.6	4.7	5.0	4.7	4.2	0.6	0.2	0.6
年齢	15歳～19歳	(1,293)	84.4	7.0	1.4	1.5	2.9	0.9	0.9	0.3	0.7
	20歳～24歳	(1,181)	64.0	18.6	4.0	4.6	5.3	2.3	0.7	0.3	0.3
	25歳～29歳	(1,305)	62.4	12.8	5.5	5.4	6.5	5.6	0.8	0.3	0.7
	30歳～34歳	(1,468)	67.5	12.4	5.0	4.3	5.6	3.7	0.5	-	1.0
	35歳～39歳	(1,788)	68.2	10.8	3.4	5.4	5.7	5.0	0.7	0.2	0.6

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(2) 現在の状態になった年齢

※ 問 21 で「5～8」に○をつけた方のみ

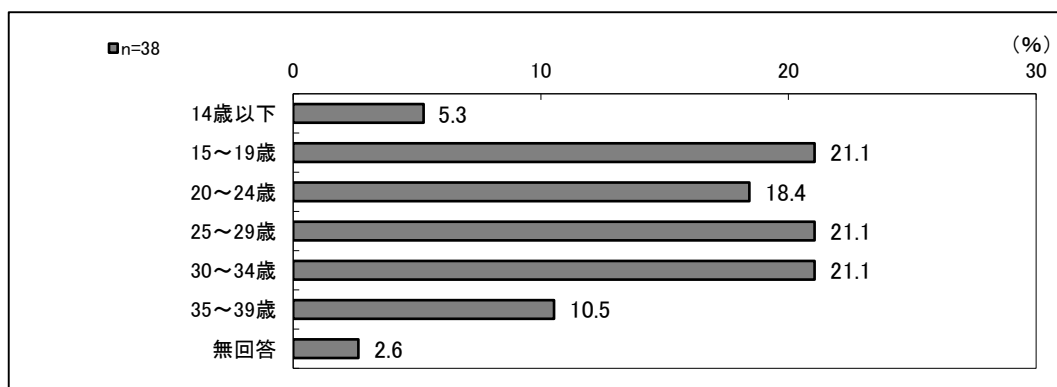
問 21-1 その状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。



「15～19 歳」(21.1%), 「25～29 歳」(21.1%), 「30～34 歳」(21.1%), 「20～24 歳」(18.4%), 「35～39 歳」(10.5%), 「14 歳以下」(5.3%)。

■現在の状態になった年齢■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-7-3-2 現在の外出状況になった年齢(性別、年齢別)

		n	14歳以下	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	無回答
性	男性	(224)	7.1	11.2	21.4	21.0	17.9	11.2	10.3
	女性	(260)	3.5	7.7	18.5	28.1	21.2	14.6	6.5
年齢	15歳～19歳	(40)	42.5	45.0	2.5	-	-	-	10.0
	20歳～24歳	(68)	4.4	23.5	63.2	-	-	-	8.8
	25歳～29歳	(124)	1.6	4.8	27.4	57.3	-	-	8.9
	30歳～34歳	(106)	0.9	-	8.5	32.1	52.8	0.9	4.7
	35歳～39歳	(156)	1.9	3.8	8.3	10.9	25.6	39.7	9.6

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(3) 現在の状態が続いている期間

※ 問 21 で「5～8」に○をつけた方のみ
 問 21-2 その状態はどれくらい続いていますか。



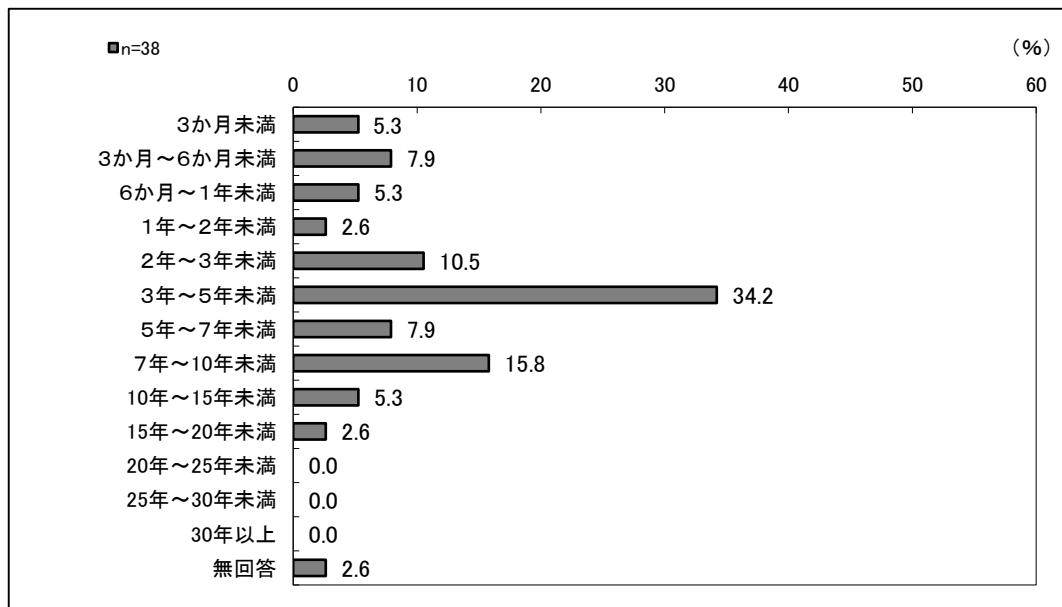
「3年～5年未満」(34.2%)、「7年～10年未満」(15.8%)、「2年～3年未満」(10.5%)が上位3位を占める。

「3か月～6か月未満」(7.9%)、「5年～7年未満」(7.9%)、「3か月未満」(5.3%)等がこれに続く。

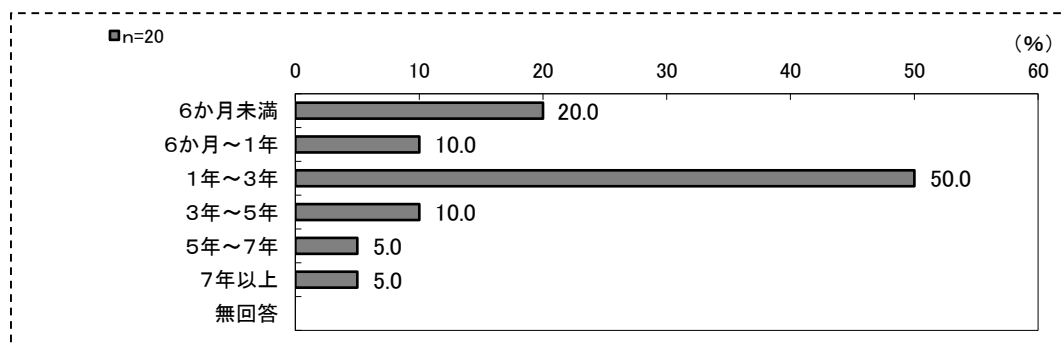
“3年以上”が回答者の65.8%を占める。

■現在の状態が続いている期間■

【今回調査】



【前回調査 (参考)】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-7-2-2 現在の外出状況になってからの期間(性別、年齢別)

			3か月未満	3か月～6か月未満	6か月～1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～5年未満	5年～7年未満	7年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年～25年未満	25年～30年未満	30年以上	(%)
性	男性	(296)	15.2	8.1	9.5	13.5	17.9	12.8	6.4	4.4	6.1	3.0	1.0	1.0	-	1.0
	女性	(377)	19.4	10.9	12.7	15.6	13.3	13.3	4.5	3.2	3.7	1.6	1.1	-	-	0.8
年齢	15歳～19歳	(65)	26.2	10.8	16.9	16.8	7.7	16.9	7.7	-	1.5	-	-	-	-	1.5
	20歳～24歳	(101)	16.8	14.0	10.9	17.8	11.9	3.0	2.0	1.0	2.0	1.0	-	-	-	1.0
	25歳～29歳	(172)	17.4	9.9	9.9	19.2	15.1	13.4	5.2	3.5	4.7	1.2	-	-	-	0.6
	30歳～34歳	(144)	18.1	8.3	10.0	11.1	18.8	12.5	4.2	4.9	4.9	-	0.7	0.7	-	-
	35歳～39歳	(206)	10.9	7.7	8.2	12.5	13.5	12.0	6.7	5.3	7.2	6.8	2.4	1.0	0.5	1.4

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(4) 現在の状態になった主な理由

※ 問 21 で「5～8」に○をつけた方のみ

問 21-3 現在の状態になった主な理由は何ですか。【複数回答】

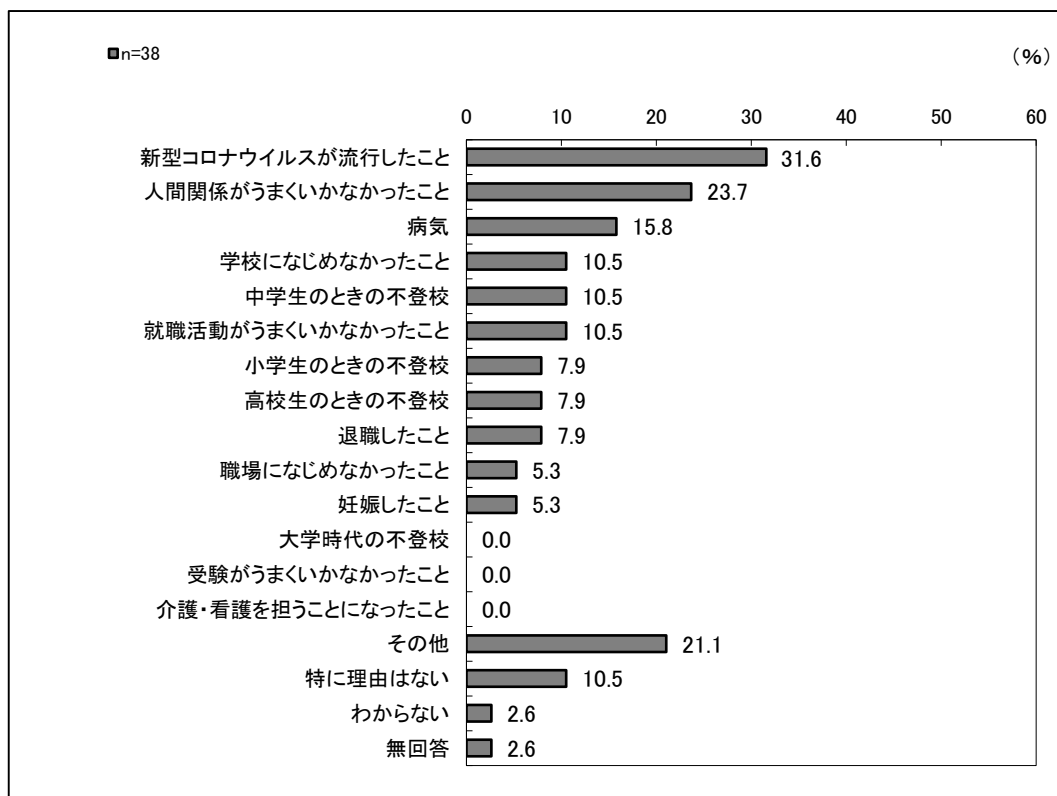


「新型コロナウイルスが流行したこと」が 31.6% で最も高い割合を占めている。

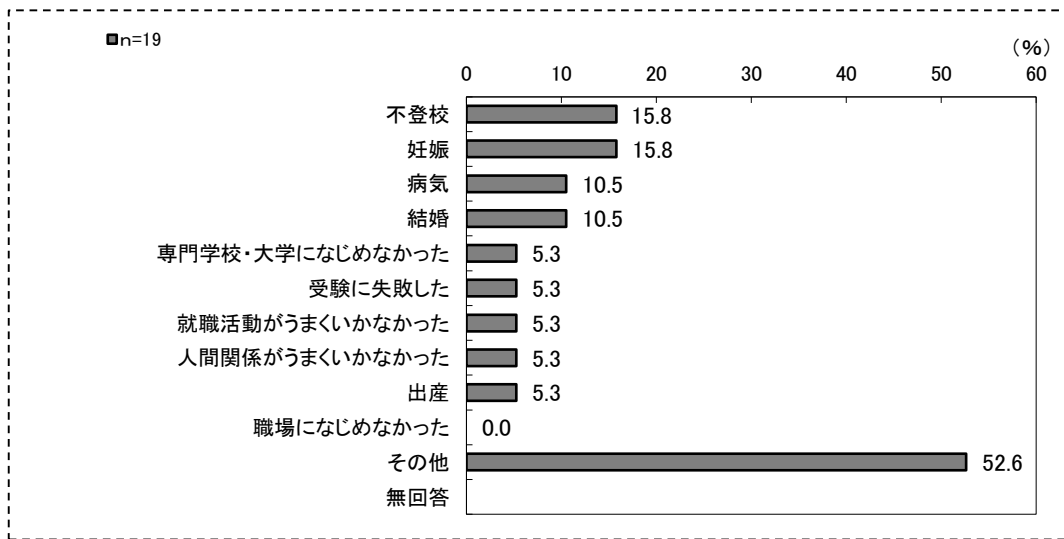
「人間関係がうまくいかなかったこと」(23.7%)、「病気」(15.8%)、「学校になじめなかったこと」(10.5%)、「中学生のときの不登校」(10.5%)、「就職活動がうまくいかなかったこと」(10.5%) 等がこれに続く。

■ 現在の状態になった主な理由 ■

【今回調査】



【前回調査（参考）】ほとんど家にいる状態になったきっかけ



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-7-4-2 現在の外出状況になった理由(性別、年齢別)[※]

性別	年齢	n	理由																	
			新型コロナウイルス感染症が流行したこと	退職したこと	転職したこと	人間関係がうまくいかなかったこと	病気	就職活動がうまくいかなかったこと	職歴になじめなかったこと	中学校時代の不登校	高校時代の不登校	高校時代の不登校	専門学校時代の不登校	大学(専門学校、短期大学等を含む)時代の不登校	介護・看護を担うことになったこと	受験に失敗したこと(高校・大学等)	その他	特に理由はない	わからない	無回答
性	男性	(214)	31.7	8.4	-	16.8	10.3	8.5	8.9	8.5	7.6	8.8	8.9	2.7	8.9	1.8	14.3	10.3	2.1	0.0
	女性	(200)	27.1	22.5	28.8	11.5	12.5	8.2	8.8	5.4	4.2	1.0	2.9	1.2	1.9	8.8	21.8	8.8	2.7	0.0
年	15歳～19歳	(40)	7.5	-	-	20.0	10.0	-	2.5	2.5	22.5	22.5	5.0	-	-	2.5	15.0	17.5	2.5	2.5
	20歳～24歳	(88)	20.0	14.7	-	17.7	8.8	8.8	8.8	7.4	5.9	4.4	-	1.8	1.8	1.8	10.1	17.3	5.9	-
	25歳～29歳	(124)	22.5	18.1	18.9	11.3	12.9	7.3	8.3	4.0	3.2	3.2	1.6	2.4	3.2	2.4	16.9	16.1	3.2	1.6
	30歳～34歳	(165)	27.1	18.8	27.4	10.4	10.4	8.7	8.7	5.8	2.8	2.8	8.9	1.9	-	-	16.8	11.3	-	-
35歳～39歳	(130)	20.0	18.6	18.6	18.7	12.8	11.5	8.6	5.8	3.1	1.3	1.9	1.3	1.3	8.8	18.8	11.3	4.3	8.6	

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(5) 現在の状態になった最も大きな理由

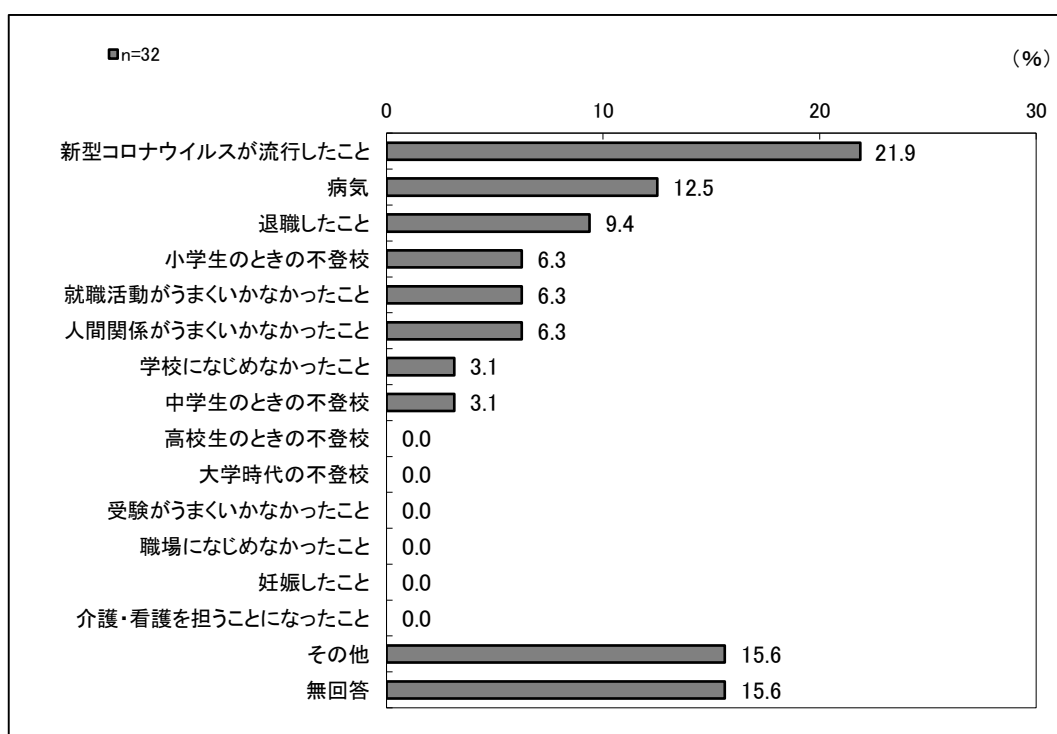
問 21-3-1 その中で、現在の状態になった最も大きな理由は何ですか。

「新型コロナウイルスが流行したこと」(21.9%)、「病気」(12.5%)、「退職したこと」(9.4%)が上位3位を占める。

「小学生のときの不登校」(6.3%)、「就職活動がうまくいかなかったこと」(6.3%)、「人間関係がうまくいかなかったこと」(6.3%)等がこれに続く。

■現在の状態になった最も大きな理由■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-7-4-4 現在の外出状況になった最も大きな理由（性別、年齢別）¹⁷

性別	n	新型コロナウイルス感染症が流行したこと	妊娠したこと	病気	退職したこと	いじめがなくなったこと	就職活動がうまくいかなかったこと	中学校時代の不登校	職場に在り始めたこと	高校時代の不登校	学校に在り始めたこと	受験に失敗したこと（高校・大学等）	企業・看護を断ったこと	小学校時代の不登校	大学・専門学校・短期大学等を含む時代の不登校	その他	特に理由はない	わからない	無回答	
		男性	170	14.1	-	11.2	8.2	7.6	3.5	4.7	2.4	2.9	3.5	1.8	3.2	3.2	1.2	13.9	-	-
女性	226	18.5	25.7	6.7	10.2	5.8	3.1	2.2	2.2	1.3	-	-	0.4	-	-	18.6	0.9	0.4	-	
年齢	15歳～19歳	31	8.7	-	12.9	-	8.7	-	19.4	-	9.7	9.7	3.2	-	8.7	-	18.4	-	0.2	-
	20歳～24歳	40	21.3	-	8.3	16.7	8.3	4.2	8.3	4.2	-	-	-	-	-	20.8	-	-	-	
	25歳～29歳	100	27.6	17.3	10.2	8.2	3.1	4.1	1.0	2.1	2.1	-	2.0	1.0	-	2.0	14.2	-	1.0	
	30歳～34歳	94	27.7	24.5	9.8	10.8	3.3	2.1	-	-	2.1	-	-	-	-	18.1	-	-	-	
35歳～39歳	139	24.6	13.8	11.5	8.3	7.7	3.4	2.3	3.1	-	2.3	-	1.0	-	17.7	1.3	-	-		

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

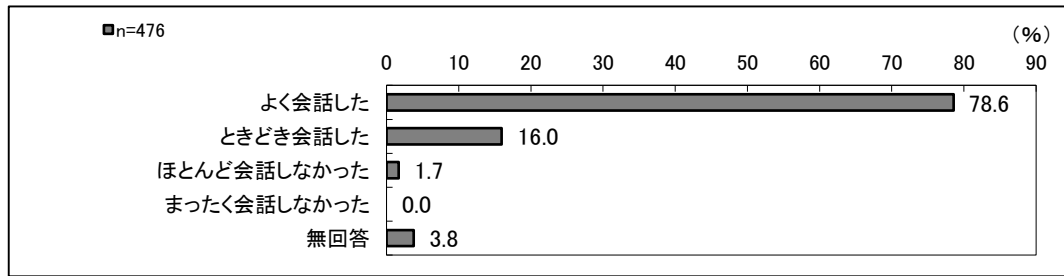
(6) 直近6か月間で家族以外の人と会話をしたか

問 22 直近の6か月のうちに、家族以外の人と会話をしましたか。

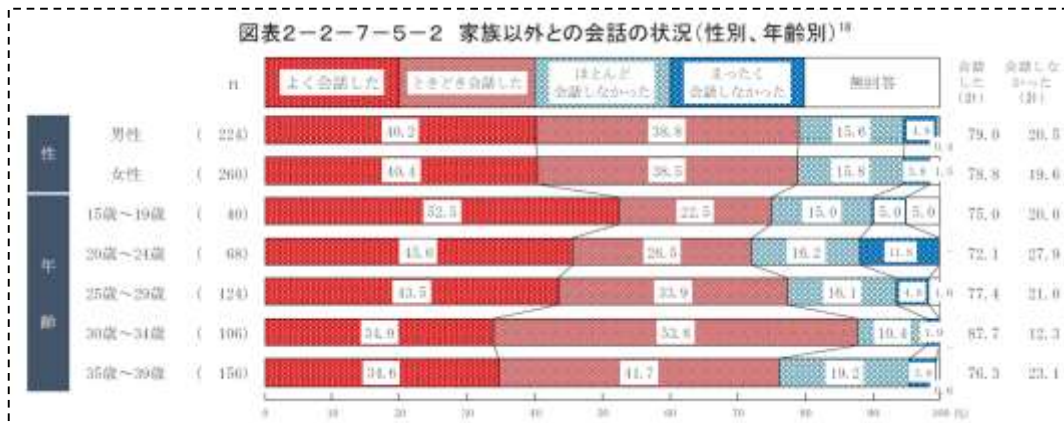
「よく会話をした」(78.6%),「ときどき会話をした」(16.0%),「ほとんど会話をしなかった」(1.7%)。

■直近6か月間で家族以外の人と会話をしたか■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

8. 日常生活等を円滑に送ることができなかった経験について

(1) 社会生活や日常生活ができなかった経験

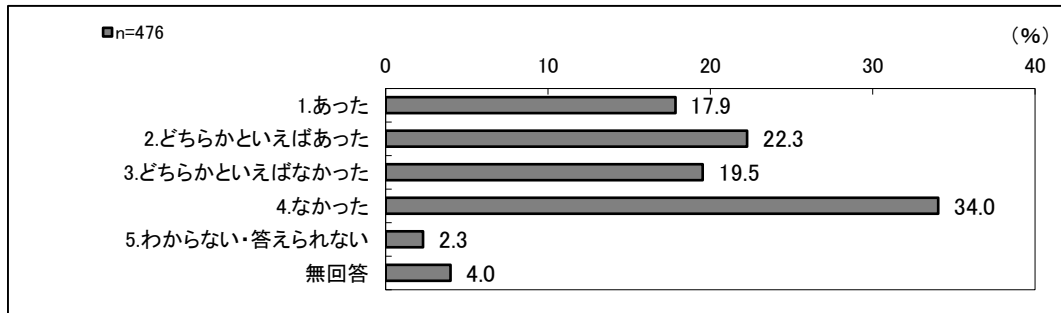
問 23 これまでに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験はありましたか。または、現在そのような状況がありますか。

「なかった」(34.0%)、「どちらかといえばあった」(22.3%)、「どちらかといえばなかった」(19.5%)、「あった」(17.9%)、「わからない・答えられない」(2.3%)。

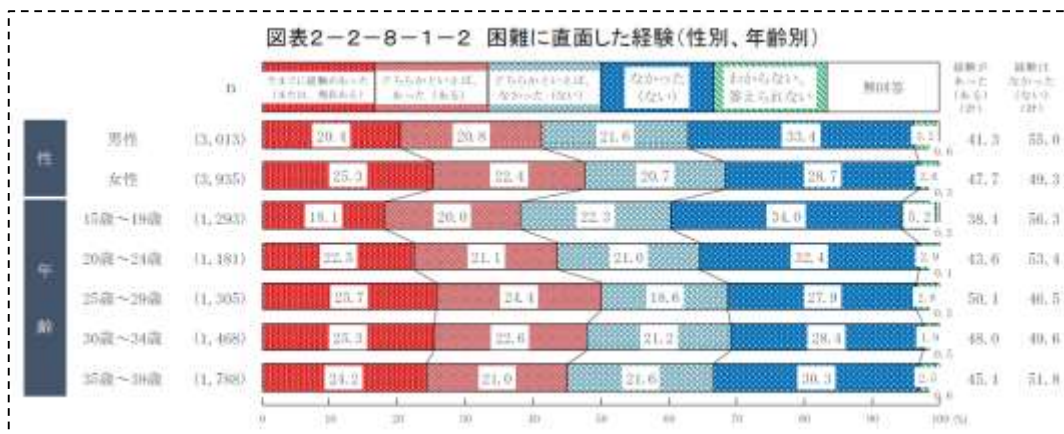
「なかった」と「どちらかといえばなかった」を足し合わせた“なかった”が全体の過半数(53.5%)を占める。

■社会生活や日常生活ができなかった経験■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(2) 社会生活や日常生活ができない状態が改善した経験

※ 問 23 で、「1」または「2」に○をつけた方のみ

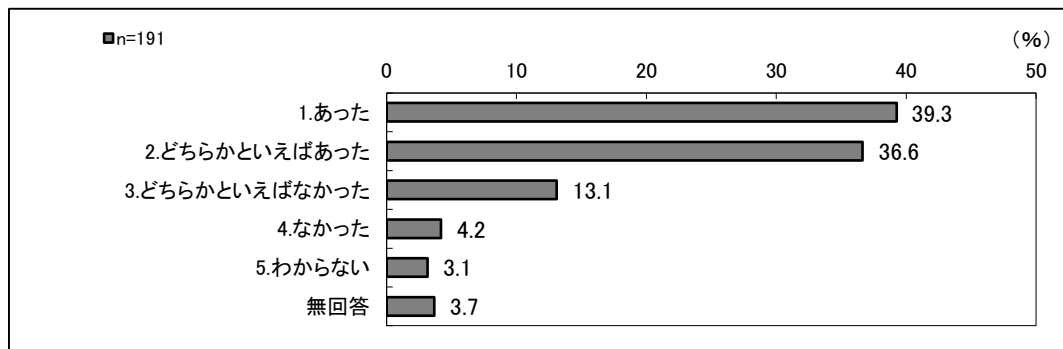
問 23-1 社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態が、改善した経験がありましたか。

「あった」(39.3%)、「どちらかといえばあった」(36.6%)、「どちらかといえばなかった」(13.1%)、「なかった」(4.2%)、「わからない」(3.1%)。

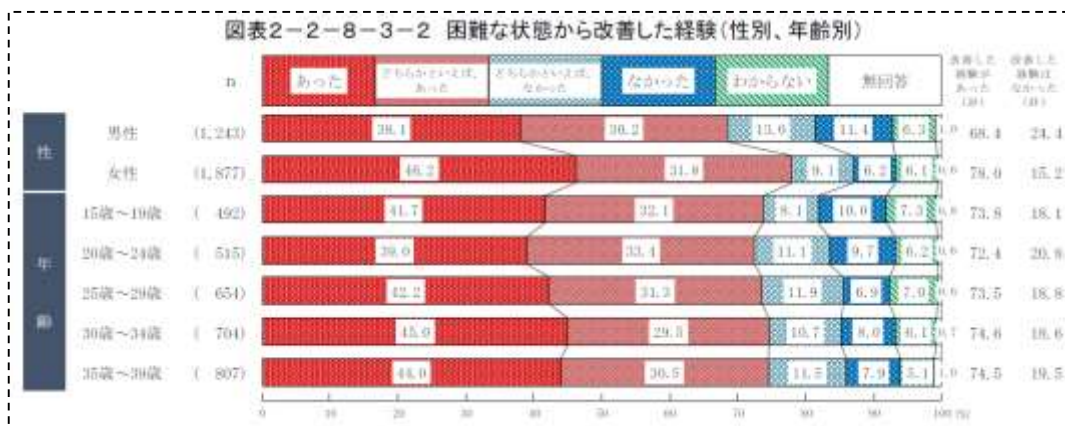
「なかった」と「どちらかといえばなかった」を足し合わせた“なかった”は回答者の 17.3% を占める。

■社会生活や日常生活ができない状態が改善した経験■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(3) 社会生活や日常生活ができない状態が改善したきっかけ

※ 問 23 で、「1」または「2」に○をつけた方のみ

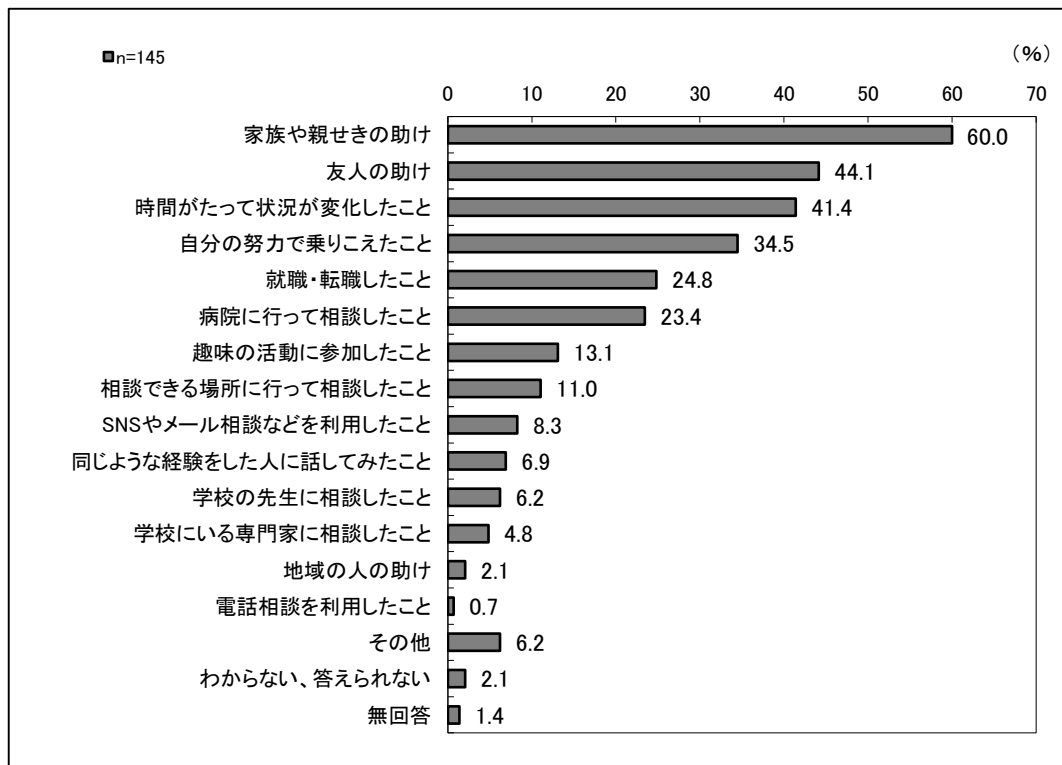
問 23-2 社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態が改善したきっかけや改善に役立ったことは何ですか。【複数回答】

「家族や親せきの助け」(60.0%)、「友人の助け」(44.1%)、「時間がたって状況が変化したこと」(41.4%)、「自分の努力で乗り越えたこと」(34.5%)が高い割合を占めている。

「就職・転職したこと」(24.8%)、「病院に行って相談したこと」(23.4%)、「趣味の活動に参加したこと」(13.1%)等がこれに続く。

■社会生活や日常生活ができない状態が改善したきっかけ■

【今回調査】



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-8-4-2 困難な状態から改善したきっかけ(性別、年齢別)

		家族を親戚の助け	時期がたって状況が変化したこと	友人の助け	自分の習方で乗りこえたこと	就職・転職したこと	病院に行っただけで相減したこと	趣味の活動に参加したこと	学校の先生に相談したこと	入に願ってみたいこと	同じようにうまくいかなかった経験をしたこと	相談できた場所に行っただけで相減したこと	学校にいる専門家に相談したこと	SNSやメール相談などを利用したこと	地域の人への助け	電話相談を利用したこと	その他	わからない・答えられない	無回答
性	男性	1,600	4.6	36.7	31.4	34.2	21.9	16.7	11.3	8.2	6.5	3.9	5.1	2.3	2.1	0.5	7.4	3.4	0.2
	女性	11,993	14.9	43.6	42.4	29.7	37.4	21.9	16.7	11.0	7.5	5.9	6.2	5.0	1.1	1.0	6.7	1.4	0.3
年 齢	15歳～19歳	1,363	10.6	10.2	31.1	26.7	3.3	14.8	8.3	23.9	4.1	3.9	9.4	5.2	0.6	0.3	7.7	3.8	-
	20歳～24歳	1,270	11.3	14.0	40.3	31.4	14.5	13.9	14.5	7.9	4.8	6.4	3.6	0.5	0.3	7.0	3.2	-	
	25歳～29歳	1,481	12.1	41.3	34.7	27.9	22.6	20.2	12.3	8.4	7.3	5.2	6.4	4.2	1.0	0.6	7.9	2.3	0.4
	30歳～34歳	1,320	11.0	40.4	36.0	33.6	17.9	23.1	10.9	4.2	6.4	6.9	3.2	3.6	1.2	1.0	8.0	2.5	0.4
	35歳～39歳	1,601	14.6	43.4	34.6	32.3	31.2	23.8	9.2	4.9	6.2	7.6	3.9	2.6	0.5	1.2	9.8	1.9	0.3

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

(4) 家族や知り合い以外で相談したい人・場所

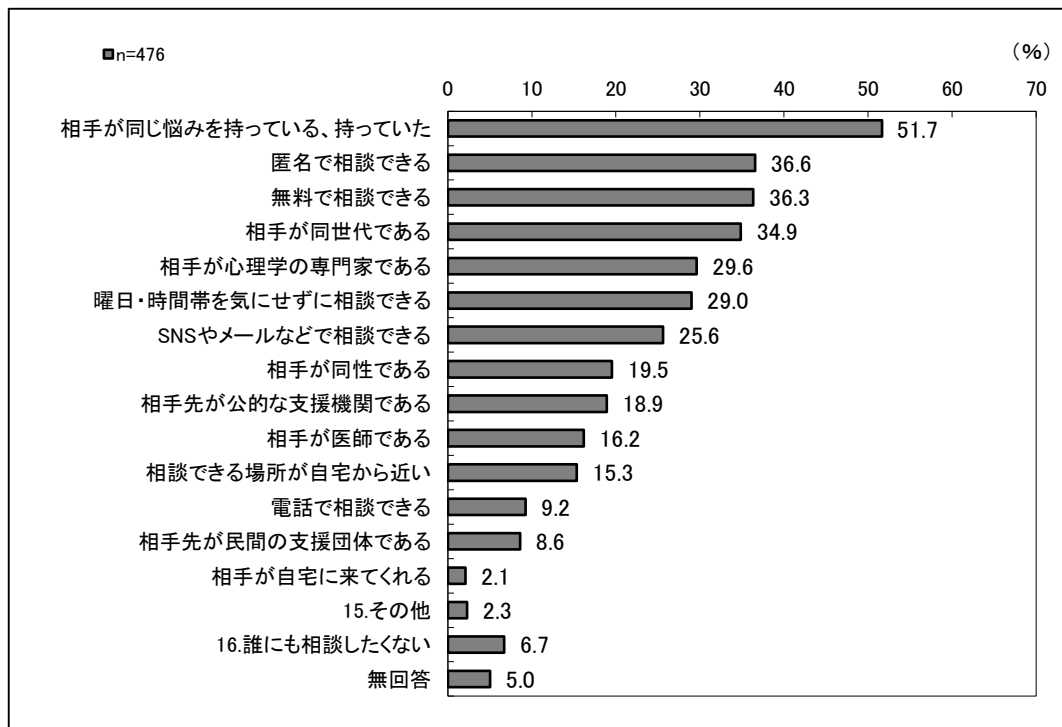
問 24 社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときなどに、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら相談したいと思いますか。

【複数回答】

「相手と同じ悩みを持っている、持っていた」が回答の過半数（51.7%）を占める。
「匿名で相談できる」(36.6%)、「無料で相談できる」(36.3%)、「相手が同世代である」(34.9%)等がこれに続く。
「誰にも相談したくない」が6.7%。

■家族や知り合い以外で相談したい人・場所■

【今回調査】



(5) 相談したくないと思う理由

※ 問 24 で、「16. 誰にも相談したくない」に○をつけた方のみ
問 24-1 相談したくないと思う理由は何ですか。【複数回答】

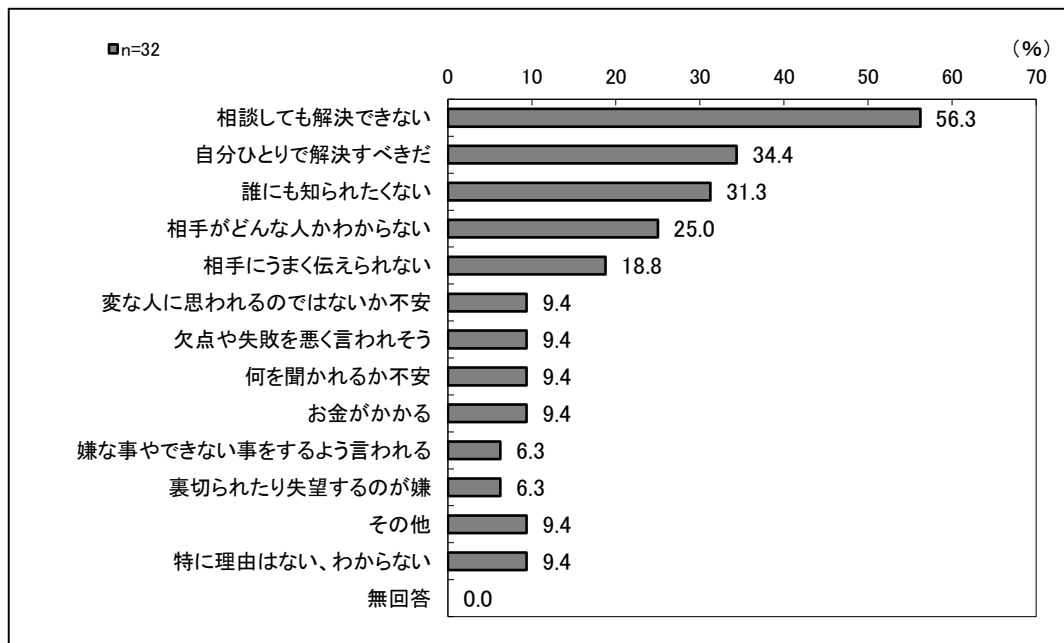
「相談しても解決できない」が 56.3%で回答の過半数を占めており、【前回調査】（参考）の結果（6.3%）から大きく増えている。

「自分ひとりで解決すべきだ」（34.4%）、「誰にも知られたくない」（31.3%）、「相手がどんな人かわからない」（25.0%）等がこれに続く。

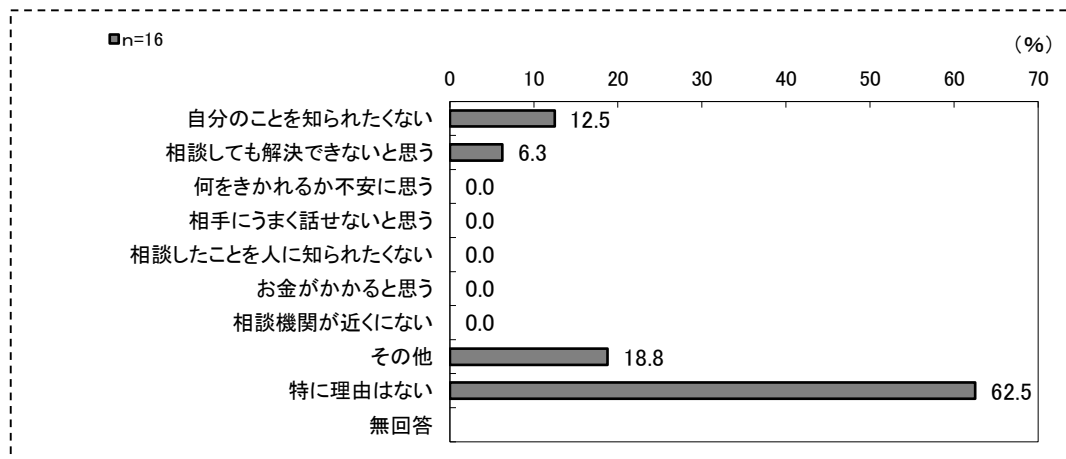
「特に理由はない、わからない」が 9.4%。

■相談したくないと思う理由■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



【子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-9-2-2 相談したくないと思う理由(性別、年齢別)

	n	理由											無回答				
		相談しても解決できない	わからないから	相手がどんな人かわからないから	伝えられないから	相手にうまく伝えられないから	自分ひとりでは解決するべきだと思ってる	誰にも知られたくない	誰にも知られたくない	失望するの嫌だから	害切られたり、失望するの嫌だから	嫌なこと、できないことをするの嫌だから		悪く言われそうだから	不安に思われるから	何を聞かれるか不安に思われるから	自分が妻な人に思われるのではないかと不安だから
性別	男性 (333)	34.1	24.1	16.1	29.7	21.8	14.7	12.7	13.3	9.9	12.7	8.5	4.5	14.2	1.7		
	女性 (322)	31.3	14.8	30.4	15.8	23.0	16.8	16.8	14.3	15.2	9.3	9.9	8.7	9.0	0.6		
年齢	15歳～19歳 (136)	45.7	19.9	26.1	15.9	13.3	21.0	15.2	19.6	20.3	16.7	5.1	3.6	14.5	-		
	20歳～24歳 (197)	35.1	22.4	23.4	27.1	23.4	15.0	29.6	14.6	14.0	11.2	6.5	9.3	16.8	-		
	25歳～29歳 (128)	29.6	21.9	22.7	22.7	14.1	8.6	8.6	12.5	8.6	9.4	8.6	5.5	15.6	3.1		
	30歳～34歳 (139)	41.9	32.4	25.2	20.9	24.5	14.4	21.0	15.1	10.8	10.8	12.2	4.3	7.2	1.4		
	35歳～39歳 (183)	37.4	26.8	19.7	27.3	16.9	19.1	11.5	9.3	10.4	6.2	13.6	8.7	9.8	1.1		

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

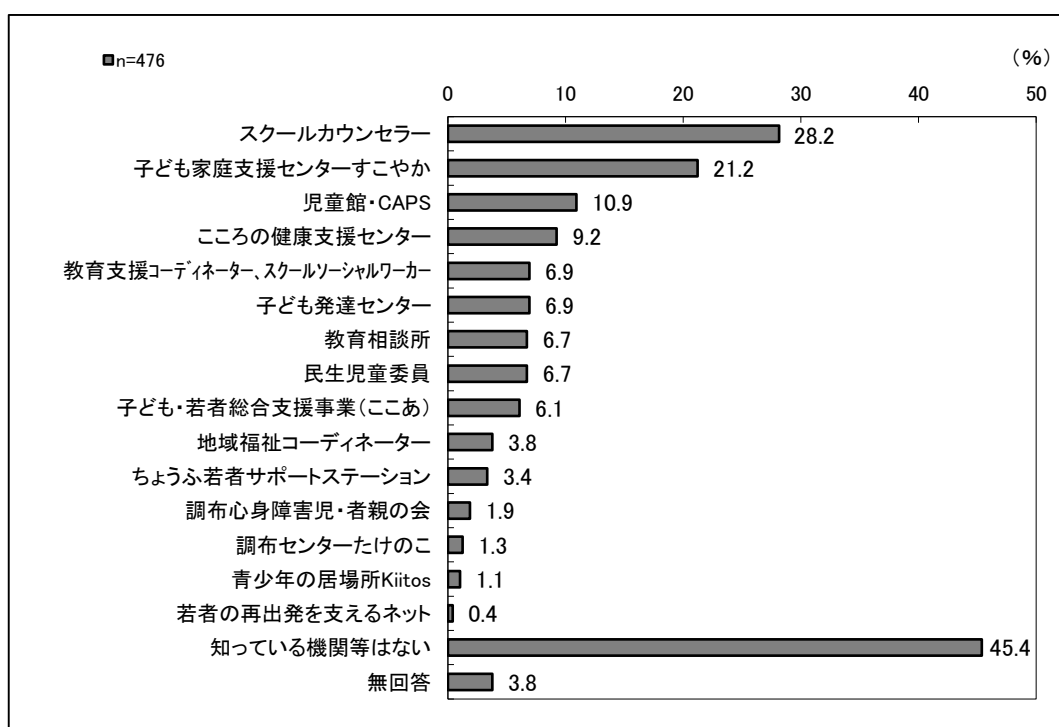
(6) 相談機関等の認知状況

問 25 あなたは、悩みや聞いてほしいことがあったときに相談できる、次の機関等を知っていますか。【複数回答】

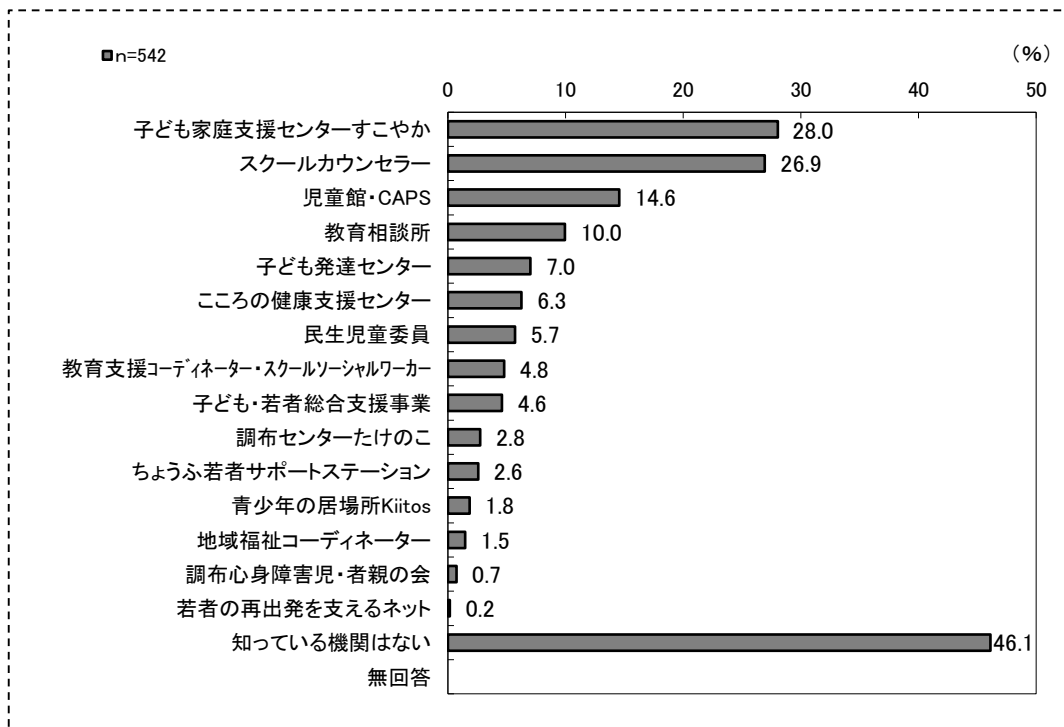
「知っている機関等はない」が45.4%で最も高い割合を占めている。
「スクールカウンセラー」(28.2%)、「子ども家庭支援センターすこやか」(21.2%)、「児童館・CAPS」(10.9%)等がこれに続く。

■相談機関等の認知状況■

【今回調査】



【前回調査（参考）】悩みごとの相談先として認知している機関



【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-9-3-2 育成支援機関等の認知度（性別、年齢別）

性別	年齢	性別・年齢	認知している育成支援機関等がある（％）															
			職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関	児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関	児童館	発達障害者支援センター	青少年交流の家、青少年自然の家等	通信制高校のサポート校	フリースクール（ラーニングスペース）	相談室などの相談機関	子ども・若者総合相談センター、教育相談所、児童館などの相談機関	教育支援センター（通達指導教室）	精神保健福祉センター	その他民間の機関*	支援センター（ひきこもり地域支援センター）	若者支援センターや青少年プラザなど、若者の自主的な活動を支援する施設	どれも知らない	無回答
性	男性	(3,013)	29.0	41.7	43.0	26.8	28.6	24.2	18.9	19.7	18.0	13.5	11.5	12.3	9.8	21.4	0.4	26.7
	女性	(3,935)	27.4	41.7	42.1	29.6	23.8	28.8	27.3	23.0	22.8	15.8	12.0	9.2	19.6	9.9	0.3	30.4
年	15歳～19歳	(1,290)	17.8	20.0	22.4	26.9	28.5	18.1	16.5	22.0	25.4	13.1	9.7	9.2	9.7	18.3	0.5	31.1
	20歳～24歳	(1,181)	1.9	11.6	17.4	21.2	25.3	29.6	29.7	23.1	21.5	14.9	14.3	9.5	11.6	16.9	0.4	32.7
	25歳～29歳	(1,396)	6.4	11.4	17.4	22.3	21.2	26.1	19.5	19.2	19.2	16.5	12.0	10.2	11.6	16.8	0.2	33.0
	30歳～34歳	(1,498)	8.4	13.2	19.0	24.7	21.9	25.0	28.0	19.3	18.3	13.0	11.0	9.7	9.2	13.8	0.4	35.4
	35歳～39歳	(1,788)	10.0	14.1	17.0	21.4	21.8	23.4	21.7	22.5	19.7	15.2	10.0	13.1	9.0	11.4	0.3	36.1

*1 職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関
*2 その他民間の機関（自然体験活動、学習支援、就労支援、ひきこもりの支援など教育育成支援を行うNPOなど）

調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

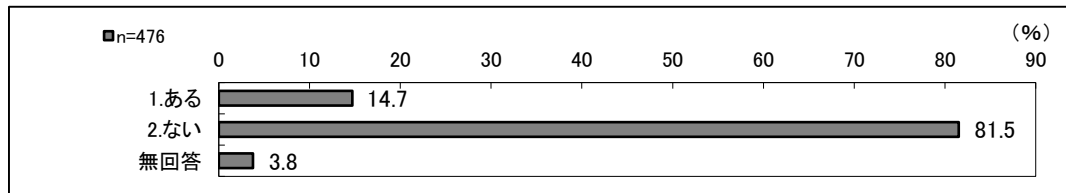
(7) 相談機関等の利用の有無

問 26 あなたは、問 25 の選択肢に挙げられたような機関等を利用したことがありますか

「ない」(81.5%), 「ある」(14.7%)。

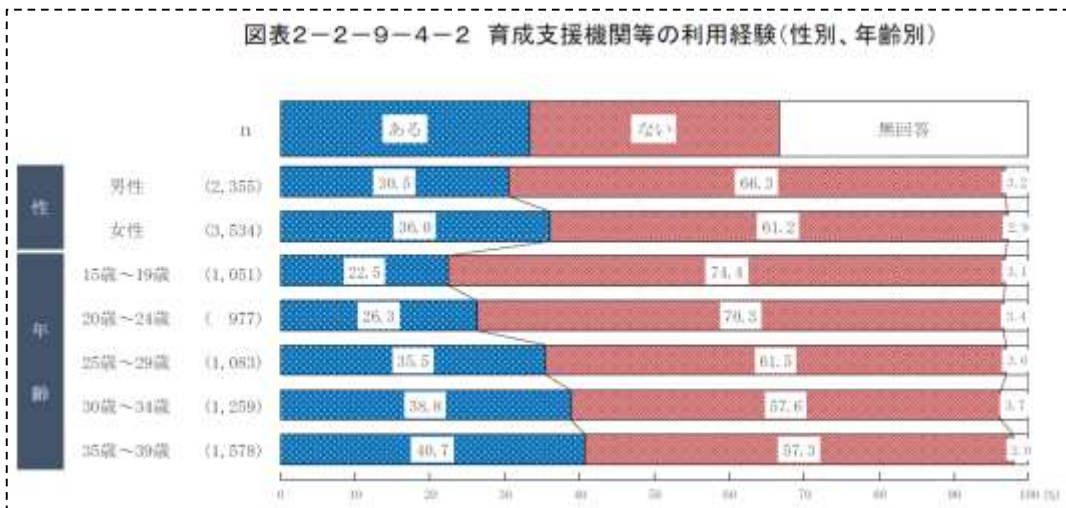
■相談機関等の利用の有無■

【今回調査】

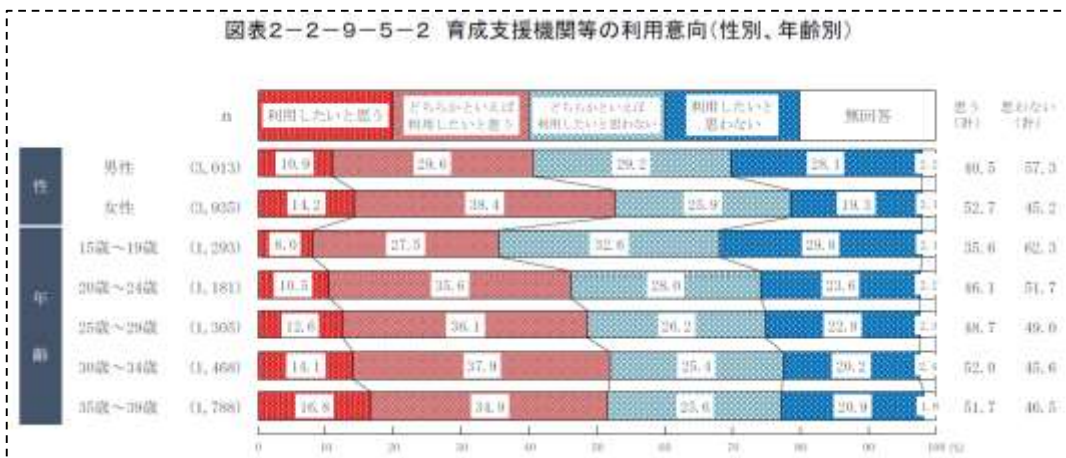


【こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）：15～39歳対象調査（参考）】

図表2-2-9-4-2 育成支援機関等の利用経験(性別、年齢別)



図表2-2-9-5-2 育成支援機関等の利用意向(性別、年齢別)



調査対象：全国の10歳～39歳の男女

調査期間：2022年11月10日～2022年11月25日

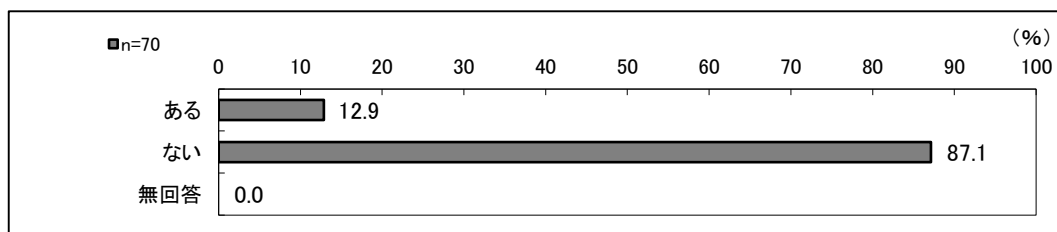
(8) 進学・就職時支援が途切れ不安だったことはあるか

※ 問 26 で、「1. ある」に○をつけた方のみ

問 26-1 これまでに、進学や就職のタイミングで、相談先からの支援が途切れてしまい不安に感じたことはありますか。

「ない」(87.1%), 「ある」(12.9%)。

■進学・就職時支援が途切れ不安だったことはあるか■



9. 地域活動への参画について

(1) 地域活動への参加意向

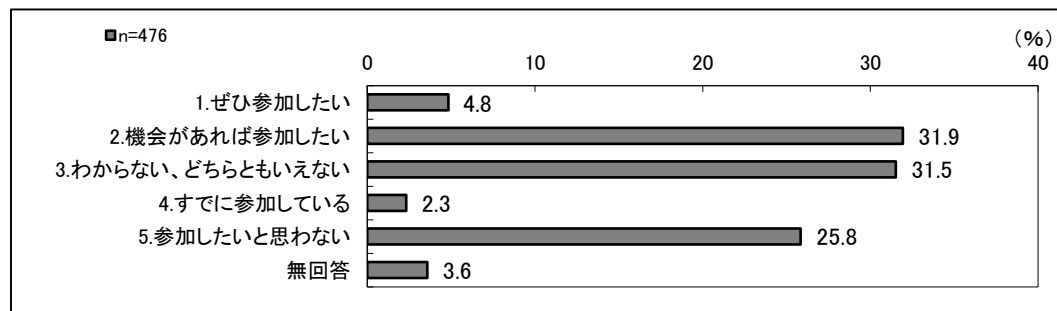
問 27 地域の行事やボランティア活動などに参加したいと思いますか。

「機会があれば参加したい」(31.9%), 「わからない、どちらともいえない」(31.5%), 「ぜひ参加したい」(4.8%), 「すでに参加している」(2.3%), 「参加したいと思わない」(25.8%)。

「ぜひ参加したい」, 「機会があれば参加したい」, 「すでに参加している」を足し合わせた“参加したい(参加している)”は 39.0%にのぼり, 「参加したいと思わない」(25.8%)を 13.2ポイント上回る。

高校卒業年代～39歳の若者世代においては、地域活動への興味・関心が比較的高い様子がうかがえる。

■地域活動への参加意向■



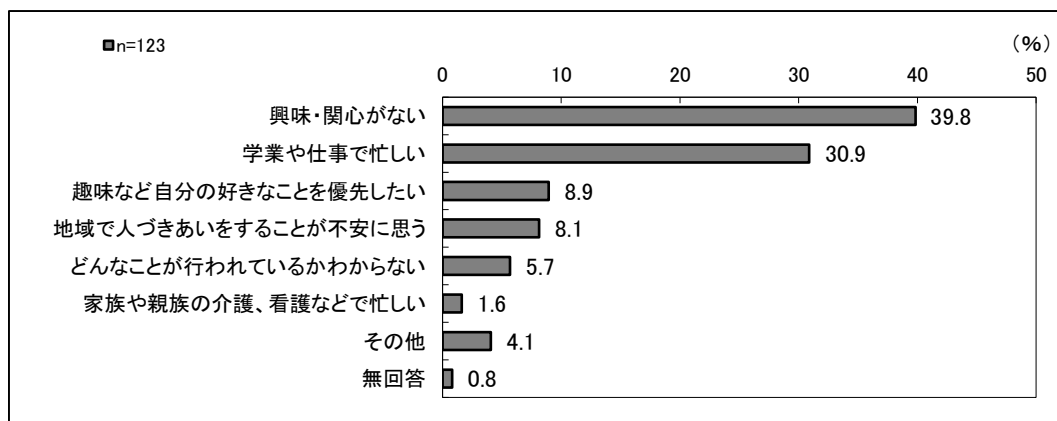
(2) 参加したいと思わない理由

※ 問 27 で、「5. 参加したいと思わない」に○をつけた方のみ
問 27-1 参加したいと思わない理由は何ですか。



「興味・関心がない」(39.8%)、「学業や仕事で忙しい」(30.9%)が高い割合を占めている。
「趣味など自分の好きなことを優先したい」(8.9%)、「地域で人づきあいをすることが不安に思う」(8.1%)、「どんなことが行われているかわからない」(5.7%)等がこれに続く。

■参加したいと思わない理由■



10. 結婚・子育てに関するイメージについて

(1) 結婚や同棲の必要性

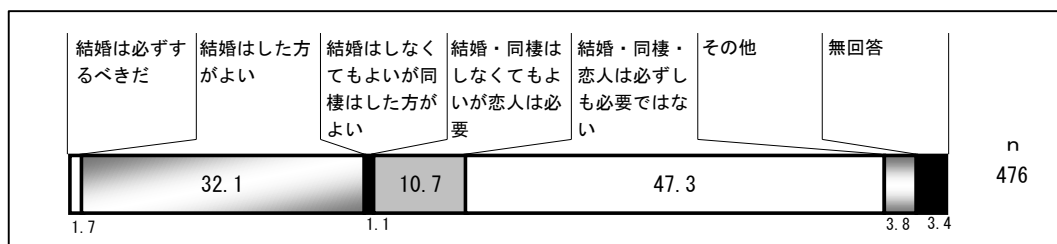
問 28 結婚や同棲の必要性に対する考え方のうち、あなたの意見に最も近いものをお答えください。

「結婚・同棲・恋人は必ずしも必要ではない」(47.3%)、「結婚はした方がよい」(32.1%)、「結婚・同棲はしなくてもよいが恋人は必要」(10.7%)、「結婚は必ずするべきだ」(1.7%)、「結婚はしなくてもよいが同棲はした方がよい」(1.1%)、「その他」(3.8%)。

「結婚は必ずするべきだ」と「結婚はした方がよい」を足し合わせた“結婚はした方がよい”は、33.8%で、回答者の3人に1人が結婚の必要性を感じている。

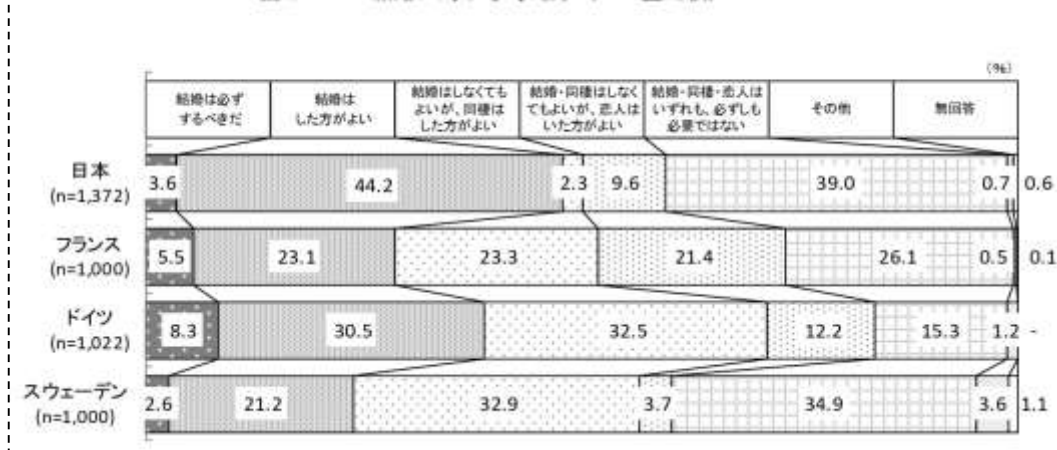
「令和2年度 少子化対策に関する国際意識調査」との比較では、“結婚はした方がよい”について「日本」の水準を下回っている。

■結婚や同棲の必要性■



【令和2年度 少子化対策に関する国際意識調査（参考）】

図Ⅱ-1 結婚に対する考え方（4か国比較）



調査対象国：日本,フランス,ドイツ,スウェーデン

調査対象：20～49歳の男女

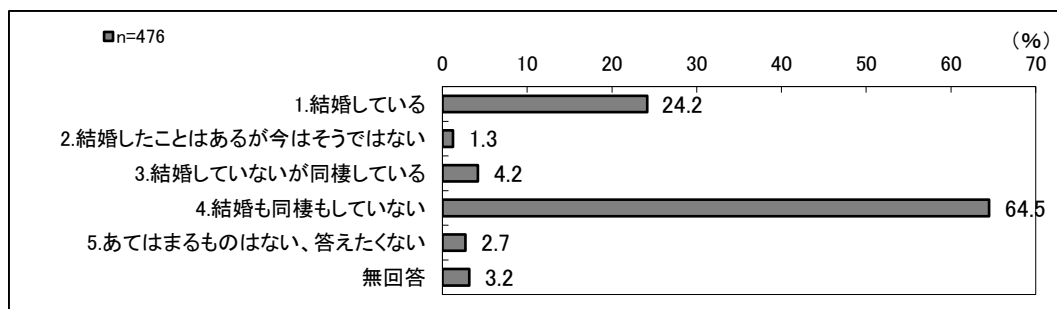
調査時期：2020年10月～2021年1月

(2) 結婚や同棲の状況

問 29 あなたは結婚していますか。

「結婚も同棲もしていない」(64.5%)が最も高い割合を占めている。
「結婚している」(24.2%),「結婚していないが同棲している」(4.2%),「結婚したことはあるが今はそうではない」(1.3%)等がこれに続く。

■結婚や同棲の状況■



(3) 結婚をしたい年齢

※ 問 29 で「3」または「4」に○をつけた方のみ

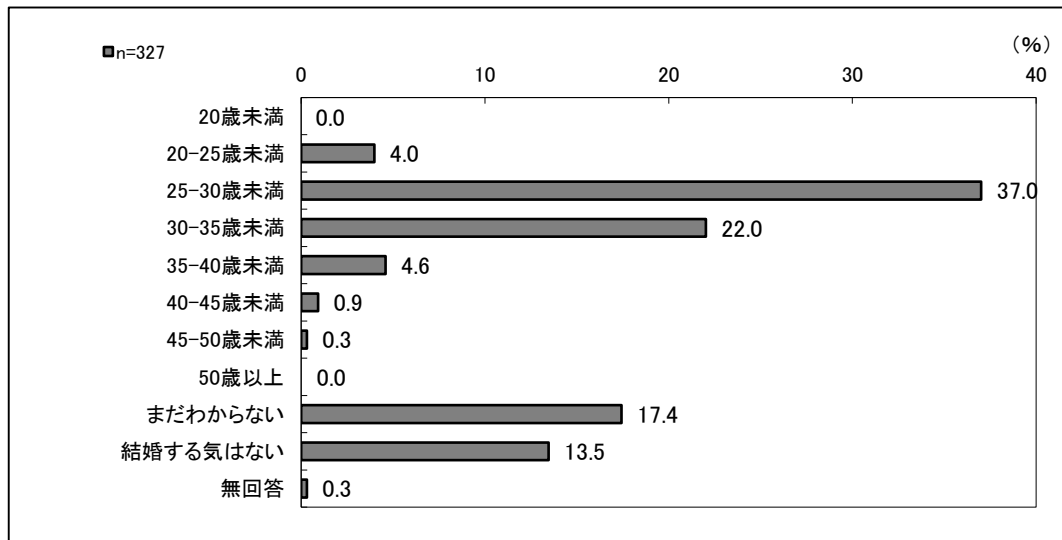
問 29-1 何歳くらいで結婚したいと思いますか。



「25-30 歳未満」(37.0%)、「30-35 歳未満」(22.0%)、「35-40 歳未満」(4.6%)、「20-25 歳未満」(4.0%)、「40-45 歳未満」(0.9%)、「45-50 歳未満」(0.3%)、「まだわからない」(17.4%)、「結婚する気はない」(13.5%)。

(婚姻経験のない回答者が) 結婚したい時期として答えた年齢は、25～35 歳未満とする傾向が強い。

■結婚をしたい年齢■



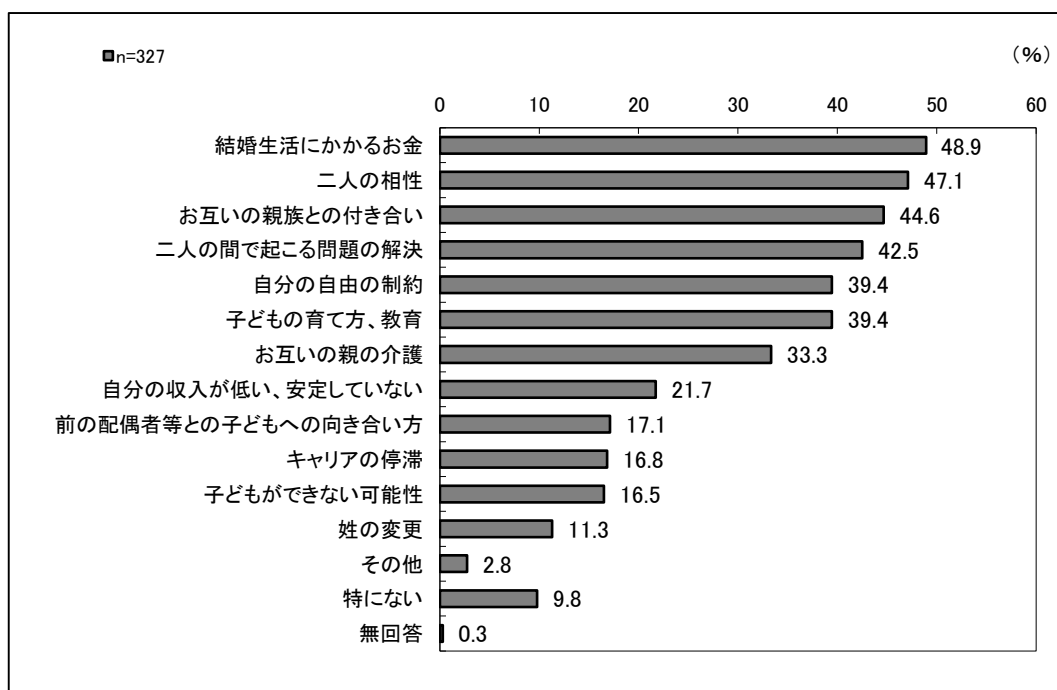
(4) 結婚について不安を感じること

問 29-2 結婚について不安を感じることは何ですか。【複数回答】

「結婚生活にかかるお金」が48.9%で最も高い割合を占めている。

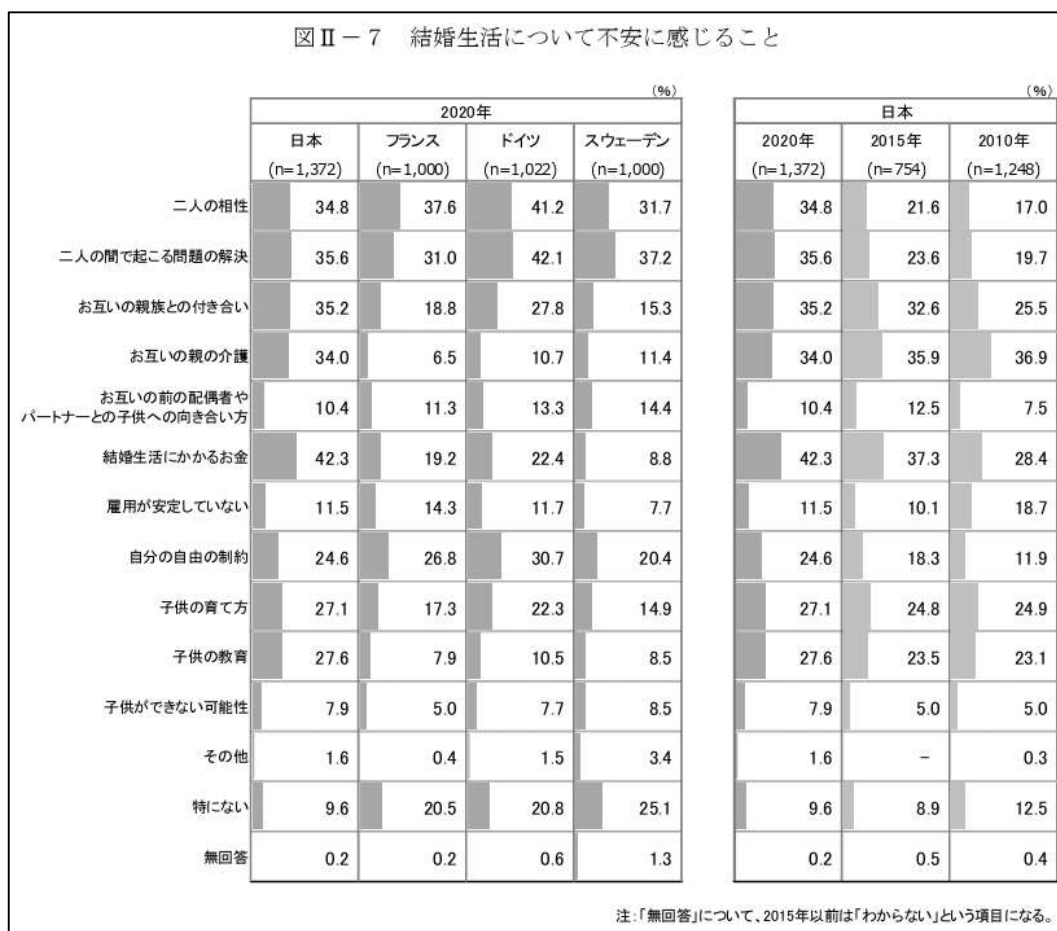
「二人の相性」(47.1%)、「お互いの親族との付き合い」(44.6%)、「二人の間に起こる問題の解決」(42.5%)、「自分の自由の制約」(39.4%)、「子どもの育て方、教育」(39.4%)、「お互いの親の介護」(33.3%)等がこれに続く。

■結婚について不安を感じること■



【令和2年度 少子化対策に関する国際意識調査（参考）】

図Ⅱ-7 結婚生活について不安に感じること



調査対象国：日本, フランス, ドイツ, スウェーデン

調査対象：20～49歳の男女

調査時期：2020年10月～2021年1月

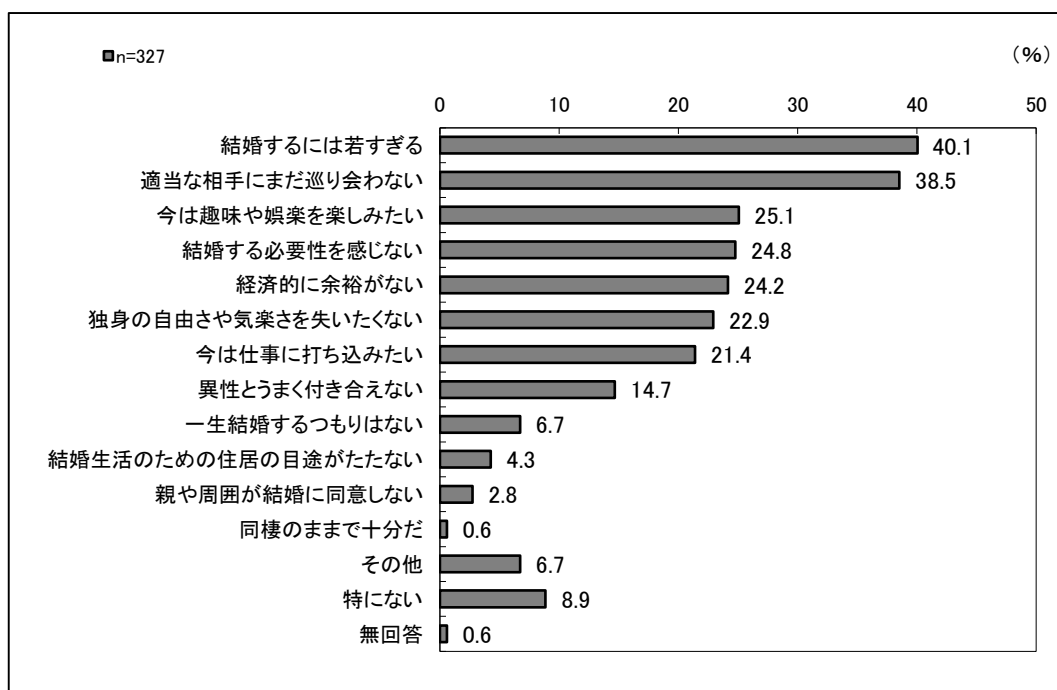
(5) 結婚をしていない理由

問 29-3 現在、結婚をしていない理由を選ぶとすれば、どれですか。【複数回答】

「結婚するには若すぎる」(40.1%)、「適当な相手にまだ巡り会わない」(38.5%)が回答の上位を占める。

「今は趣味や娯楽を楽しみたい」(25.1%)、「結婚する必要性を感じない」(24.8%)、「経済的に余裕がない」(24.2%)等がこれに続く。

■結婚をしていない理由■



【令和2年度 少子化対策に関する国際意識調査（参考）】

図Ⅱ-3 独身の理由（1番目）

	2020年 (%)				日本 (%)	
	日本 (n=578)	フランス (n=718)	ドイツ (n=681)	スウェーデン (n=631)	2020年 (n=578)	2015年 (n=297)
	結婚するにはまだ若すぎるから	10.2	14.6	18.9	5.2	10.2
結婚する必要性を感じないから	8.3	24.9	23.8	24.7	8.3	15.5
同様のままで十分だから	0.2	16.7	15.0	18.1	0.2	-
今は、仕事(又は学業)に打ち込みたいから	6.7	4.9	5.6	4.8	6.7	14.5
今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	5.9	2.6	1.9	0.8	5.9	4.7
独身の自由さや気楽さを失いたくないから	8.7	4.3	2.9	1.0	8.7	6.7
適当な相手にまだ巡り会わないから	28.9	15.5	20.6	26.3	28.9	27.3
異性とうまく付き合えないから	3.6	1.1	0.3	1.7	3.6	2.4
経済的に余裕がないから	11.1	2.8	2.9	3.3	11.1	8.4
結婚生活のための住居のめどがたたないから	0.5	0.6	0.6	0.6	0.5	1.0
親や周囲が結婚に同意しない(だろう)から	0.9	0.1	0.4	0.2	0.9	1.3
一生、結婚するつもりはないから	3.6	6.0	1.5	1.6	3.6	1.7
その他	6.1	3.1	5.1	10.9	6.1	2.4
特になし	3.3	2.8	0.4	0.3	3.3	1.3
無回答	2.1	-	-	0.5	2.1	5.4

注:「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

調査対象国：日本、フランス、ドイツ、スウェーデン

調査対象：20～49歳の男女

調査時期：2020年10月～2021年1月

(6) 理想とする子どもの人数

問 30 理想とする子どもの人数は何人ですか。

「2人」が44.1%で最も高い割合を占めている。

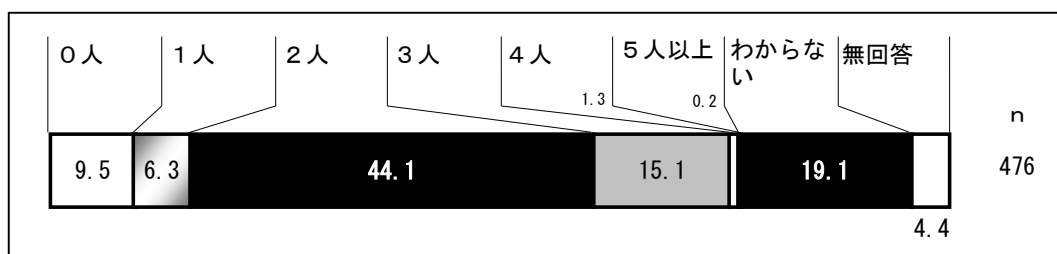
「3人」(15.1%), 「1人」(6.3%), 「4人」(1.3%), 「5人以上」(0.2%)等がこれに続く。

「2人」以上の回答が60.7%で過半数を占める一方、「子どもを望まない」は9.5%で全体の1割弱を占める。

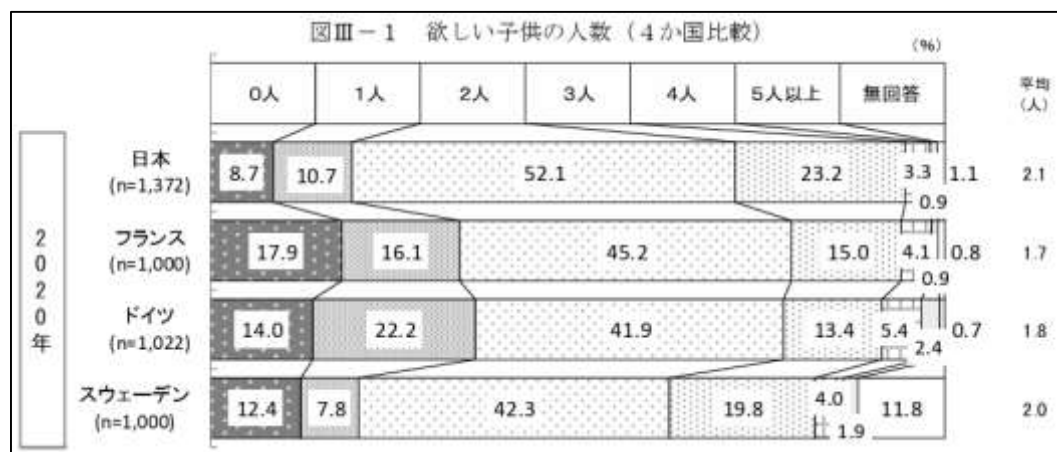
「2021年社会保障・人口問題基本調査(結婚と出産に関する全国調査)」によると、全国の傾向として「子どもはほらない」の割合が男女ともに増加傾向にある。

■理想とする子どもの人数■

【今回調査】



【令和2年度 少子化対策に関する国際意識調査(参考)】



調査対象国：日本,フランス,ドイツ,スウェーデン

調査対象：20~49歳の男女

調査時期：2020年10月~2021年1月

(7) 第1子が生まれる理想の年齢

※ 問30で「1～5」に○をつけた方のみ

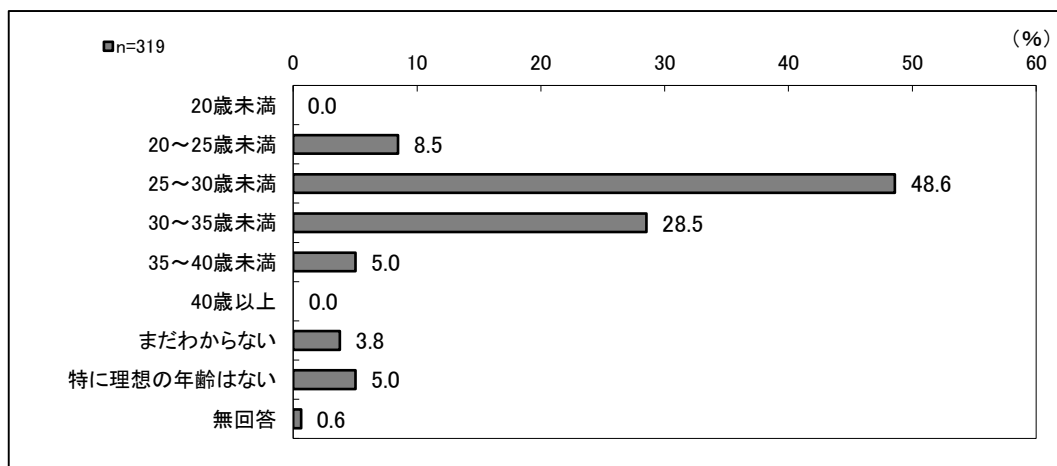
問30-1 「何歳くらいまでに第1子が欲しい(欲しかった)」という理想の年齢はありますか。



「25～30歳未満」が48.6%で最も高い割合を占めている。

「30～35歳未満」(28.5%), 「20～25歳未満」(8.5%), 「35～40歳未満」(5.0%)等がこれに続く。

■ 第1子が生まれる理想の年齢 ■



(8) 理想とする人数の子どもを育てるために課題となること

問 31 すべての人が理想とする人数の子どもを育てられるようになるためには、どのようなことが課題になると思いますか。【複数回答】

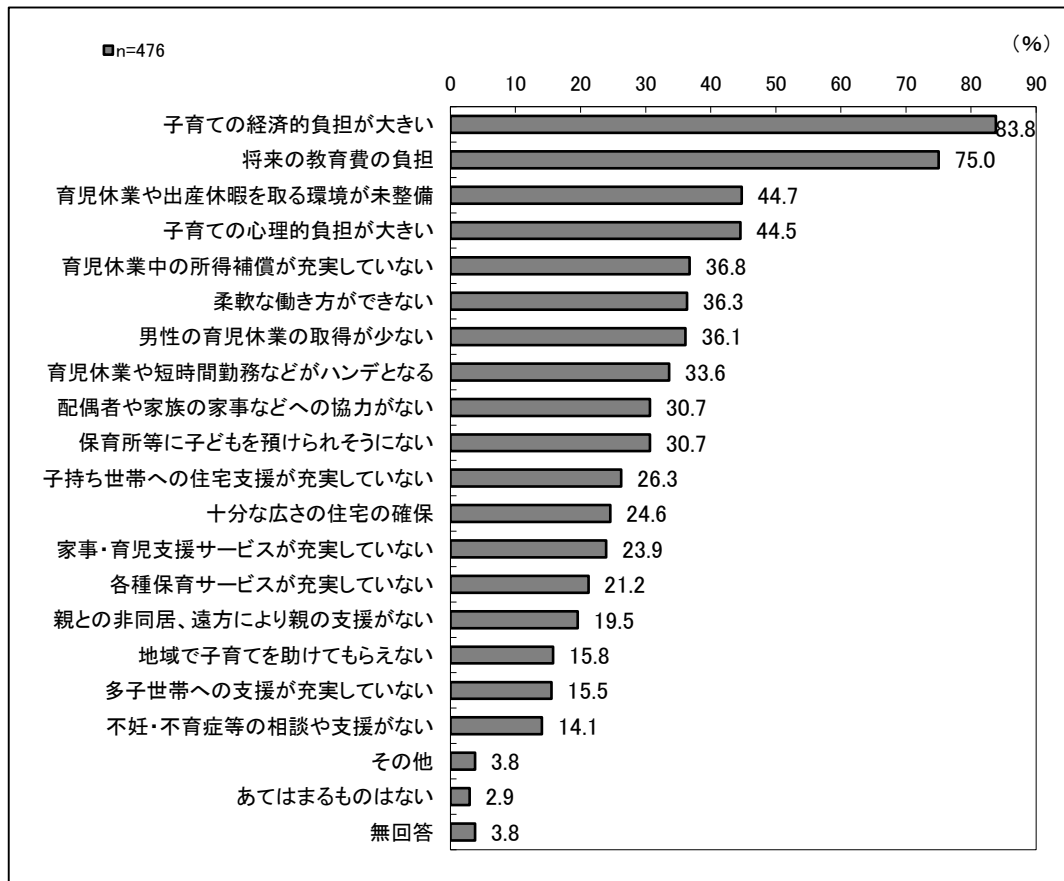


「子育ての経済的負担が大きい」(83.8%)、「将来の教育費の負担」(75.0%)が他を大きく引き離して回答の上位を占める。

「育児休業や出産休暇を取る環境が未整備」(44.7%)、「子育ての心理的負担が大きい」(44.5%)、「育児休業中の所得補償が充実していない」(36.8%)等がこれに続く。

回答者の7割以上が、経済的負担が課題と捉えている。

■理想とする人数の子どもを育てるために課題となること■



11. 現在の悩みや調布市に必要な取組について

(1) 自由意見

問 32 現在、悩み事や困っていることはありますか。ご自由にお答えください。



自由意見については、以下のような意見があげられた。(一部抜粋)
 ※いただいた意見の内容は、原則として、原文を基に掲載

■悩み事や困っていること■

分類	悩み事や困っていること
給食	子どもが小学生になって学童に通わせることになったら弁当を用意するのが大変そう。最近、希望者のみ外注で弁当の注文ができる自治体もあるらしく、調布市も導入してほしい。
学校教育	今後の教育(中学受験、留学など)。
学校教育	将来就きたい職業が定まっていないことです。
相談	今の給料で、今後生活できるか心配。 シングルで子供を育てられるのか。
相談	正直、助けてほしいのに面談など事前のハードルが高すぎる。仕事の合間、帰宅後の育児中、スキマ時間でも相談できる体制をとってほしい。
遊び場	市民が利用できる体育館が少ない。子どもたちの居場所、室内でのスポーツをする場所をもう少し作ってほしい。(府中市のように)。
遊び場	子供が利用したり子連れで利用できるトイレがもっと公園(いろいろな)にあると助かります。外遊びなどにいくと、トイレがなくてこまります。あっても汚れすぎていてとても子供と一緒に入れないです。お願いいたします。
経済的支援	結婚して家庭を持ちたいが金銭的な心配がある。
経済的支援	母子家庭にはもっと支援してほしい。
経済的支援	妊娠中、就労中であるが、すこやかなヘルパーなど、検討しようにも申請がアナログすぎてスピード感がない。オンライン、メール、Zoomなども利用してほしい。
経済的支援	ごみ袋が高い。もう少し経済的な負担を軽くするような地域になれば、ここに住み続けて地域行事などにも協力したいと思えるようになるかもしれません。

経済的支援	<p>大学に行きたかったが、費用的な負担も考えて専門学校に進学した。奨学金といっても結局は借金を抱えることになるわけで、この世代に対しての支援がとても少ないと感じる。</p> <p>若者が活躍することで、市も活性化し、繁栄につながると思うが、我々世代はギブアンドテイクの考えを持つ者が多い。何も支援がないので協力しようと思う人は少ないと思う。</p>
経済的支援	子育て支援に所得制限をつけることを不満に思う。
障がい	障害（特に重度）のある子供や若者の居場所や社会にかかわれる機会が少ない。今後、高齢になった時（特に親が支援できなくなった時）の生活等の支援がどうなるのか不安。
障がい	<p>精神障害者で就労を目指していますが、職種が限られ収入もあまり見込めません。せっかく資格を取得できてもそれを仕事で生かせない。働いても収入が足りないので働いても生活保護から抜け出せない。</p> <p>※資格取得しても仕事で生かせないのは、就労先がその資格で可能な作業をさせてくれないため。</p>
保育園・幼稚園	子どもの一時保育の予約がどこも人気で取れない、また料金が安い。
保育園・幼稚園	<p>保育園利用の制限が厳しすぎる。保育士等が少ないのはわかるが、親が休みの日に預けてはいけなくなると、親はいつ休めばいいのか。一時保育等を利用する方法があるが、予約がいっぱい過ぎて預けられないことが多い。</p> <p>金銭的側面では、近年たくさんの支援が充実しており、大変有り難い。だが、それ以外にも対策できることはあると思う。</p> <p>もっと保育園と保育士を充実させ、月に一度は親が休みの日にも預けていい制度を設けるなどがあるといい。特に実家が遠方の家庭や、片親の家庭はずっと子供と一緒に疲れてしまうこともあると思う。もちろん、子供はとてかわいしいし一緒にいたくないということではない。</p> <p>虐待面の防止でも、親がリフレッシュできる時間を設けてあげる取り組みがあってもいいのではないかと思う。</p>
家庭全般	<p>来年から長女が小学生、1年生と保育園のおくりむかえ、学級へいさの時の仕事、見てくれる両親はいない。</p> <p>助けて欲しくてもインフルエンザ等の時は頼めないし、子育て中の仕事の両立には不安しかありません。とくに小学生低学年。</p>
妊娠・出産	不妊治療の費用が高額。最初の検査も1人あたり25000円程度かかり、夫婦で5万円。こういうところに税金を充ててもらいたい。その後の治療もお金がかかり大変。治療で子どもを授かって治療費でお金をかなり使っているので貯金がたまらず不安。

妊娠・出産	不妊に悩む人が多い。(私も含め)。地域医療や制度の充実に期待しています。
インフラ	自然環境に対しての市の取組への意思が伝わってこない。市内にある木を伐採するのみで植樹、管理がなく、地盤の強化・暑さへの不安がある。外かく環状道路の工事による陥没・川の汚染により、安心できる住居環境が確保された地域とは思えない。私は被害のあった地域に住んでいないが、このような地域で長く住みたいと思える環境でなければ、子ども・若者はじめ市民が健やかに暮らせないと思っている。
インフラ	無料駐輪場がほしい。
情報	個人事業主について聞きに行きたいが、市役所の何課に行けば良いのか、聞けば良いけど、市役所の人と話しかけづらい。
情報	数年前に東京・調布市に引っ越してきたこともあり、地域のコミュニティをあまりよく知りません。 ボランティアなども興味はあるのですが、どこでどんなボランティアが募集されているのか分からず参加できていません。
居場所	仕事と家事の両立 自分だけの時間の確保。
居場所	「たづくり」8階学習室以外にも、調布市の学生が勉強に集中できる場所を確保して欲しい。家庭内や学校ですべての若者が勉強に適した環境を得られるわけではない。また、図書館の蔵書を幅広い分野に対応させて欲しい。昨今人気のライトノベル等を置くこと自体に反対はしないが、それよりも各学術分野の基本書・専門書を置いて欲しい。こういった本は、広く知見を蓄え自己実現へ大変役立つ一方で価格帯が高くなりがちです。1000円前後で買えるライトノベルや漫画を置くよりは、公的機関である図書館が置くのにより適したものであると思う。
図書館	また、図書館の蔵書を幅広い分野に対応させて欲しい。昨今人気のライトノベル等を置くこと自体に反対はしないが、それよりも各学術分野の基本書・専門書を置いて欲しい。こういった本は、広く知見を蓄え自己実現へ大変役立つ一方で価格帯が高くなりがちです。1000円前後で買えるライトノベルや漫画を置くよりは、公的機関である図書館が置くのにより適したものであると思う。
図書館	調布にもデジタル図書館があると嬉しい。
その他	今のところの所感では調布市は非常に子育てしやすい街だと思います。市報等見ても様々な取り組みをしているし、好感が持っています。暮らしやすいですし、結婚を機に移住しましたが、ここに住めて良かったと思っています。

生涯学習	<p>将来的に大学で学び直しをしてみたい。気持ちはあるがお金に余裕を持つことができない。</p> <p>いつもありがとうございます。生まれてからずっと調布で、過ごしやすく大好きな町です。結婚などこれからライフステージが変わっても、出来るだけ調布で暮らしたいと思っています。これからもよろしくお願いします。</p>
政策全般	<p>自分自身が結婚、妊娠した際に子育て等の支援、制度が整えられてほしいと少しずつ考えるようになった。</p> <p>女性だからとキャリアも失いたくないし、子育てもしっかりしたいので、数年の間にそれが市としても国、都としても整ってほしいと思う。</p>
政策全般	<p>就活をする中で大手企業の育児休暇やその他手当は充実していると感じているが、中小企業にパート勤務している母は全く手当がない(そもそも育休という概念が薄い)と言っていたため、中小企業の育休等をサポートするしくみがあればよいと思います。</p>
政策全般	<p>来年出産・育休取得予定ですが、復職後の仕事と子育ての両立。</p>

(2) 市が特に取り組むべきこと

問 33 子どもや若者が希望をもてる調布市となるために、調布市が特に取り組むべきことは何だと思いませんか。【複数回答】

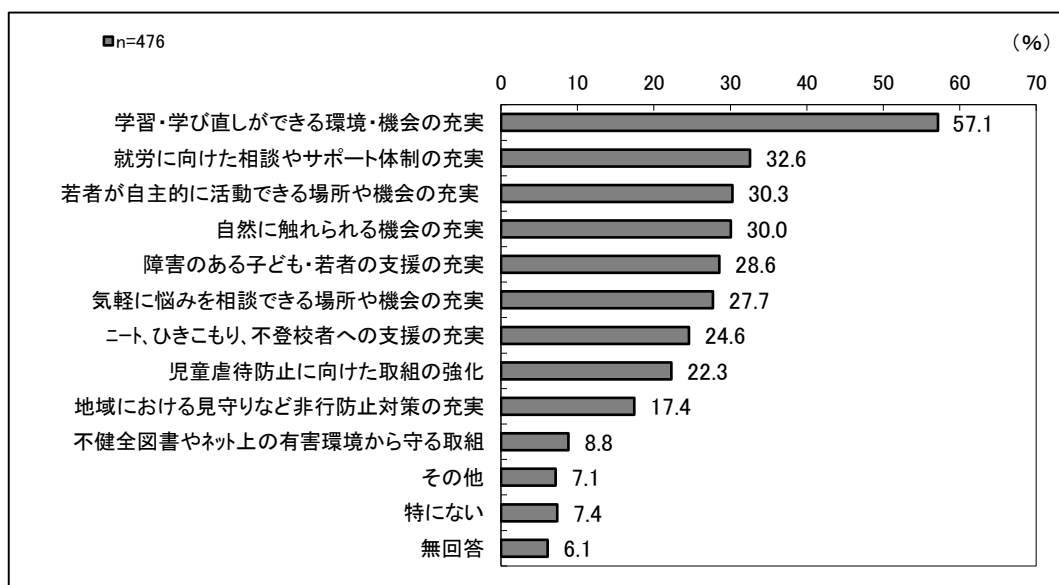


「学習・学び直しができる環境・機会の充実」が57.1%で回答の過半数を占める。

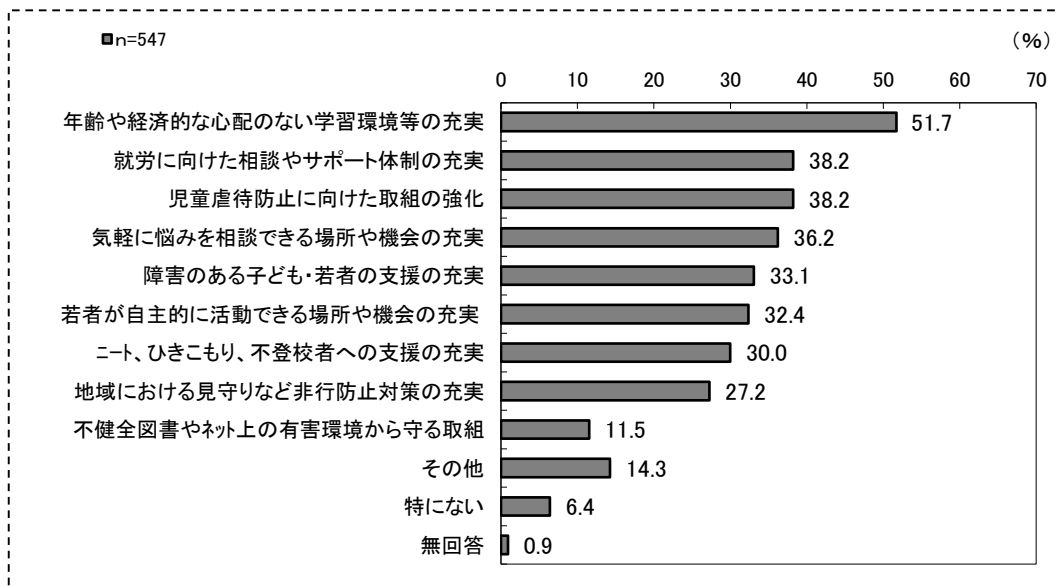
「就労に向けた相談やサポート体制の充実」(32.6%)、「若者が自主的に活動できる場所や機会の充実」(30.3%)、「自然に触れられる機会の充実」(30.0%)、「障害のある子ども・若者の支援の充実」(28.6%)、「気軽に悩みを相談できる場所や機会の充実」(27.7%)、「ニート、ひきこもり、不登校者への支援の充実」(24.6%)、「児童虐待防止に向けた取組の強化」(22.3%)、「地域における見守りなど非行防止対策の充実」(17.4%)、「不健全図書やネット上の有害環境から守る取組」(8.8%)等がこれに続く。

■市が特に取り組むべきこと■

【今回調査】



【前回調査（参考）】



登録番号
(刊行物番号)

2023-259

調布市子ども・若者支援に関するニーズ調査結果報告書

発行日 令和6年3月

発行 調布市

(担当) 子ども生活部児童青少年課

〒182-8511 調布市小島町 2-35-1

TEL 042-481-7536

編集 株式会社ぎょうせい